

## 取扱説明書

このたびは、レカム・マルチメディアホームシステム FXII αTAをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

レカム・マルチメディアホームシステム

# FXII αTA



技術基準適合認証品  
FX2-PCAP <1>

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能






6 ご参考に

# 安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店で求めください。

## 本書中のマーク説明

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 <b>お願い</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。
 <b>お知らせ</b>	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 <b>ワンポイント</b>	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

- ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本商品は、主装置の設定により操作が異なる場合があります。
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本商品を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
- この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。
  - \* Windows® 95は、Microsoft® Windows® 95 operating systemの略です。
  - \* Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
  - \* Windows® 98SEは、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemの略です。
  - \* Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
  - \* Windows® 2000は、Microsoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
  - \* Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0の略です。
  - \* Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  - \* 画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
  - \* Netscape Navigatorは、米国およびその他の諸国のNetscape Communications Corporation社の登録商標です。
  - \* Hayesは米国Hayes Microcomputer Products, Inc.の登録商標です。
  - \* その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

## 警告

- 万一、煙が出ている、へんな臭いがあるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電話機コードを差込口から抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電話機コードを差込口から抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 万一、内部に水などが入ったり、本商品をぬらした場合は、すぐに電話機コードを差込口から抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電話機コードを差込口から抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のご家庭ではご注意ください。
- 本商品を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 異音がしたり、キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電話機コードを差込口から抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- 本商品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

## 警告

- ぬれた手で電話機コードを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 本商品を移動させる場合は、電話機コードを差込口から抜いて、USBケーブルまたはRS-232Cケーブルを外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電話機コード等に次のようなことをしないでください。傷つける、破損する、加工する、無理に曲げる、引っ張る、ねじる、たばねる。また、重い物を乗せたり、加熱したりすると、電話機コード等が破損し、火災・感電の原因となることがあります。電話機コード等が傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

## 注意

- 直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がると、火災の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上面にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 雷が鳴り出したら、電話機コードに触れたり、周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷により感電の原因となることがあります。

# 安全にお使いいただくために必ずお読みください

## 注意

- 本商品や電話機コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電話機コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本商品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
  - じゅうたんや布団の上に置く。
  - テーブルクロスなどをかける。
  - 本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
  - あおむけに置く。
- お手入れをするときは、安全のため必ず電話機コードを差込口から抜いてください。
- 本商品に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。こわれてけがの原因となることがあります。

## お願い

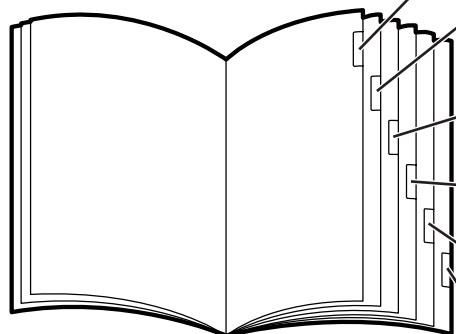
- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 電話機コードなどを引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- コネクタに異物を差し込んだり、端子面を触らないでください。故障の原因となることがあります。
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。

## お願い

- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器、携帯電話など）。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 放送局や無線局などが近く、本商品の誤動作を招くおそれのあるときは、本商品の設置場所を移動してみてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。
- 本商品を積み重ねて使用しないでください。本商品を2台以上使用する場合、積み重ねて設置すると、内部に熱がこもり、キャビネットの表面が熱くなることがあります。

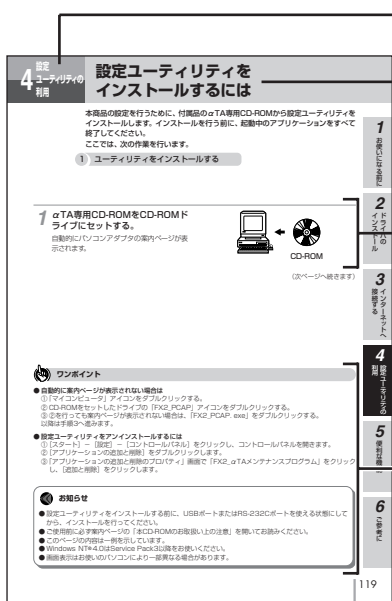
# この取扱説明書の見方

## ■この取扱説明書の構成



- 1 お使いになる前に**  
ご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。
- 2 ドライバのインストール**  
本商品とパソコンを接続して通信を行うためのドライバをインストールする手順について説明しています。
- 3 インターネットへ接続する**  
インターネットへ接続するための準備、手順について説明しています。
- 4 設定ユーティリティの利用**  
設定ユーティリティの機能とその使い方を説明しています。
- 5 便利な機能**  
CTI機能などの機能について説明しています。
- 6 ご参考に**  
ATコマンドの一覧や、故障かな?と思ったときの確認方法などをご参考として説明しています。

## ■操作説明のページの構成



- 章タイトル**  
章ごとにタイトルが付けられています。
- タイトル**  
目的ごとにタイトルが付けられています。
- 操作手順説明**  
順番に操作を説明します。
- ワンポイント/お知らせ/お願い**  
**〈ワンポイント〉**  
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。  
**〈お知らせ〉**  
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示します。  
**〈お願い〉**  
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

# 目次

安全にお使いいただくために	
必ずお読みください	2
この取扱説明書の見方	5

## 1 お使いになる前に

特長	8
セットを確認してください	9
各部の名前	10
接続します	13
接続の手順	13
自己診断	14
通信機能	15
非同期/同期PPP変換	15
128KマルチリンクPPP	16
無通信監視	17
強制切断	17
インターネットへ	
接続するまでの手順	18

## 2 ドライバのインストール

パソコンとの接続について	19
Windows® Me/98SE/98/95で	
RS-232Cポートを使うには	20
Windows® 98SE/98で	
USBポートを使うには	27
Windows® Meで	
USBポートを使うには	43

Windows® 2000で	
USBポートを使うには	53
Windows® 2000で	
RS-232Cポートを使うには	59
WindowsNT® 4.0で	
RS-232Cポートを使うには	65
Windows® でUSBドライバを	
使用できないときは	72
USBドライバを	
再インストールするには	76

## 3 インターネットへ接続する

必要なものを確認する	77
接続の設定をするには	77
接続の設定をする	
(Windows® 98SE/98/95)	78
インターネットに接続する	
(Windows® 98SE/98/95)	93
接続の設定をする(Windows® Me)	96
インターネットに接続する	
(Windows® Me)	102
接続の設定をする	
(Windows® 2000)	104
インターネットに接続する	
(Windows® 2000)	111
接続の設定をする	
(WindowsNT® 4.0)	114
インターネットに接続する	
(WindowsNT® 4.0)	117

## 4 設定ユーティリティの利用

設定ユーティリティを インストールするには	119
設定ユーティリティで 設定を行うには	122
画面の見方	124
設定ユーティリティの各画面は、 次のような関係になっています。	124

インターネットにうまく接続できないときの チェックポイント	151
索引	153
仕様	155
保守サービスのご案内	156

## 5 便利な機能

ルータボックスまたは ルータユニットに接続するには	133
CTI機能を利用するには	134
CTI発信	134
CTI情報出力フォーマット	136

## 6 ご参考に

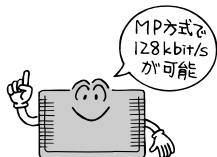
RS-232Cポートインタフェース	137
設定記入シート	138
ATコマンド	139
¥Sのパラメータ詳細	142
\$Mのパラメータ詳細	142
リザルトコード一覧	143
Sレジスタ仕様	143
故障かな?と思ったら	144
Q&A	145

# 特長

本商品は、インターネットサービスプロバイダに接続する装置です。

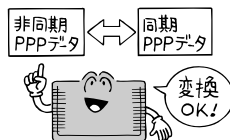
## 128KマルチリンクPPP通信

Multilink Protocol (MP) 方式によりINSネット64の2つのBチャネルを使って128kbit/sの速度で通信できます。(☛P16)



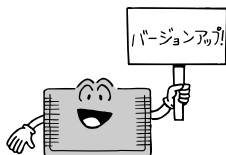
## 非同期/同期PPP変換

非同期/同期PPP変換による同期64kbit/sでインターネットアクセスができます。(☛P15)



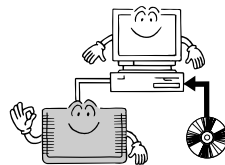
## 設定ユーティリティによる簡単バージョンアップ

フラッシュメモリを使用していますので、設定ユーティリティを使って簡単にソフトウェアのバージョンアップを行うことができます。バージョンアップソフトウェアは「オンラインバージョンアップサービス」として供給していく予定です。(☛P129)



## 設定ユーティリティで簡単設定

設定ユーティリティで簡単に設定を行うことができます。(☛P119)



## USB/RS-232C自動切替

パソコンのインタフェースを検出し、自動的にインタフェースを切り替えます。

## CTI機能

接続したパソコンで標準電話機の発信やかかってきた電話番号の表示ができます。(☛P134)

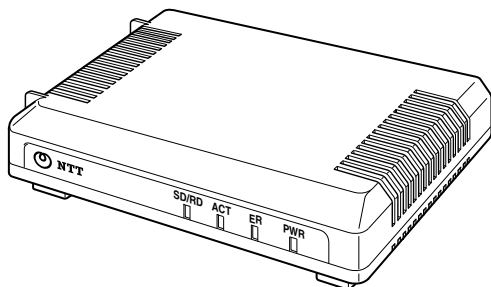
## お知らせ

- 本商品は、主装置がINSネット64回線に接続されているときや、ルータボックスまたはルータユニットを接続しているときに利用できます。

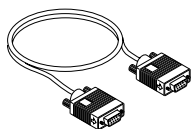


# セットを確認してください

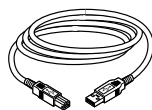
## ■本体



## ■付属品



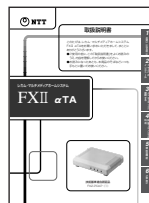
RS-232Cケーブル (1本)



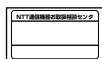
USBケーブル (1本)



CD-ROM (1枚)  
専用CD-ROMの使い方 (1部)



取扱説明書  
(1部)



NTN通信機器  
お取扱相談センターシール  
(1枚)

●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

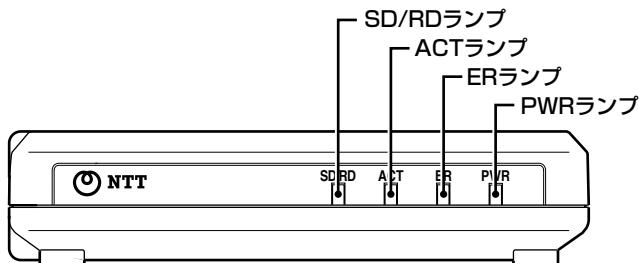
4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

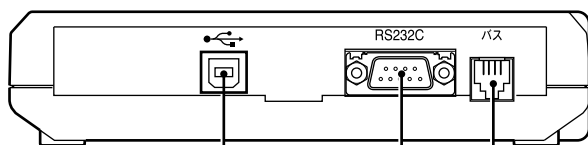
6 ご参考に

## 各部の名前

### 【前面】




### 【背面】



内線バス接続コネクタ (バス)  
主装置と本商品の接続に使用するコネクタ (●P13)

RS-232Cポートコネクタ (RS-232C)  
RS-232Cケーブルでパソコンを接続します。(●P13)

USBポートコネクタ (●)  
USBケーブルでパソコンを接続します。(●P13)



### ワンポイント

#### ● RS-232CポートとUSBポート

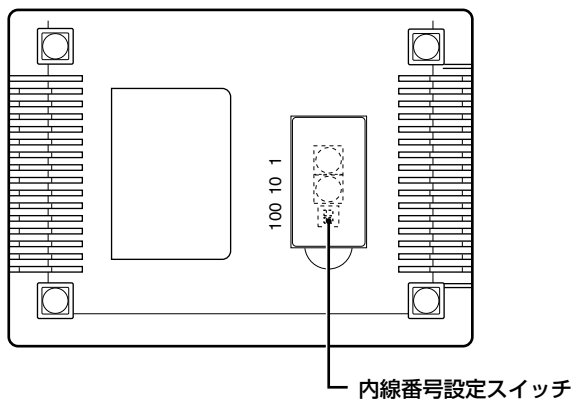
- RS-232Cポートは、モデムやターミナルアダプタなどの通信機器を接続する標準の規格として、多くのパソコンに装備されています。
- USBポートは、Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000に対応したパソコンに接続できます。



### お知らせ

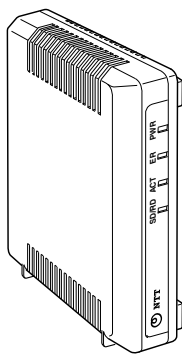
- RS-232CポートとUSBポートを同時に接続した場合は、USBポートが優先されます。

## 【底面】



### **STOP** お願い

- 本線番号設定は、工事者による設定となります。変更されると、ご利用できなくなります。



### **ワンポイント**

- 本商品は縦置きもできます。縦置きするときは図のように本体左側を下にして設置してください。ただし縦置きは標準の平置きに比べ、倒れやすくなりますので、ご注意ください。

1 お使いになる前に

2 ドライバの  
インストール

3 インターネットへ  
接続する

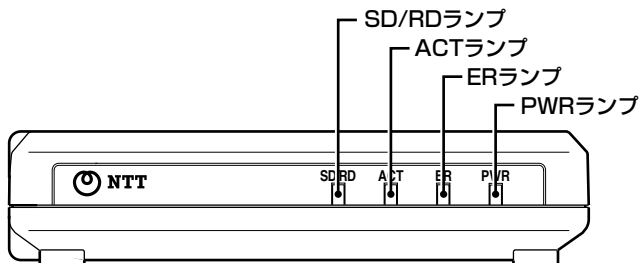
4 設定ユーティリティの  
利用

5 便利な機能

6 ご参考に

# 各部の名前

## 【ランプ表示】



ランプの種類	ランプのつき方	パソコンアダプタの状態
PWRランプ	点灯(緑)	正常動作中
	遅い点滅(緑)	自己診断中
	速い点滅(緑)	発信中、着信中
	消灯	電源が供給されていないとき(電話機コードを抜いたり、主装置の電源を切ったとき)
ERランプ	点灯(緑)	接続されているパソコンのER信号がオンの状態
ACTランプ	点灯(緑)	非同期/同期PPP変換による通信中
	点灯(赤)	128KマルチリンクPPP通信による通信中
	点灯(橙)	ルータボックスまたはルータユニットが通信中
	遅い点滅(赤)	ファームウェアバージョンアップ中
	速い点滅(赤)	ファームウェアバージョンアップ中のエラー等
SD/RDランプ	点灯(緑)	データ送信中
	点灯(赤)	データ受信中
	遅い点滅(赤)	ファームウェアバージョンアップ中
	速い点滅(赤)	ファームウェアバージョンアップ中のエラー等



### ワンポイント

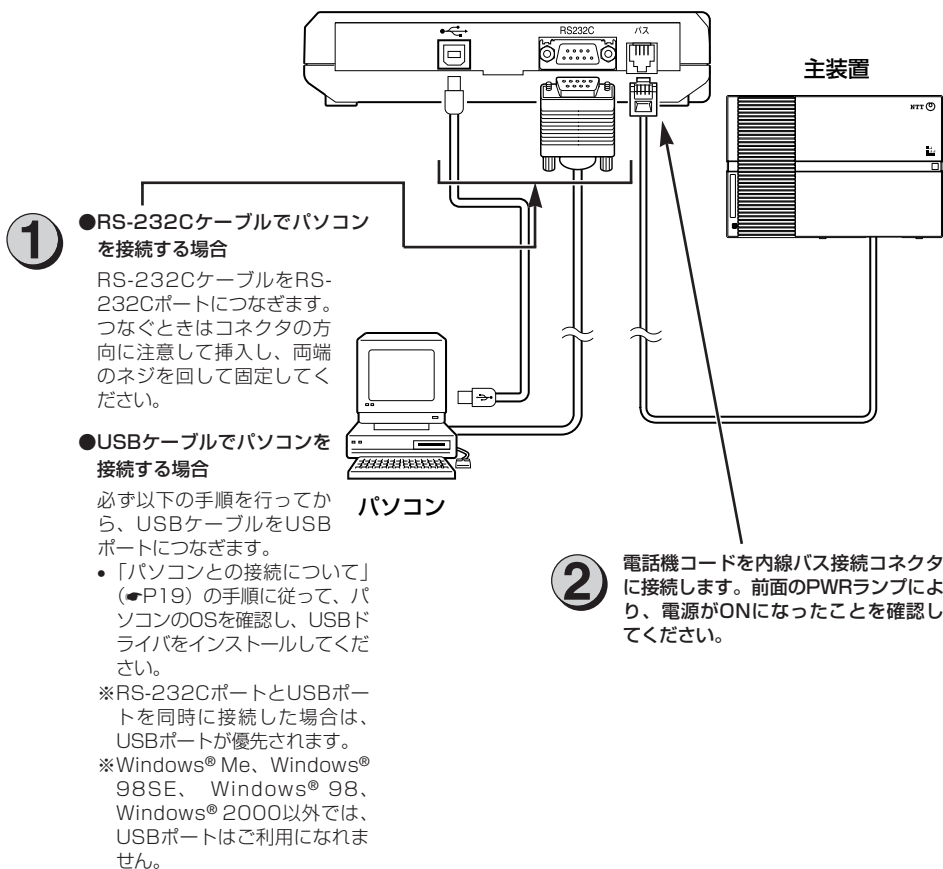
- ランプの点滅のしかたについて
  - 遅い点滅：1秒間に約1回の点滅
  - 速い点滅：1秒間に約4回の点滅

# 接続します

## ■パソコンを接続するとき

必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてから接続してください。

### 接続の手順



●本図は、各機器の接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況にあわせる必要があるため、本図と異なる場合があります。

## 接続します

### ■ RS-232Cポートにパソコンを接続するケーブル

付属品のRS-232Cケーブルで、パソコンのRS-232Cポート（9ピン）に接続します。

### ■ USBポートにパソコンを接続するケーブル

接続する前に以下のことを行ってください。

- パソコンのOSを確認し、USBドライバをインストールする（●P19）  
付属品のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートに接続します。



#### お知らせ

- USB接続は、Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000を搭載したパソコンのみ利用可能です。
- RS-232CポートとUSBポートを同時に接続した場合は、USBポートが優先されます。
- RS-232Cポートで通信終了後しばらくの間、USBポートへの自動切り替えは行えません。
- RS-232Cポートで使用する場合は、ハードウェアフロー制御でご使用ください。



#### お願い

- パソコンとの接続には付属品のケーブルをご使用ください。また、接続するパソコンによっては専用のケーブル、アダプタ等が必要な場合があります。
- バスには内線バス以外を接続しないでください。
- バスに接続する電話機コードは、内線バス専用のコードをご使用ください。
- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- 2台のパソコンへ同時には接続しないでください。
- RS-232Cポートを使用しているときは、USBポートにケーブルを接続しないでください。

### 自己診断

本商品には電源スイッチがありません。電話機コードを本商品に接続し主装置の電源スイッチをオンにすると、電源が供給されます。

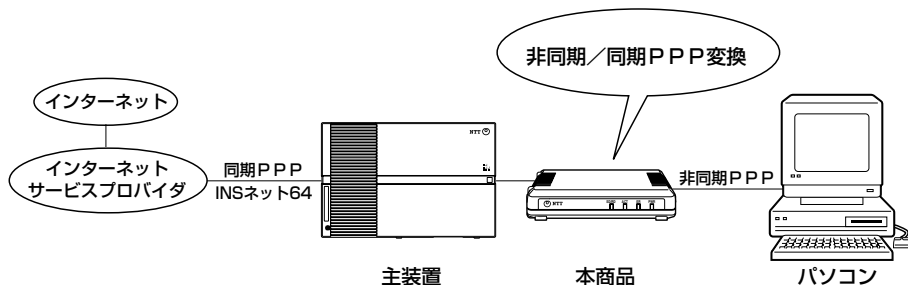
電源が供給されると、自動的に自己診断が行われ、自己診断が終了するとPWRランプが点灯します。PWRランプがいつまでも遅い点滅をしているときは、本商品の異常が考えられます。当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

# 通信機能

本商品は、インターネットサービスプロバイダに、非同期／同期PPP変換、または128KマルチリンクPPPの通信モードで接続できます。  
通信モードは、設定ユーティリティを使って設定します。

## 非同期／同期PPP変換

本商品は、パソコンからの非同期PPP (Point to Point Protocol) データを同期PPPデータ (64kbit/s) に変換し、相手に送信します。また、この逆の動作も行います。これにより、非同期PPP接続機能があるパソコンを同期64kbit/sのダイヤルアップIPアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続することができます。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

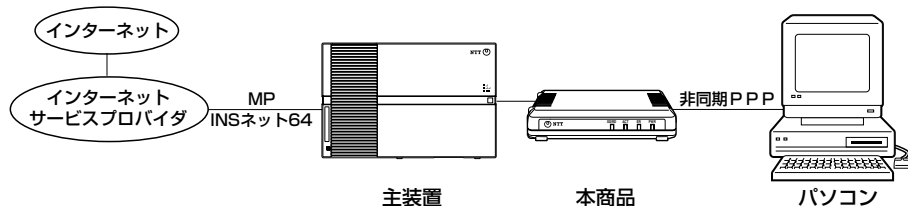
6 ご参考に

### お知らせ

- 非同期／同期PPP変換では、本商品とパソコン間の通信速度は115.2kbit/s以上でご使用されることをおすすめします。

## 128KマルチリンクPPP

マルチリンクプロトコル (MP) 方式のダイヤルアップIPアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときは、B1、B2チャンネル2本を使用してMP128kbit/sのデータ通信ができます。



### お知らせ

- RS-232Cポートで通信する場合、128KマルチリンクPPPでは本商品とパソコン間の通信速度は230.4kbit/sでご使用されることをおすすめします。お使いになるパソコンが230.4kbit/sに対応していないときは、230.4kbit/sに対応した市販の高速RS-232Cボードを購入してください。
- 128KマルチリンクPPPで通信時には非同期/同期PPP変換の2倍の通信料金が必要となります。
- 128KマルチリンクPPPで発信するときは、以下の設定をしてください。(☛P127、128)
  - ・128kbit/s MP通信 ……「する」
  - ・最大使用チャンネル数 ……「2チャンネル」
- 128KマルチリンクPPPで通信時に、Bチャンネルの内1本が使用されているときは、残りのBチャンネル1本の64kbit/sの通信になります。

### お知らせ

- インターネットサービスプロバイダへのアクセスポイント電話番号は、相手先番号の前に「0」をつけて登録してください。
- 本商品をサーバ側として使用 (Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98のダイヤルアップサーバ、Windows® 2000またはWindows NT® 4.0のリモートアクセス管理) するときは、以下の設定をしてください。(☛P126、127)
  - ・RING表示 ……「RINGのみ」
  - ・着信自動応答回数 ……「0 (自動応答しない)」



## 無通信監視

通信相手とデータのやりとりがないとき（無通信状態）に、通信を切断することができます。無通信状態を監視する場合は、監視時間（1～10分）を分単位で設定することができます。（▶P127）インターネットサービスプロバイダによっては監視パケットなどを定期的に発信する場合があります、この場合は切断されませんので、必ずパソコンから切断操作をするか、強制切断機能をご利用ください。

## 強制切断

通信時間が設定した時間を超えたとき、強制的に通信を切断させることができます。設定ユーティリティを使って、強制切断時間を1～10時間の範囲で設定します。（▶P128）強制切断時間の初期値は10時間です。設定値が0のとき、強制切断は行われません。

# インターネットへ接続するまでの手順

ご使用のOSに付属しているソフトウェアで、インターネットに接続する手順について説明しています。

本商品を使ってインターネットへ接続するまでの手順は、次のようになります。



プロバイダ

## プロバイダへ加入する

- インターネットサービスプロバイダ（プロバイダともいいます）は、インターネットへの接続業者です。インターネットに接続するには、プロバイダに加入する必要があります。
- プロバイダへ加入すると、ユーザID、パスワード、DNSサーバのIPアドレス、アクセスポイントの電話番号などの情報が通知されます。
- 料金やアクセスポイント、128 KマルチリンクPPP（MP）（☛P16）対応などを調べて、適したプロバイダを選択してください。詳細は、加入するプロバイダへお問い合わせください。



パソコン

## パソコンとの接続方法を決める

- RS-232Cポートに接続する方法、USBポートに接続する方法があります。
- USBポートをご利用になる場合は、お使いのパソコンがUSBポートを備えているか、お使いの基本ソフト（OS）がUSBで使用可能かどうかをご確認ください。
- USBポートは、Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000でご利用になれます。



CD-ROM

## 必要なソフトウェアをインストールする（☛P19）



設定

## インターネットへ接続するための設定を行う

- インターネット接続に必要なソフトウェア（TCP/IPソフトウェア、PPPモジュール）がパソコンにインストールされているかどうかを確認します。必要なソフトウェアがない場合は、各ソフトウェアのCD-ROMなどからインストールします。
- プロバイダから通知された情報をもとに、インターネットへ接続するための設定を行います。  
Windows® Me（☛P96） Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 95（☛P78） Windows® 2000（☛P104） Windows NT® 4.0（☛P114）



Internet

## インターネットへ接続する

- INSネット64回線を使ってインターネットへ接続します。
- ルータボックスまたはルータユニットを使うことで、OCNエコノミーやADSL、CATV等を経由してインターネットへ接続します。
- インターネットのさまざまなサービスをご利用になるには、各サービス用のソフトウェアが必要です。別途ソフトウェアをご用意ください。

本商品とパソコンを接続して通信を行うには、ご使用のパソコンに合ったソフトウェアをインストールする必要があります。

## ■ パソコンのOSと使用できるデータポート

本商品は、RS-232Cポート、USBポートにそれぞれパソコンを接続することができます。ただし、USBポートはパソコンのOSによって使用できない場合があります。次の表でパソコンのOSと使用できるポートを確認してください。

パソコンのOS	使用できるデータポート	接続と設定方法
Windows® Me	USBポート	P43
	RS-232Cポート	P20
Windows® 98SE	USBポート	P27
	RS-232Cポート	P20
Windows® 98	USBポート	P27
	RS-232Cポート	P20
Windows® 95	RS-232Cポート	P20
Windows® 2000	USBポート	P53
	RS-232Cポート	P59
Windows NT® 4.0	RS-232Cポート	P65

## ■ ご使用のOSを確認するには

使用しているパソコンの基本ソフト（OS：オペレーティングシステム）がわからない場合は、次の手順で確認してください。

- Windows® Me、98SE、98、95、Windows® 2000、Windows NT® 4.0の場合
  - ① [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。
  - ② [システム] アイコンをダブルクリックする。
  - ③ [システムのプロパティ] 画面の [全般] で、バージョンを確認する。
 ※お使いのパソコンによっては、[全般] の部分が [情報] と表示される場合があります。



### ワンポイント

#### ● USBポートをご利用になるには

本商品のUSBポートに接続するパソコンは、以下の条件を備えている必要があります。

- パソコンがUSBポートを備えていること
- 次のいずれかのOSがインストールされていること

Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000

# Windows® Me/98SE/98/95で RS-232Cポートを使うには

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

操作手順、画面はWindows® Meの例です。Windows® 98SE、98、95でも同様の手順で行うことができます。

1 内線バスに接続する（←P13）

2 RS-232Cポートに接続する

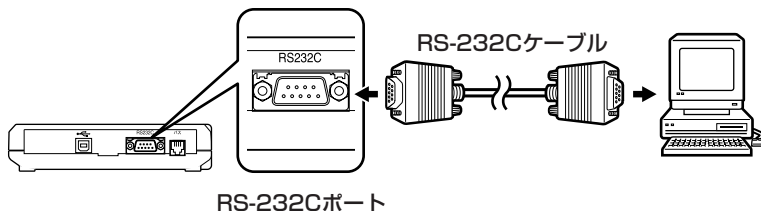
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。

3 モデム定義ファイルをインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



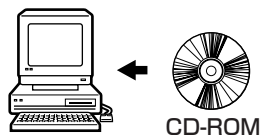
### STOP お問い合わせ

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。

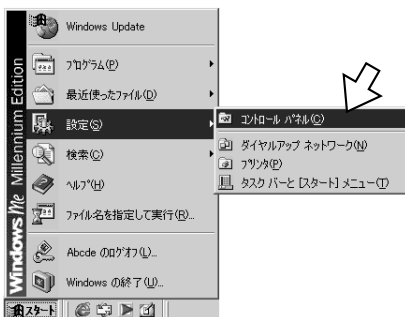
## モデム定義ファイルをインストールする

- 1 パソコンの電源を入れ、αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



- 2 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



- 3 [モデム] アイコンをダブルクリックする。

[モデムのプロパティ] 画面が表示されます。これまで、モデムがセットアップされていなかったときなどは、[モデムのプロパティ] 画面が表示されずに [新しいモデムのインストール] (Windows® 95では [モデムウィザード]) が表示されますので、手順5の [新しいモデムのインストール] 画面が表示されたところへ進みます。



### お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

## 4 [追加] をクリックする。

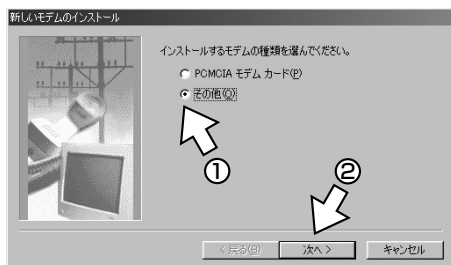
[新しいモデムのインストール] (Windows® 95では [モデムウィザード]) 画面が表示されます。



## 5 右の画面が表示された場合は、[その他] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

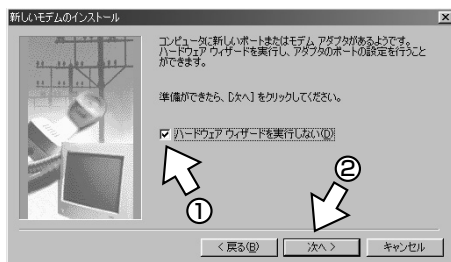
デスクトップパソコンの場合、右の画面が表示されずに手順6または手順7の画面が表示されることがあります。

その場合は、表示された画面の手順へ進みます。

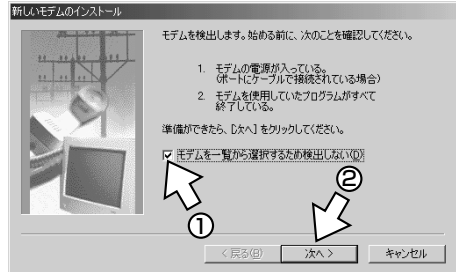


## 6 [ハードウェアウィザードを実行しない] をチェックし、[次へ>] をクリックする。

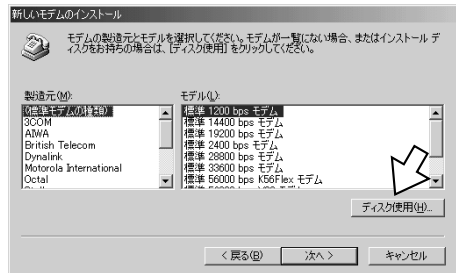
ここで手順7の画面が表示された場合は、手順7に進みます。



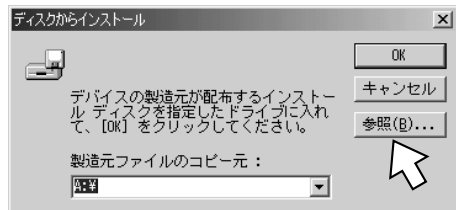
## 7 [モデムを一覧から選択するので検出しない] をチェックして、[次へ>] をクリックする。



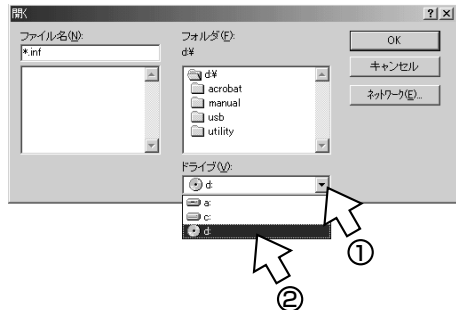
## 8 [ディスク使用] をクリックする。



## 9 [参照] をクリックする。



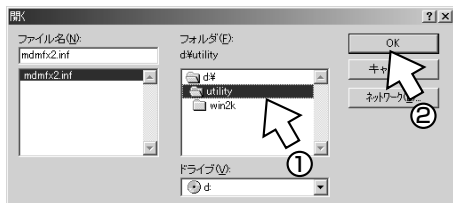
## 10 [ドライブ] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



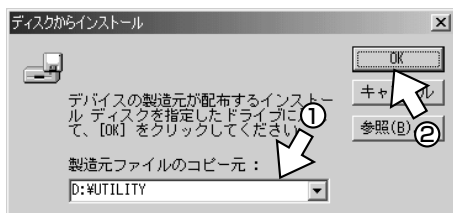
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

**11** [utility] フォルダをダブルクリックして [OK] をクリックする。



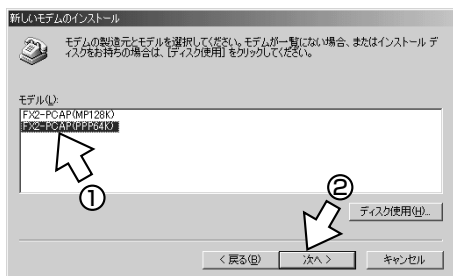
**12** [製造元ファイルのコピー元] に [UTILITY] と表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



**13** 次のいずれかをクリックし、[次へ>] をクリックする。

ご利用になる通信機能 (●P15) に合わせて、モデム定義ファイルを選択してください。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (MP128K)]



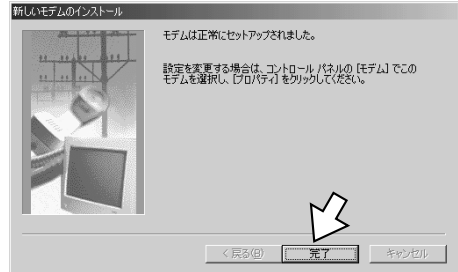
**14** [モデムを接続するポート] の中から、本商品を接続した通信ポートをクリックし、[次へ>] をクリックする。

[所在地情報] 画面が表示された場合は、ご使用環境に合わせて正しく設定してください。





## 15 [完了] をクリックする。



## 16 FX2-PCAP (PPP64K) をクリックし、[ダイヤルのプロパティ] をクリックする。



## 17 [所在地情報] をご使用環境に合わせて正しく設定し、[OK] をクリックする。

[登録名] には使用する場所などの名称を入力します。



(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

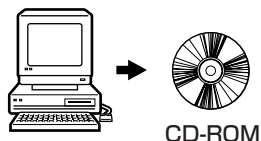
## 18 [モデムのプロパティ] 画面に戻るので [閉じる] をクリックする。

[閉じる] は [OK] と表示される場合もあります。



## 19 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、以下の手順に進みます。

- ・インターネットへ接続する (☛P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (☛P119)

# Windows® 98SE/98で USBポートを使うには

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

- 1 内線バスに接続する (←P13)
- 2 COMドライバをインストールする
- 3 USBドライバをインストールする
- 4 モデム定義ファイルをインストールする

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

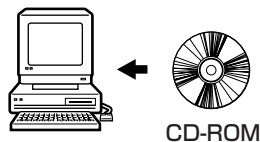
4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

## COMドライバをインストールする

1 αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



2 コントロールパネルの【ハードウェアの追加】アイコンをダブルクリックする。

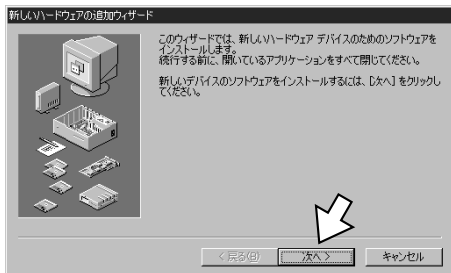
「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。



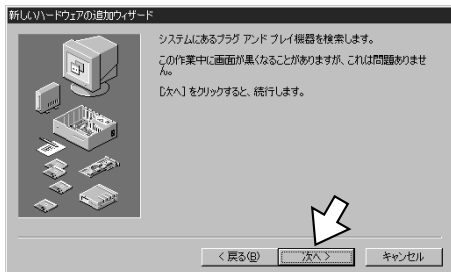
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

## 3 [次へ>] をクリックする。

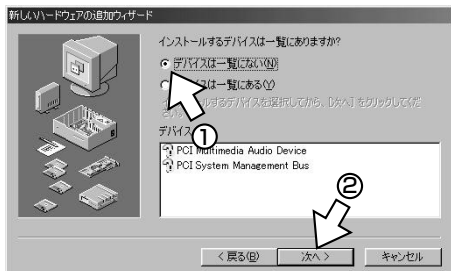


## 4 [次へ>] をクリックする。



## 5 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合は、[デバイスは一覧にない] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

表示されない場合は、手順6に進みます。



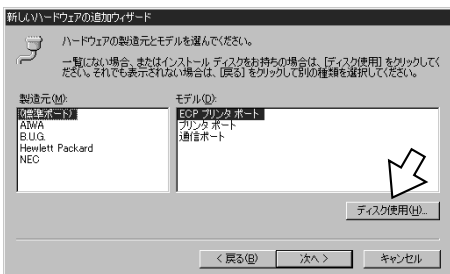
## 6 [いいえ (一覧から選択する)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



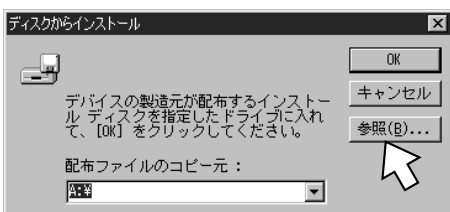
7 [ポート (COM/LPT)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



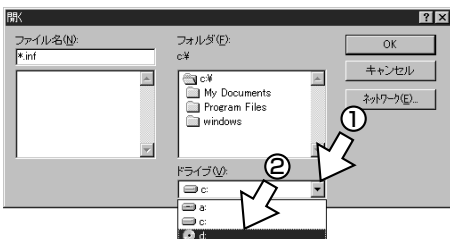
8 [ディスク使用] をクリックする。



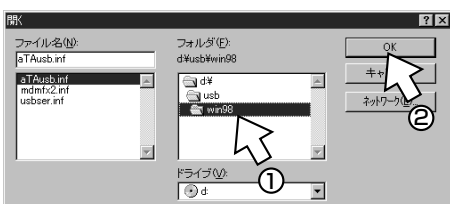
9 [参照] をクリックする。



10 [ドライブ] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



11 [usb] フォルダをダブルクリックして、[win98] フォルダをダブルクリックし、[OK] をクリックする。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

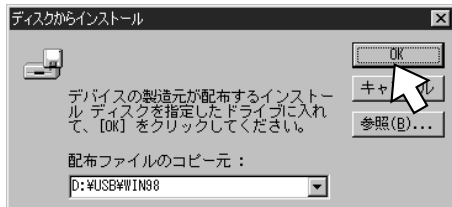
4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

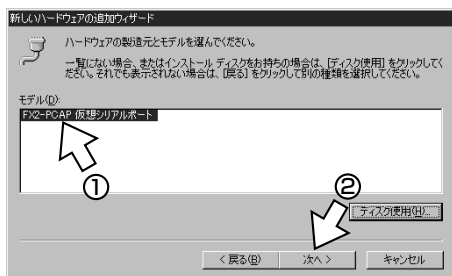
6 ご参考に

(前ページの続きです)

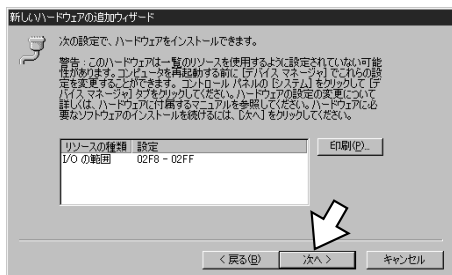
12 [OK] をクリックする。



13 [FX-2-PCAP 仮想シリアルポート] が表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックする。



14 [次へ>] をクリックする。

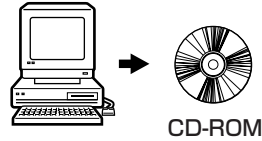


15 [完了] をクリックする。

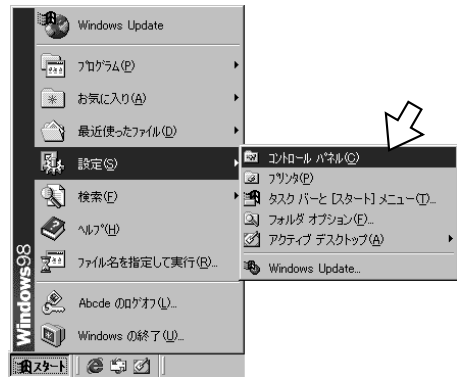


## 16 CD-ROMを取り出し、【はい】をクリックする。

パソコンが終了しますので、再度パソコンを起動します。



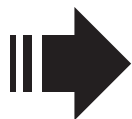
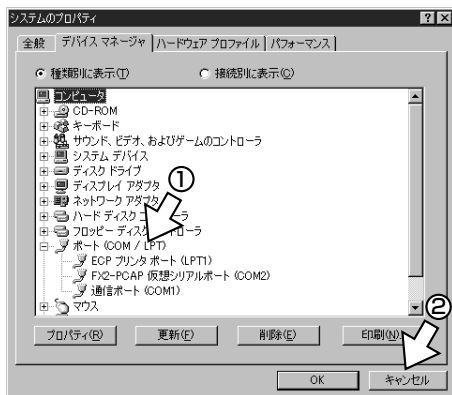
## 17 【スタート】ボタンをクリックして、【設定】 - 【コントロールパネル】をクリックする。



## 18 【システム】アイコンをダブルクリックする。



(前ページの続きです)

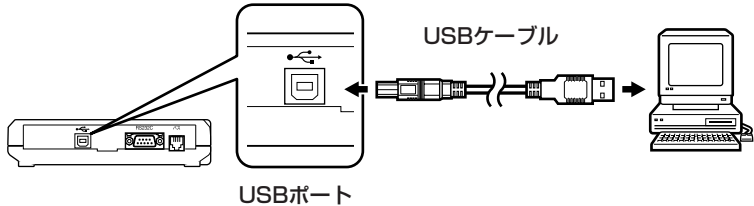
19 [デバイスマネージャ] をクリック  
する。20 「ポート (COM/LPT)」内に「FX2-  
PCAP 仮想シリアルポート  
(COMx)」が表示されていることを  
確認し、[キャンセル]をクリックする。  
「ポート (COM/LPT)」の下に何も表示さ  
れていない場合は、左側の＋アイコンをク  
リックします。引き続き「USBドライバをインストールする」(P33)へ進  
みます。



## USB ドライバをインストールする

### 1 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。



### 2 [次へ>] をクリックする。

[USB互換デバイス] と表示されないときは、[キャンセル] をクリックして画面を閉じてP76の操作によりUSBドライバを削除したあと、手順1から操作し直してください。

※[USB互換デバイス] は [USB Composite Device] などと表示される場合もあります。



(次ページへ続きます)



#### ワンポイント

- 【新しいハードウェアの追加ウィザード】画面が表示されない場合は「Windows®でUSBドライバを使用できないときは」(P72)の症状の項目を参照してください。



#### お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

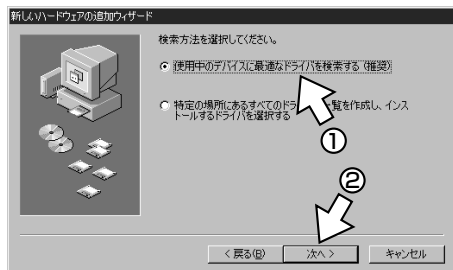


#### お願い

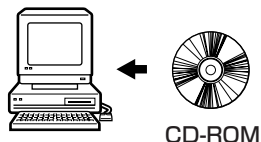
- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSがWindows® 98SE、またはWindows® 98であることを確認してください。(P19)

(前ページの続きです)

- 3** [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



- 4** αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。

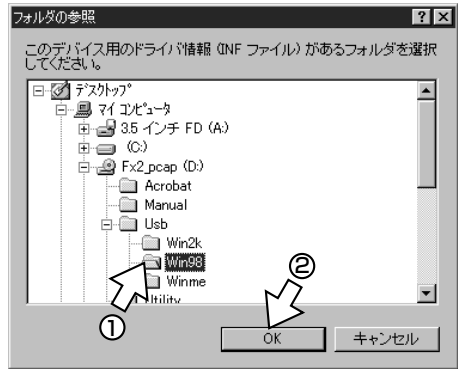


- 5** [検索場所の指定] のみをチェックして [参照] をクリックする。



## 6 CD-ROMの [Usb] フォルダの中 の [Win98] フォルダをクリック し、[OK] をクリックする。

[Win98] フォルダが表示されていない場合は、[Usb] の左にある+アイコンをクリックします。



## 7 [次へ>] をクリックする。

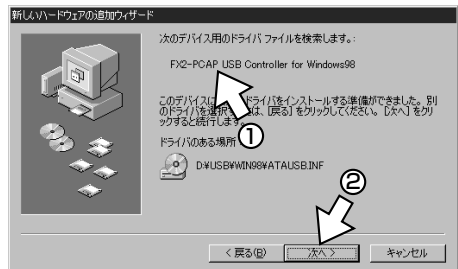
「このデバイス用のドライバが見つかりません」と表示されたときは「Windows® でUSB ドライバを使用できないときは」(P72)をご覧ください。



## 8 [更新されたドライバ (推奨)] を クリックし、[次へ>] をクリック する。



## 9 [FX2-PCAP USB Controller for Windows98] が表示されて いることを確認し、[次へ>] をク リックする。



(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

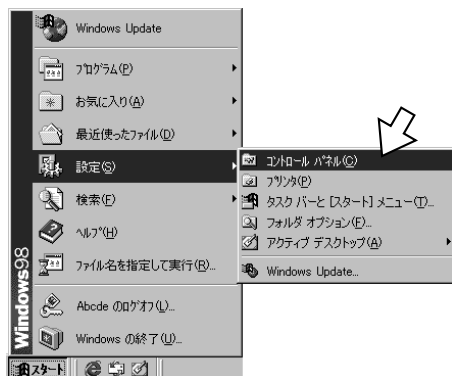
6 ご参考に

(前ページの続きです)

10 [完了] をクリックする。



11 [スタート] ボタンをクリックして [設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



12 [システム] アイコンをダブルクリックする。

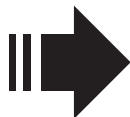
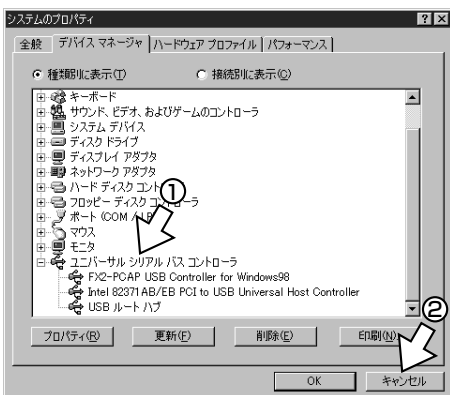


### 13 [デバイスマネージャ] をクリックする。



### 14 [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] 内に [FX2-PCAP USB Controller for Windows98] が表示されていることを確認し、[キャンセル] をクリックする。

[ユニバーサルシリアルバスコントローラ] の下に何も表示されない場合は、左側の+アイコンをクリックします。



引き続き「モデム定義ファイルをインストールする」(P38)へ進みます。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティを利用

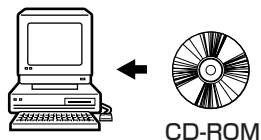
5 便利な機能

6 ご参考に

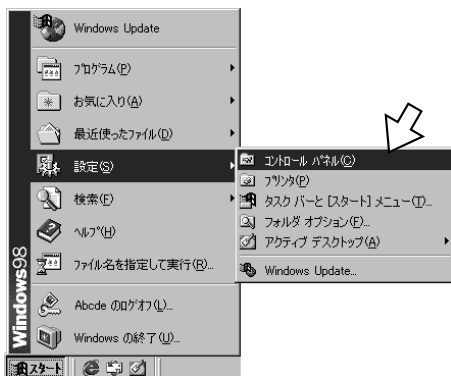
## モデム定義ファイルをインストールする

### 1 αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



### 2 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



### 3 [モデム] アイコンをダブルクリックする。

[モデムのプロパティ] 画面が表示されます。これまで、モデムがセットアップされていなかったときなどは、[モデムのプロパティ] 画面が表示されずに [新しいモデムのインストール] が表示されますので、手順5の [新しいモデムのインストール] 画面が表示されたところへ進みます。



## 4 [追加] をクリックする。

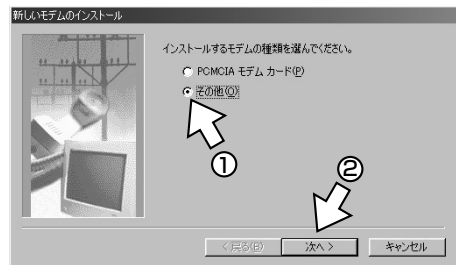
[新しいモデムのインストール] 画面が表示されます。



## 5 [その他] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

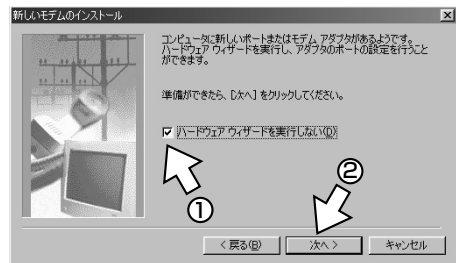
デスクトップパソコンの場合、右の画面が表示されずに手順6または手順7の画面が表示されることがあります。

その場合は、表示された画面の手順へ進みます。



## 6 [ハードウェアウィザードを実行しない] をチェックし、[次へ>] をクリックする。

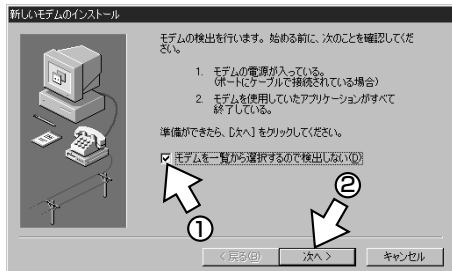
ここで手順7の画面が表示された場合は、手順7へ進みます。



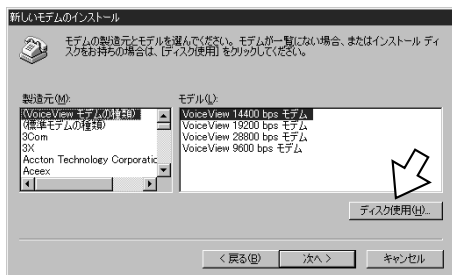
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

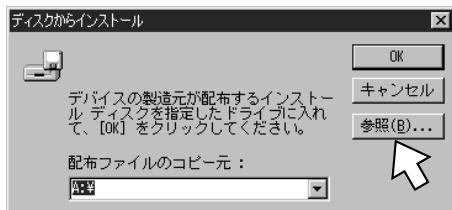
7 [モデムを一覧から選択するので検出しません] をチェックして、[次へ] をクリックする。



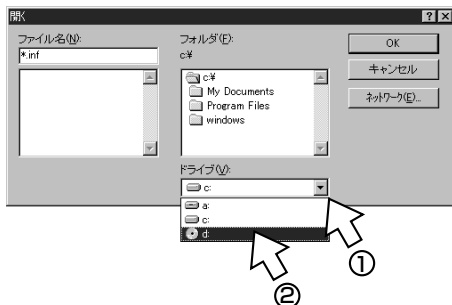
8 [ディスク使用] をクリックする。



9 [参照] をクリックする。

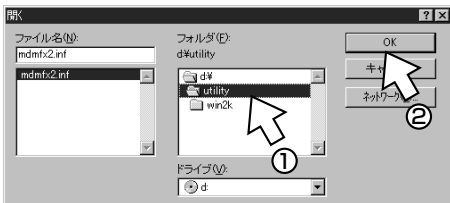


10 [ドライブ] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。

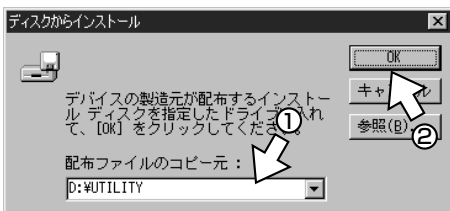




## 11 [utility] フォルダをダブルクリックして [OK] をクリックする。



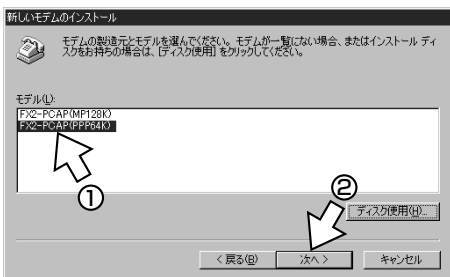
## 12 [配布ファイルのコピー元] に [UTILITY] と表示されているのを確認し、[OK] をクリックする。



## 13 次のいずれかをクリックし、[次へ>] をクリックする。

ご利用になる通信機能 (P15) に合わせて、モデム定義ファイルを選択してください。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (MP128K)]



## 14 [モデムを接続するポート]の中から、[FX2-PCAP仮想シリアルポート (COMx)]をクリックし、[次へ>]をクリックする。

[所在地情報] 画面が表示された場合は、ご使用環境に合わせて正しく設定してください。



(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

## 15 [完了] をクリックする。



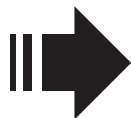
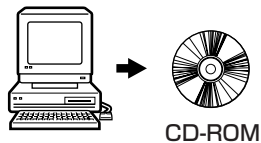
## 16 [モデムのプロパティ] 画面に戻る ので [閉じる] をクリックする。

[閉じる] は [OK] と表示される場合もあります。



## 17 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、以下の手順に進みます。

- ・インターネットへ接続する (●P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (●P119)

Windows® Meで  
USBポートを使うには

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

## 1 内線バスに接続する (←P13)

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

## 2 USBドライバをインストールする

## 3 モデム定義ファイルをインストールする

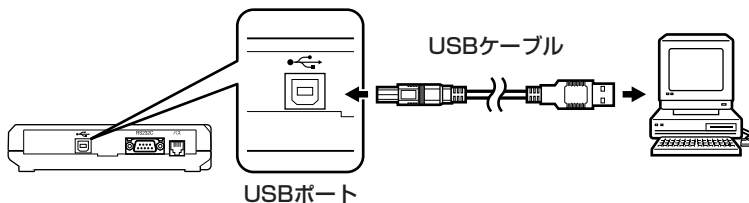
## USBドライバをインストールする

## 1 パソコンの電源を入れる。

Windows®が起動することを確認します。

## 2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。



## ワンポイント

## ● [新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されない場合は

「Windows®でUSBドライバを使用できないときは」(←P72)の症状の項目を参照してください。



## お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

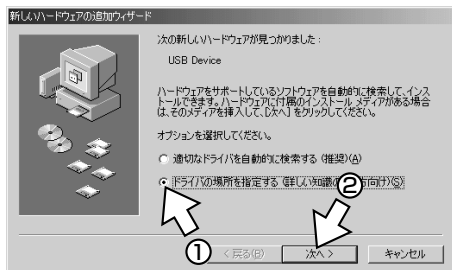


## お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSがWindows® Meであることを確認してください。(←P19)

(前ページの続きです)

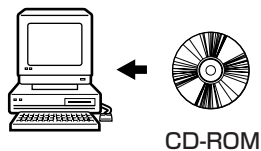
3 [ドライバの場所を指定する (詳しい知識のある方向け)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。



4 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をクリックする。



5 αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



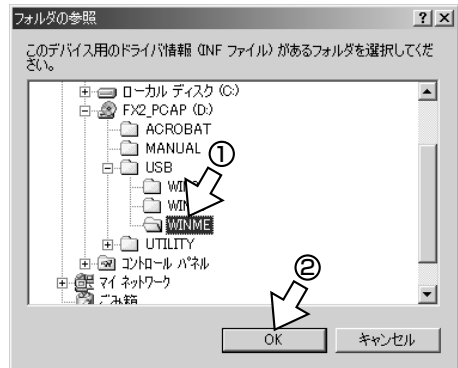
## 6 [検索場所の指定] のみをチェックして [参照] をクリックする。

[リムーバブルメディア (フロッピー、CD-ROMなど)] がチェックされている場合は、必ずチェックを外してください。

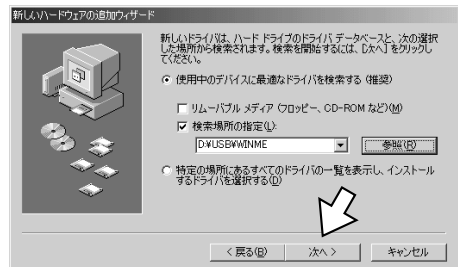


## 7 CD-ROMの [USB] フォルダの中の [WINME] フォルダをクリックし、[OK] をクリックする。

[WINME] フォルダが表示されていない場合は、[USB] の左にある+アイコンをクリックします。



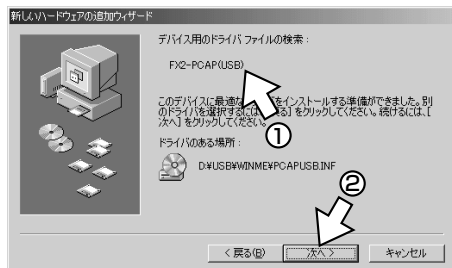
## 8 [次へ>] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 9 [FX2-PCAP (USB)] が表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックする。

ここで、Windows® のCD-ROMを入れるように画面が表示された場合は、指示に従ってCD-ROMを入れ替えてください。「このデバイス用のドライバが見つかりません」と表示されたときは「Windows® でUSBドライバを使用できないときは」(●P72)をご覧ください。



## 10 [完了] をクリックする。

モデムのインストールが自動的に開始され、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。



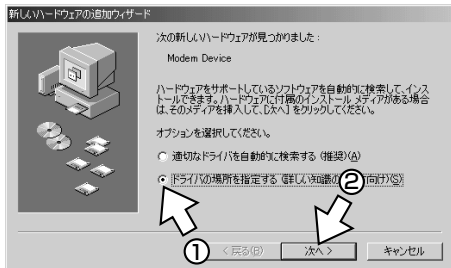
引き続き「モデム定義ファイルをインストールする」の手順1 (●P47) へ進みます。

## モデム定義ファイルをインストールする

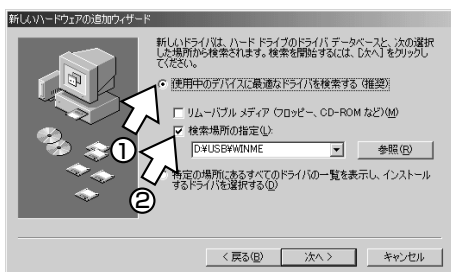
同期64 kbit/s (●P15) のモデム定義ファイルをインストールします。MP128 kbit/s (●P16) のアクセスポイントへ接続する場合は、手順4のあと「128KマルチリンクPPPのモデム定義ファイルをインストールする」(●P51) へお進みください。

### 1 [ドライバの場所を指定する (詳しい知識のある方向け)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

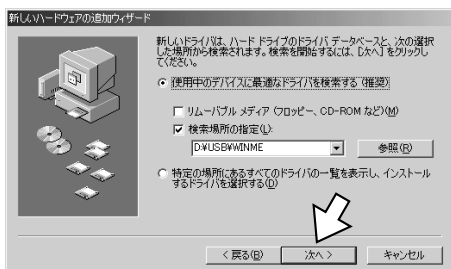
前ページの手順9でCD-ROMを入れ替えた場合は、再びαTA専用CD-ROMに入れ替えてください。その際、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



### 2 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] が選択され、[検索場所の指定] のみがチェックされていることを確認する。



### 3 [次へ>] をクリックする。



(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

4 [FX2-PCAP (USB PPP64K)]  
と表示されていることを確認する。

ご利用になる通信機能 (●P15) に合わせて、モデム定義ファイルを選択することができます。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (USB PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (USB MP128K)]

[FX2-PCAP (USB MP128K)] を選択する場合は、「128KマルチリンクPPPのモデム定義ファイルをインストールする」(●P51) へお進みください。

5 [FX2-PCAP (USB PPP64K)]  
を選択する場合は [次へ >] をクリックする。

## 6 [次へ &gt;] をクリックする。

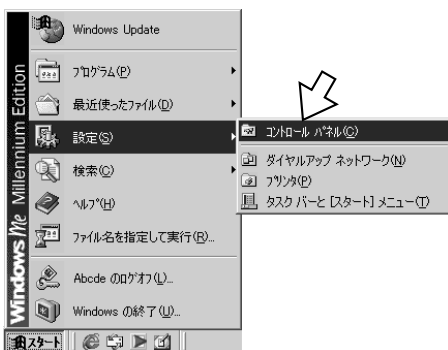


## 7 [完了] をクリックする。



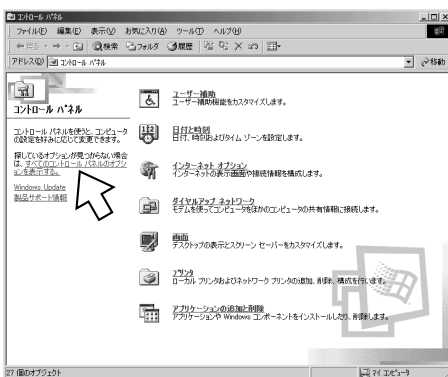


## 8 [スタート] ボタンをクリックし、 [設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



## 9 [すべてのコントロールパネルのオ プションを表示する] をクリック する。

手順10のように表示されている場合は、こ  
の操作は不要です。



## 10 [システム] アイコンをダブルクリッ クする。



1 お使いになる前に

2 ドライバの  
インストール

3 インターネットへ  
接続する

4 設定ユーティリティの  
利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

## 11 [デバイスマネージャ] をクリックする。



## 12 次のように表示されていることを確認し、[キャンセル] をクリックする。

[モデム]、[WDM] の下に何も表示されていない場合は、左側の+アイコンをクリックします。

### [モデム]

[FX2-PCAP (USB PPP64K)] または [FX2-PCAP (USB MP128K)]

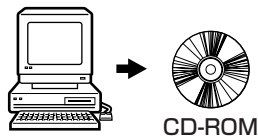
### [WDM]

[FX2-PCAP (USB)]



## 13 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、以下の手順に進みます。

- ・インターネットへ接続する (●P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (●P119)

## 1 128KマルチリンクPPPのモデム定義ファイルをインストールする

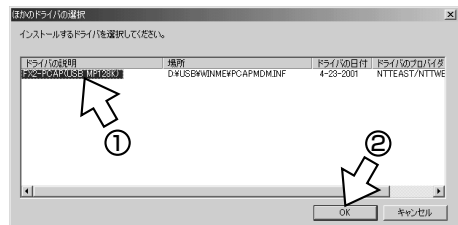
MP128 kbit/s (P16) のアクセスポイントに接続する場合は、同期64 kbit/s (P15) の代わりにMP128 kbit/sのモデム定義ファイルをインストールします。「モデム定義ファイルをインストールする」の手順4 (P48) のあと、次の操作を行います。

### 1 [ほかのソフトウェア] を選択する。

手順2の画面が表示されます。表示されない場合は、画面右側の「一覧の表示」をクリックします。



### 2 [FX2-PCAP (USB MP128K)] を選択し、[OK] をクリックする。



### 3 [次へ>] をクリックする。



(前ページの続きです)

## 4 [次へ>] をクリックする。



## 5 [完了] をクリックする。



「モデム定義ファイルをインストールする」の手順8 (P49)へ進みます。

# Windows® 2000でUSBポートを使うには

本商品のUSBポートとパソコンのUSBポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

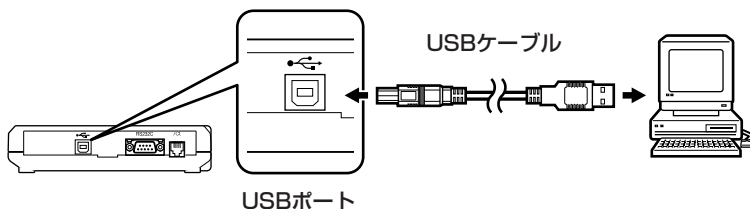
付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

- 1 内線バスに接続する (←P13)  
本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。
- 2 USBドライバをインストールする

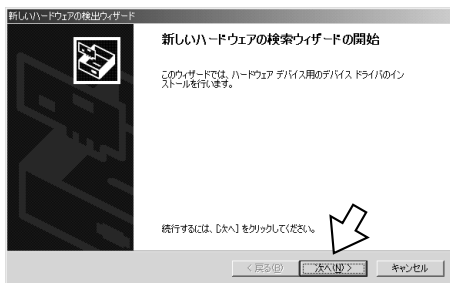
## USBドライバをインストールする

1 パソコンの電源を入れる。  
Windows®が起動することを確認します。

2 本商品とパソコンをUSBケーブルで接続する。  
[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。



3 [次へ>] をクリックする。



**STOP** お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USBドライバをインストールする前に、ご使用のOSがWindows® 2000であることを確認してください。(←P19)

(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

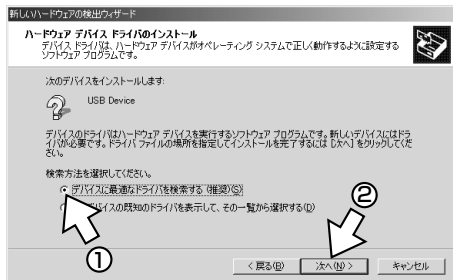
5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

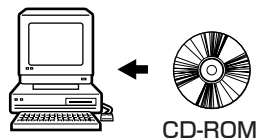
## 4 [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をクリックし、[次へ>] をクリックする。

[USB Device] と表示されないときは、[キャンセル] をクリックして画面を閉じてP76の操作によりUSBドライバを削除したあと、手順1から操作し直してください。



## 5 パソコンアダプタ専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



## 6 [場所を指定] のみをチェックして [次へ>] をクリックする。



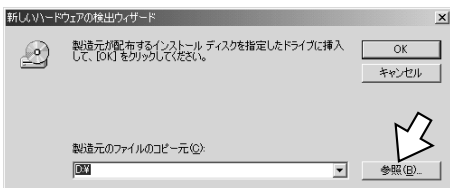
### ワンポイント

- [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されない場合は「Windows®でUSBドライバを使用できないときは」(P72)の症状の項目を参照してください。

### お知らせ

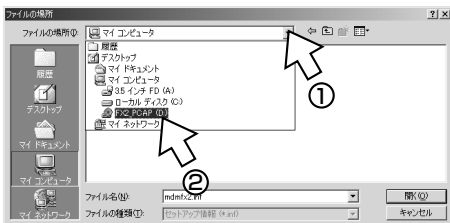
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

7 [参照] をクリックする。



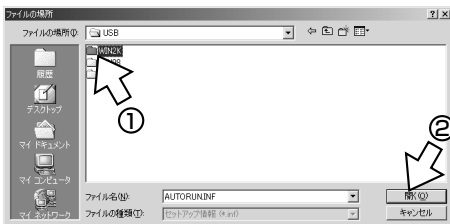
1 お使いになる前に

8 [ファイルの場所] の ▾ をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



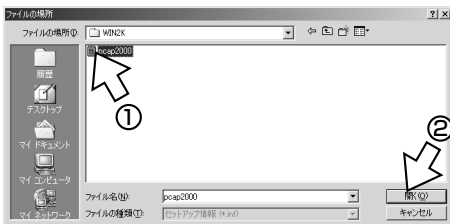
2 ドライバのインストール

9 [USB] フォルダをダブルクリックし、[WIN2K] フォルダをクリックし、[開く] をクリックする。



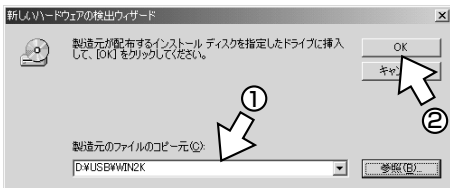
3 インターネットへ接続する

10 [pcap2000] をクリックし、[開く] をクリックする。



4 設定ユーティリティの利用

11 [製造元のファイルのコピー元] に [USB¥WIN2K] が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。



5 便利な機能

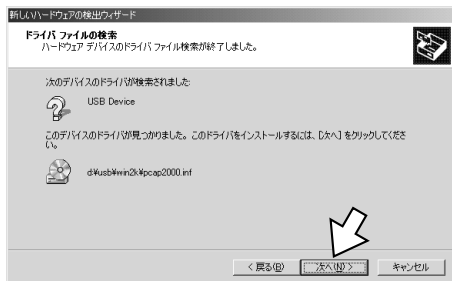
6 ご参考に

(次ページへ続きます)

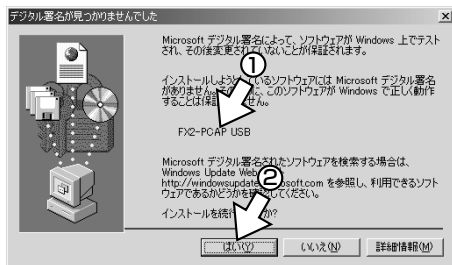
(前ページの続きです)

## 12 [次へ>] をクリックする。

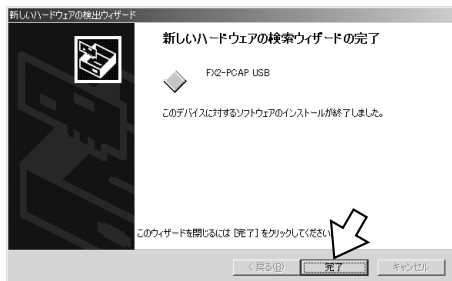
「このデバイス用のドライバが見つかりません」と表示されたときは「Windows® でUSBドライバを使用できないときは」(P72)をご覧ください。



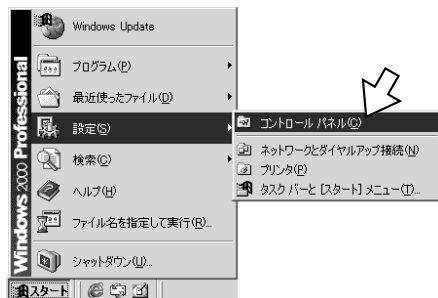
## 13 [FX2-PCAP USB] が表示されていることを確認し、[はい] をクリックする。



## 14 [完了] をクリックする。



## 15 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。





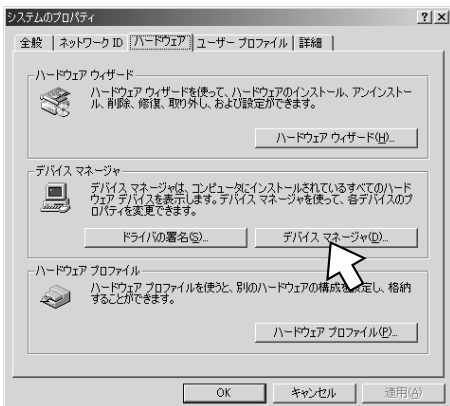
16 [システム] アイコンをダブルクリックする。



17 [ハードウェア] をクリックする。



18 [デバイスマネージャ] をクリックする。



(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティを利用

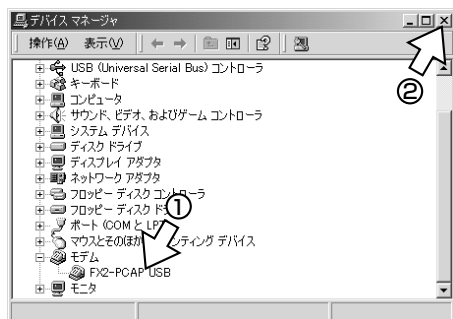
5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

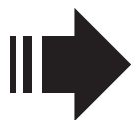
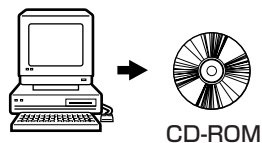
### 19 [モデム] に [FX2-PCAP USB] が表示されていることを確認し、**X** をクリックする。

[モデム] の下に何も表示されていない場合は、左側の+アイコンをクリックします。



### 20 CD-ROMドライブからCD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、以下の手順に進みます。

- ・インターネットへ接続する (●P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (●P119)

Windows® 2000で  
RS-232Cポートを使うには

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

1 内線バスに接続する（←P13）

2 RS-232Cポートに接続する

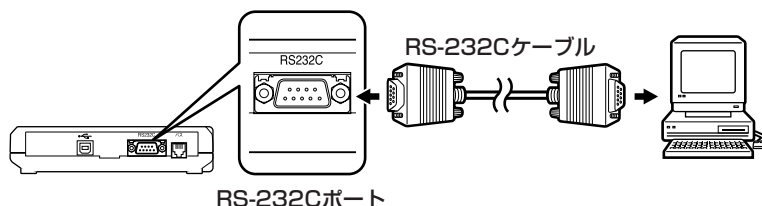
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。

3 モデム定義ファイルをインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



1 お使いになる前に

2 ドライバの  
インストール3 インターネットへ  
接続する4 設定ユーティリティの  
利用

5 便利な機能

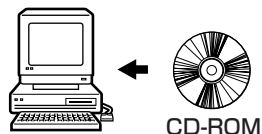
6 ご参考に

## STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。

## モデム定義ファイルをインストールする

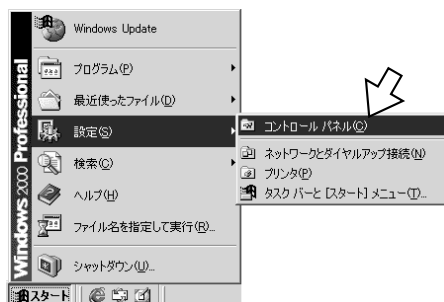
- 1 パソコンの電源を入れ、αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END]をクリックして案内ページを閉じてください。



- 2 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



- 3 [電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックする。

[所在地情報] が表示された場合は、[市外局番/エリアコード] に市外局番を入力し、[OK] をクリックします。



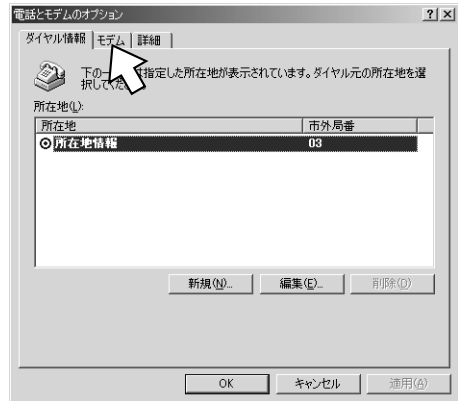
### お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

## 4 [モデム] をクリックする。

本商品を接続したポートに他のモデムがセットアップされている場合は削除してください。

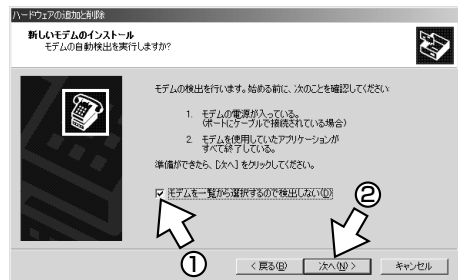
これまで、モデムがセットアップされていなかったときなどは、右の画面が表示されずに「新しいモデムのインストール」画面が表示されますので、手順6へ進みます。



## 5 [追加] をクリックする。



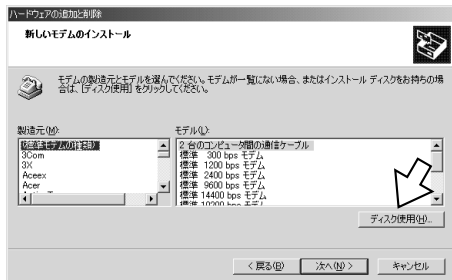
## 6 [モデムを一覧から選択するので検出しない] をチェックして [次へ>] をクリックする。



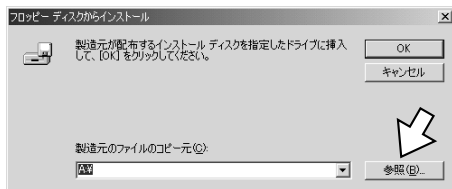
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

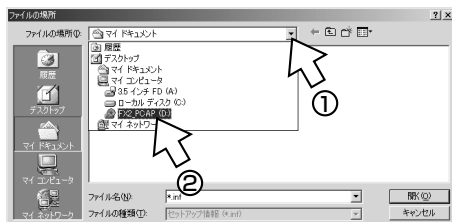
## 7 [ディスク使用] をクリックする。



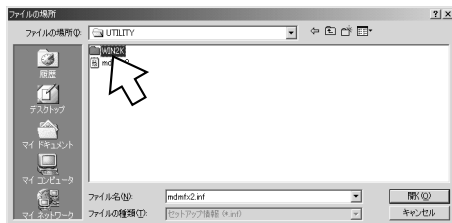
## 8 [参照] をクリックする。



## 9 [ファイルの場所] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



## 10 [UTILITY]フォルダをダブルクリックし、[WIN2K] フォルダをダブルクリックする。



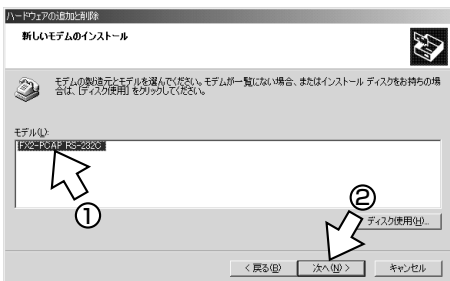
11 [Pcap2000]をクリックし、[開く]をクリックする。



12 [製造元のファイルのコピー元]に[UTILITY¥WIN2K]が表示されていることを確認し、[OK]をクリックする。



13 [FX2-PCAP RS-232C]をクリックし、[次へ>]をクリックする。



14 [選択したポート]をチェックし、インストールするCOMポートを選択し、[次へ>]をクリックする。



**STOP** お願い

- Windows® 2000の仕様により、1つのポートに複数のモデムがインストールされていると、正常に動作しないため、本商品以外のモデムが選択したポートにインストールされている場合は、あらかじめ他のモデムを削除してください。

(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

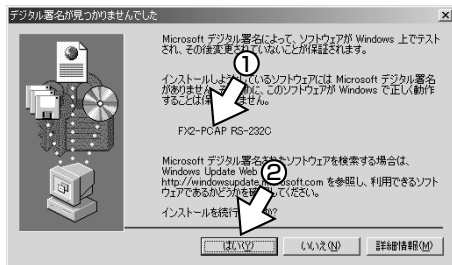
5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

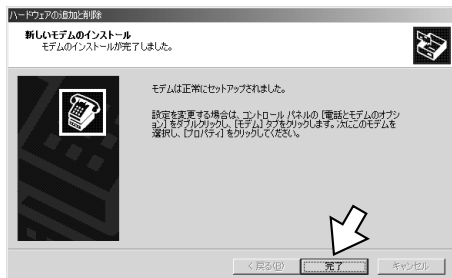
## 15 [FX2-PCAP RS-232C] と表示されていることを確認し、[はい] をクリックする。

[所在地情報] 画面が表示された場合はご使用に合わせて正しく設定し、[次へ>] をクリックしてください。



## 16 [完了] をクリックする。

選択したモデム定義ファイルが追加されていることを確認してください。

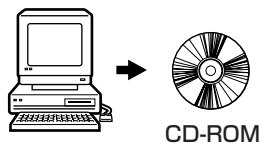


## 17 [OK] をクリックする。



## 18 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、以下の手順に進みます。

- ・インターネットへ接続する (☛P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (☛P119)



# Windows NT® 4.0で RS-232Cポートを使うには

本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポート（シリアルポート）を接続して使うには、次の手順が必要です。

付属品のαTA専用CD-ROMとWindows®のCD-ROMをご用意ください。インストールの途中でWindows®のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

1 内線バスに接続する（●P13）

2 RS-232Cポートに接続する

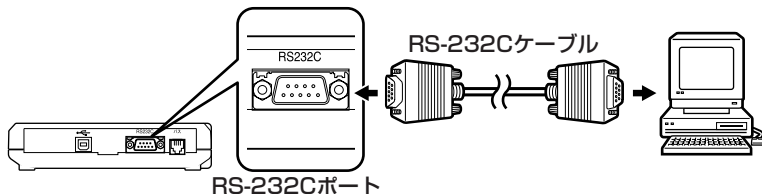
本商品とパソコンをRS-232Cケーブルで接続してください。

3 モデム定義ファイルをインストールする

## RS-232Cポートに接続する

1 パソコンの電源を切る。

2 付属ケーブルで本商品のRS-232CポートとパソコンのRS-232Cポートをつなぐ。



### STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232Cケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232Cポートが25ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。

1  
お使いになる前に

2  
ドライバの  
インストール

3  
インターネットへ  
接続する

4  
設定ユーティリティの  
利用

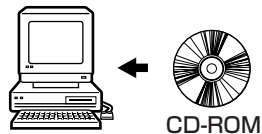
5  
便利な機能

6  
ご参考に

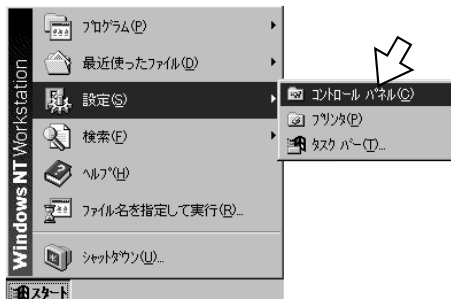
## モデム定義ファイルをインストールする

- 1 パソコンの電源を入れ、αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

手順の途中で、右のような案内ページが起動した場合は、[END] をクリックして案内ページを閉じてください。



- 2 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



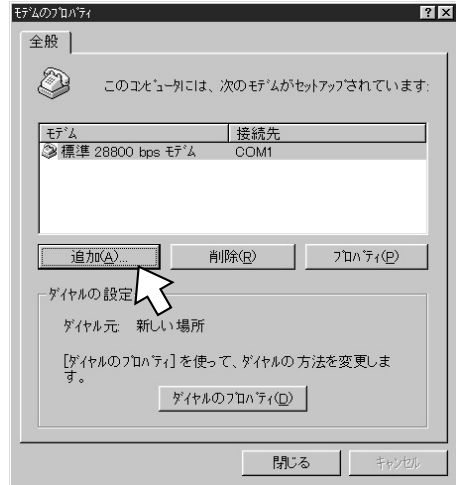
- 3 [モデム] アイコンをダブルクリックする。



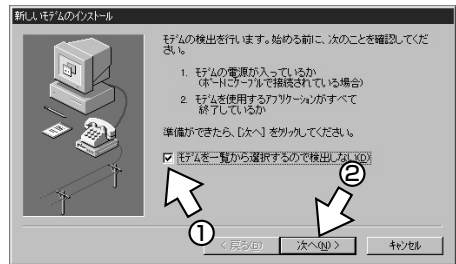
## 4 [追加] をクリックする。

本商品を接続したポートに他のモデムがセットアップされている場合は削除してください。

これまで、モデムがセットアップされていなかったときなどは、[モデムのプロパティ] 画面が表示されずに [新しいモデムのインストール] 画面が表示されますので、手順5の [新しいモデムのインストール] 画面が表示されたところへ進みます。



## 5 [モデムを一覧から選択するので検出しない] をチェックして [次へ>] をクリックする。



### お知らせ

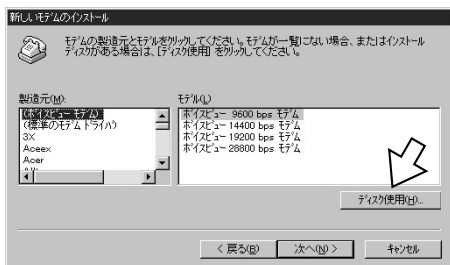
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

(次ページへ続きます)

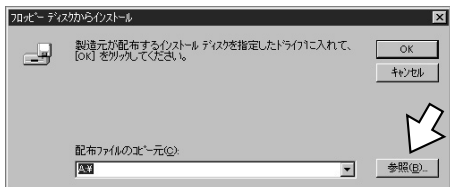
# Windows NT® 4.0でRS-232Cポートを使うには

(前ページの続きです)

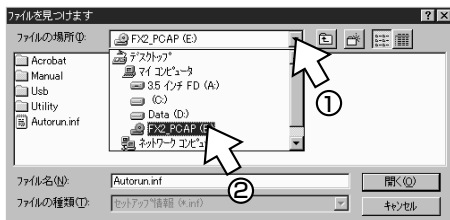
6 [ディスク使用] をクリックする。



7 [参照] をクリックする。



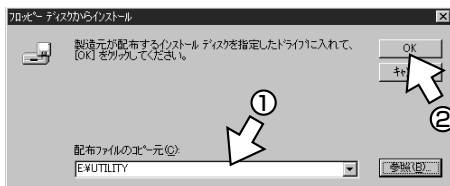
8 [ファイルの場所] の▼をクリックし、一覧からCD-ROMドライブを選択する。



9 [utility] フォルダをダブルクリックして [開く] をクリックする。



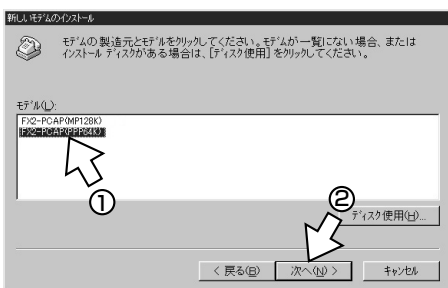
10 [配布ファイルのコピー元] に [UTILITY] の表示があることを確認し、[OK] をクリックする。



## 11 次のいずれかをクリックし、[次へ>] をクリックする。

ご利用になる通信機能 (●P15) に合わせて、モデム定義ファイルを選択してください。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (MP128K)]



## 12 [選択したポート] をクリックし、モデムを接続するポートの中から、本商品を接続したポートをクリックし、[次へ>] をクリックする。

[所在地情報] 画面が表示された場合はご利用に合わせて正しく設定し、[次へ>] をクリックしてください。



## 13 [完了] をクリックする。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

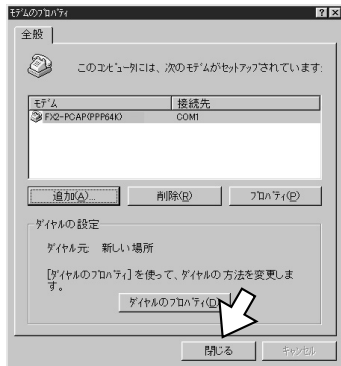
6 ご参考に

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

## 14 [閉じる] をクリックする。

選択したモデム定義ファイルが追加されていることを確認してください。



## 15 [はい] をクリックする。

本商品を接続したポートにデバイスが表示された場合は削除してください。



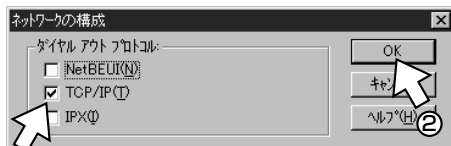
## 16 [追加] をクリックし、手順11で クリックしたモデム定義ファイル をクリックして [OK] をクリック する。



## 17 [ネットワーク] をクリックする。



## 18 [ネットワークの構成] で [TCP/IP] のみをチェックして [OK] をク リックする。

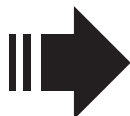
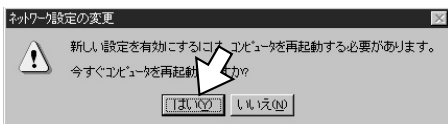
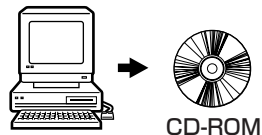


①

19 手順17の画面に戻るので、[続行]をクリックし、CD-ROMをドライブから取り出し、[はい]をクリックして、パソコンを再起動する。

再起動する際は、フロッピーディスクおよびCD-ROMをドライブから取り出してください。

以上でインストールは完了です。

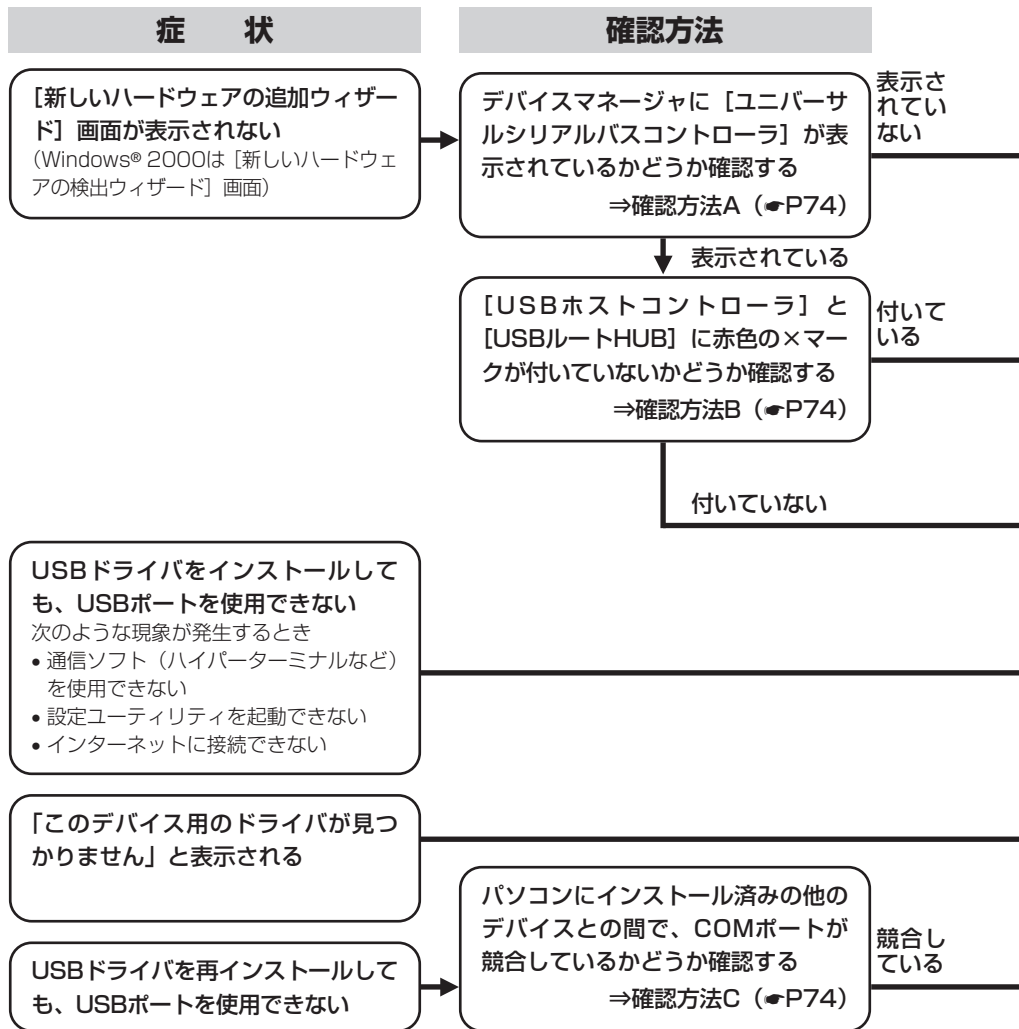


引き続き、以下の手順に進みます。

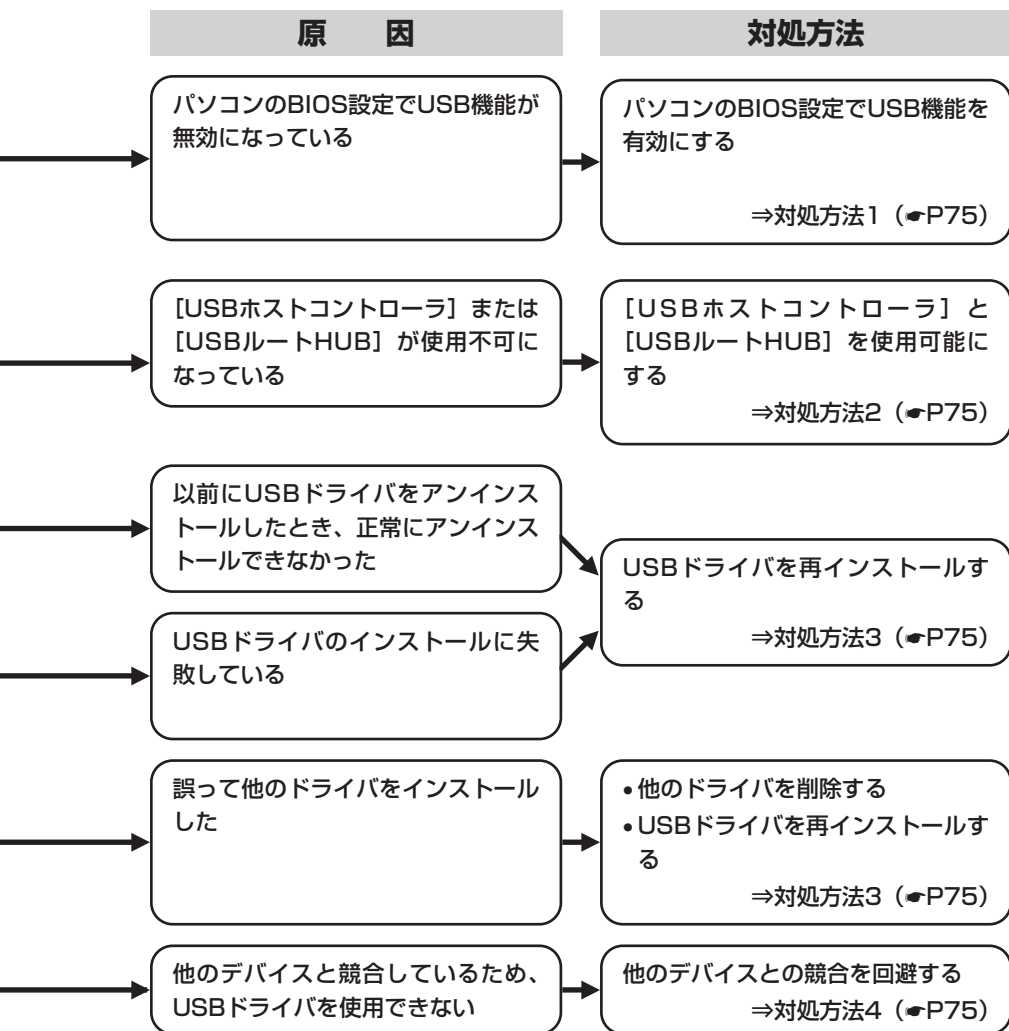
- ・インターネットへ接続する (☛P77)
- ・設定ユーティリティの利用 (☛P119)

# Windows®でUSBドライバを使用できないときは

Windows®でUSBドライバをインストールできないとき、USBドライバをインストールしても使用できないときは、次の図に従って原因を突き止め、対処してください。







## 確認方法

## 確認方法A

## 【ユニバーサルシリアルバスコントローラ】を確認する

- Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98の場合
  - ① [スタート] ボタンをクリックして [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。
  - ② [システム] アイコンをダブルクリックして、[デバイスマネージャ] をクリックする。
  - ③ [デバイスマネージャ] の画面で [種類別表示] または [種類別に表示] をクリックする。
  - ④ 一覧に [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] が表示されているかどうかを確認する。
- Windows® 2000の場合
  - ① [スタート] ボタンをクリックして [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。
  - ② [システム] アイコンをダブルクリックして、[ハードウェア] をクリックする。
  - ③ [デバイスマネージャ] をクリックする。
  - ④ 一覧に [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] が表示されているかどうかを確認する。

## 確認方法B

## 【USBホストコントローラ】と【USBルートHUB】を確認する

- ① [デバイスマネージャ] の画面で、[ユニバーサルシリアルバスコントローラ] をダブルクリックする。
- ② [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] 内の [USBホストコントローラ] と [USBルートHUB] に赤色の×マークが付いているかどうかを確認する。

## 確認方法C

## COMポートが競合しているかどうかを確認する

- 本商品のUSBドライバ
  - Windows® Me、Windows® 98SE の場合  
「コントロールパネル」の「モデム」→「全般」→「プロパティ」で確認する。
  - Windows® 98の場合  
「コントロールパネル」の「システム」→「デバイスマネージャ」の「ポート(COM/LPT)」内の [FX2-PCAP 仮想シリアルポート (COMx)] の COMx で確認する。
  - Windows® 2000 の場合  
「コントロールパネル」の「電話とモデムのオプション」→「モデム」内の [FX2-PCAP (USB)] の接続先で確認する。
- 拡張RS-232Cポート  
「デバイスマネージャ」画面の「ポート (COM/LPT)」で確認する。
- 赤外線デバイス  
「コントロールパネル」の「赤外線モニタ」→「オプション」で確認する。

- ※ [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] は、[USB (Universal Serial Bus Controller)] と表示される場合もあります。
- ※ [USBホストコントローラ] の名称は、パソコンの種類により異なります。名称の最後が [Host Controller] または [ホストコントローラ] となっているのが一般的です。
- ※ [USBルートHUB] は、[USBルートハブ] と表示される場合もあります。
- ※ ここに記載しているものは、あくまで確認方法の例ですので、装置またはパソコンの種類によっては、手順が異なる場合があります。

## 対処方法

### 対処方法1

#### BIOS設定でUSB機能を有効にする

BIOSの設定方法は、パソコンの種類によって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

### 対処方法2

#### [USBホストコントローラ]と[USBルートHUB]を使用可能にする

<例> [USBルートHUB]に赤色の×マークが付いている場合

- ① [USBルートHUB]をダブルクリックして、プロパティ画面を開く。
- ② [デバイスの使用]の[このハードウェアプロファイルで使用不可にする]のチェックを外し、[OK]をクリックする。  
\* Windows® 2000の場合は、[デバイスの使用状況]で[このデバイスを使う(有効)]を選択する。
- ③ 赤色の×マークが消えていることを確認する。
- ④ パソコンを再起動する。  
\* [USBホストコントローラ]に赤色の×マークが付いている場合も同様の手順を行ってください。

### 対処方法3

#### USBドライバを再インストールする

- ① 「[USBドライバを再インストールするには] (●P76)の手順に従って、USBドライバを再インストールしてください。

### 対処方法4

#### 他のデバイスとの競合を回避する

COMポートの競合を回避する手順としては、以下の2つがあります。

1. 競合している他のデバイス(拡張RS-232Cボードや赤外線デバイス)を使用不可にする
  - ① 「デバイスマネージャ」画面の[ポート(COM/LPT)]で、競合しているポートのデバイスをダブルクリックする。
  - ② [デバイスの使用]の[このハードウェアプロファイルで使用不可にする]にチェックマークを付け、[OK]をクリックする。  
\* Windows® 2000の場合は、[デバイスの使用状況]で[このデバイスを使わない(無効)]を選択する。
  - ③ 競合しているポートのデバイスに赤色の×マークが付く。
  - ④ パソコンを再起動する。
2. 他デバイスの使用COMポート番号の設定を、本商品のUSBドライバと競合しない番号に変更する  
他デバイスのCOMポートの設定方法については、製品により異なるため、その製品の取扱説明書をご覧になるか、その製品のメーカーまたはパソコンメーカーにお問い合わせください。

# USBドライバを再インストールするには

USBドライバがうまく動作しないときには、本商品とパソコンをUSBケーブルで接続したまま、以下の手順に従ってUSBドライバを再インストールしてください。

## ■ Windows® Meの場合

コントロールパネルのシステムからデバイスマネージャを開き、モデムの下にある「FX2-PCAP (USB PPP64K)」または「FX2-PCAP (USB MP128K)」と、WDMの下にある「FX2-PCAP (USB)」を削除します。

次にWindowsディレクトリの下にINF¥OTHERディレクトリにある「NTTEAST-NTTWEST pcapmdm.inf」と「NTTEAST-NTTWESTpcapusb.inf」の2つのファイルを削除します。

パソコンを再起動した後、P43からの手順に従って、USBドライバのインストールをしてください。

## ■ Windows® 98SE/98の場合

コントロールパネルのシステムからデバイスマネージャを開き、ユニバーサルシリアルバスコントローラの下にある「FX2-PCAP USB Controller for Windows98」と、ポート (COM/LPT) の下にある「FX2-PCAP仮想シリアルポート (COMx)」を削除します。

次にWindowsディレクトリの下にINF¥OTHERディレクトリにある「NTTEAST-NTTWEST mdmfx2.inf」、「NTTEAST-NTTWESTaTAusb.inf」、「NTTEAST-NTTWESTusbser.inf」と、SYSTEMディレクトリにある「Usbser.vxd」と、SYSTEM32¥Driversディレクトリにある「Atausb.sys」の5つのファイルを削除します。

USBケーブルを本商品からはずし、パソコンを再起動した後、P27からの手順に従って、USBドライバのインストールをしてください。

## ■ Windows® 2000の場合

コントロールパネルのシステムからデバイスマネージャを開き、モデムの下にある「FX2-PCAP (USB)」を削除します。

次にWINNTディレクトリの下にINFディレクトリにあるOEM?.infファイルの中を見て、「FX2-PCAP」と書いてある「OEM?.inf」「OEM?.pnf」の2つのファイルを削除します。

パソコンを再起動した後、P53からの手順に従って、USBドライバのインストールをしてください。

### お知らせ

- 本商品をつなぐ前に、デバイスマネージャ上で「不明なデバイス」や「?」「！」がついたデバイスがあると本商品をつないでも動作しないことがあります。これらのデバイスがある場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。
- システムの設定によっては、該当のファイルが見えない場合がありますので、すべてのファイルが見えるように設定してください。

## 必要なものを確認する

ご使用のOSに付属しているソフトウェアを利用して、インターネットに接続するための設定を行う必要があります。接続の設定を行う前に、必要なものを確認しておきましょう。

### ■ TCP/IPソフトウェア

TCP/IPとは、インターネットで標準となっている通信プロトコルです。Windows®には、TCP/IPを利用するためのソフトウェアが組み込まれています。

ご利用になるインターネットサービスプロバイダに合わせて、設定する必要があります。

### ■ PPPモジュール

インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントにダイヤルして、サーバに接続するためのソフトウェアです。Windows®には、サーバへダイヤルするためのソフトウェアが組み込まれています。

ご利用になるインターネットサービスプロバイダに合わせて、設定をする必要があります。

### ■ ブラウザ

ホームページを見るためのソフトウェアです。Webブラウザ、WWWブラウザということもあります。代表的なブラウザとして、Internet Explorer、Netscape Navigator®があります。OSに付属しているソフトウェア以外の市販品、フリーウェアを利用することもできます。

### ■ 電子メールソフト

インターネットで電子メールを送信、受信するためのソフトウェアです。代表的なメールソフトとして、Outlook Express®があります。OSに付属しているソフトウェア以外の市販品、フリーウェアを利用することもできます。

## 接続の設定をするには

本書では、Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 95、Windows® 2000、Windows NT® 4.0の設定について説明しています。

Windows® Meをご利用の場合 (➡P96)

Windows® 98SE/98/95をご利用の場合 (➡P78)

Windows® 2000をご利用の場合 (➡P104)

Windows NT® 4.0 をご利用の場合 (➡P114)



### お知らせ

- 本書での説明は、一例を示しています。詳細は、ソフトウェアメーカ、パソコンメーカ、インターネットサービスプロバイダなどへお問い合わせください。

1  
お使いになる前に2  
ドライバの  
インストール3  
接続する  
インターネットへ4  
設定ユーティリティの  
利用5  
便利な機能6  
ご参考に

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。パソコンにダイヤルアップネットワーク、TCP/IPがインストールされていない場合は、WindowsのCD-ROMからインストールする必要があります。操作手順、画面はWindows® 98の例です。Windows® 98SE、95でも同様の手順で行うことができます。

## 設定の流れ

ダイヤルアップネットワークがインストールされているかどうかを確認する (☛下記)

ある ↓

TCP/IPがインストールされているかどうかを確認する (☛P80)

ある ↓

接続先の設定を行う (☛P81)

TCP/IPの設定を行う (☛P84)

↓ ない

ダイヤルアップネットワークを  
インストールする (☛P87)

↓ ない

TCP/IPをインストールする  
(☛P90)

## ダイヤルアップネットワークを確認する

インターネットの接続に必要な「ダイヤルアップネットワーク」がインストールされているかどうかを確認します。

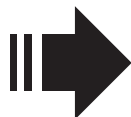
1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックする。



## 2 [ダイヤルアップネットワーク] アイコンがあるかどうか確認する。



## 3 [X] ボタンをクリックして、[マイコンピュータ]ウィンドウを閉じる。



- [ダイヤルアップネットワーク] アイコンがある場合→「TCP/IPを確認する」(●P80)へ進みます。
- [ダイヤルアップネットワーク] アイコンがない場合→「ダイヤルアップネットワークをインストールする」(●P87)へ進みます。

### お知らせ

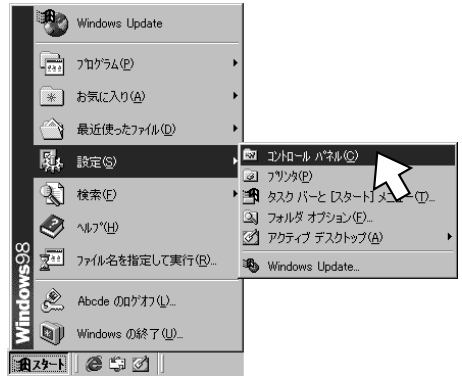
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

## TCP/IPを確認する

インターネットの接続に必要な「TCP/IP」がインストールされているかどうかを確認します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、  
[設定] - [コントロールパネル]  
をクリックする。



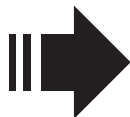
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブル  
クリックする。





### 3 [ネットワークの設定] の一覧に [TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ] があるかどうか確認して、[キャンセル] をクリックする。

- 一覧の名称は、Windows® 98では [現在のネットワークコンポーネント]、Windows® 95では [現在のネットワーク構成] と表示されます。
- 「ダイヤルアップアダプタ」の表示はパソコンの機種により異なる場合があります。



- [TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ] がある場合→「接続先の設定を行う」(☛下記)へ進みます。
- [TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ] がない場合→「TCP/IPをインストールする」(☛P90)へ進みます。

## 接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、アクセスポイントなどの情報が必要です。

### 1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックする。



(次ページへ続きます)

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

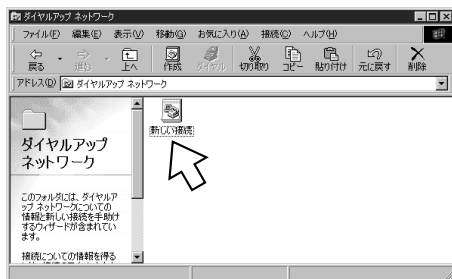
(前ページの続きです)

## 2 [ダイヤルアップネットワーク] アイコンをダブルクリックする。

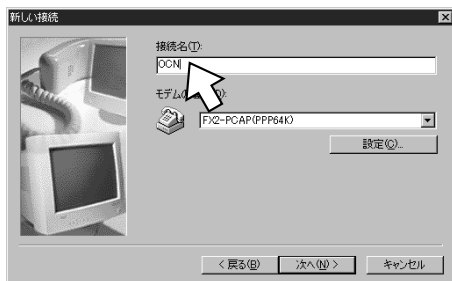


## 3 [新しい接続] アイコンをダブルクリックする。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されたときは、「次へ」をクリックします。



## 4 [接続名] にプロバイダ名、アクセスポイントなど、任意の名前を入力する。



## 5 [モデムの選択] を設定し、「次へ」をクリックする。

[モデムの選択] は、アクセスポイントに合わせて選択してください。

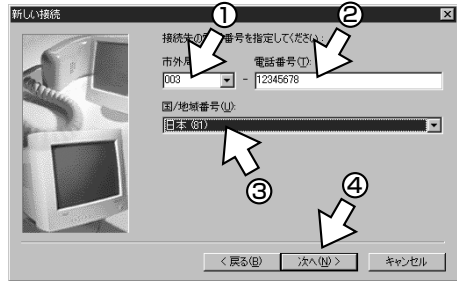
- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (MP128K)]



## 6 接続先の電話番号を入力し、[次へ>] をクリックする。

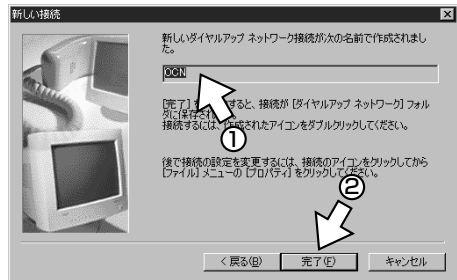
アクセスポイントの電話番号を入力してください。

【国番号】は【日本 (81)】を選択してください。



## 7 ダイヤルアップネットワークに作成されたアイコンの名前を確認し、[完了] をクリックする。

ダイヤルアップネットワークに、作成したアイコンが表示されます。



接続先の設定が終了したら、「TCP/IPの設定を行う」(P84)へ進みます。

### お知らせ

- インターネットサービスプロバイダへのアクセスポイント電話番号は、相手先番号の前に「0」をつけて登録してください。

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

### 1 「接続先の設定を行う」で作成したアイコンを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



### 2 ショートカットメニューの【プロパティ】をクリックする。



### 3 【サーバーの種類】をクリックする。



## 4 [詳細オプション]、[使用できるネットワークプロトコル]を設定し、[TCP/IP設定]をクリックする。

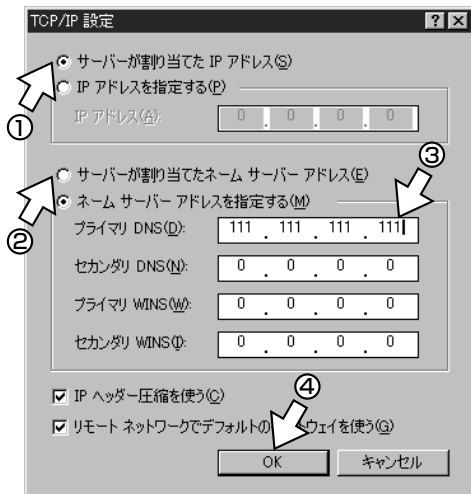
[詳細オプション]の各項目のチェックはすべて外してください。

[使用できるネットワークプロトコル]は、[TCP/IP]のみチェックし、その他のチェックを外してください。



## 5 TCP/IPの設定をして、[OK]をクリックする。

- [サーバーが割り当てたIPアドレス]にチェックがあることを確認します。
- [ネームサーバーアドレスを指定する]をクリックし、プライマリDNSにプロバイダから通知されたドメインネームサーバのIPアドレスを入力してください。プロバイダによっては、DNSサーバのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス] をチェックします。



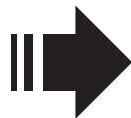
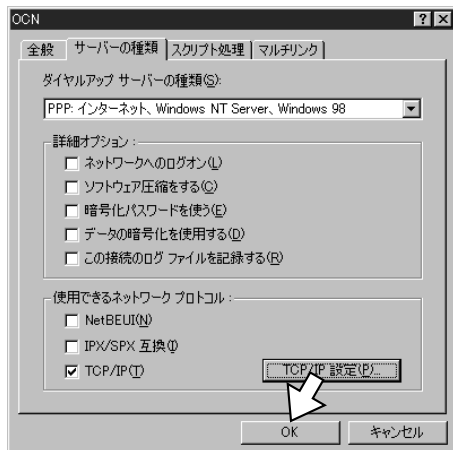
(次ページへ続きます)

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

(前ページの続きです)

## 6 [OK] をクリックする。

これで設定は完了です。

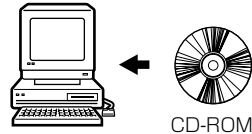


TCP/IPの設定が終了したら、「インターネットに接続する」(P93)へ進みます。

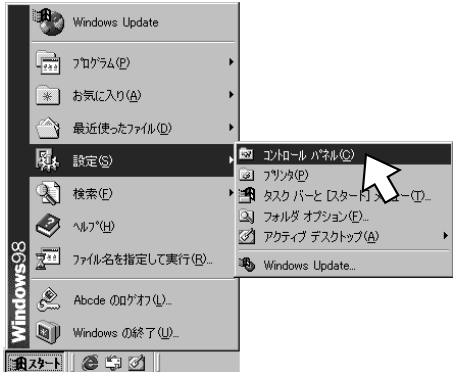
## ダイヤルアップネットワークをインストールする

「ダイヤルアップネットワーク」がインストールされていない場合は、Windows® のCD-ROMからインストールします。

- 1 Windows® のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットする。



- 2 「スタート」ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。



- 3 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックする。



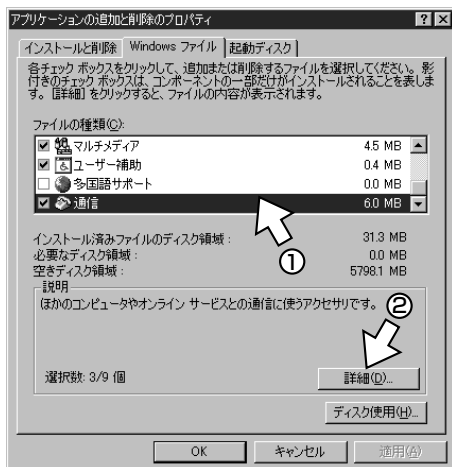
# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

(前ページの続きです)

## 4 [Windowsファイル] をクリックする。



## 5 [ファイルの種類] から [通信] を選択し、[詳細] をクリックする。





## 6 [ファイルの種類] の [ダイアルアップネットワーク] をチェックして、[OK] をクリックする。

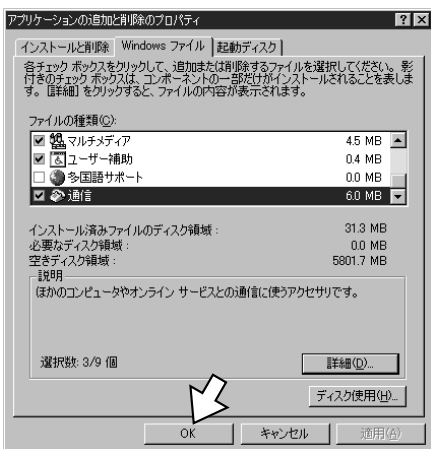
[ダイアルアップネットワーク] がチェックされているときは、すでにダイアルアップネットワークがインストールされています。[キャンセル] をクリックしてインストールを中止してください。



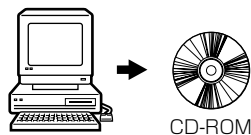
## 7 [OK] をクリックする。

Windows® のCD-ROMを要求された場合は、画面の指示に従ってください。

以上でインストールは完了です。



## 8 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。



## 9 パソコンを再起動する。

再起動することにより、ダイアルアップネットワークが有効になります。



「TCP/IPを確認する」(P80) へ進みます。

1 お使いになる前に

2 ドライブバ  
インストール

3 インターネットへ  
接続する

4 設定ユーティリティの  
利用

5 便利な機能

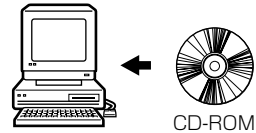
6 ご参考に

# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

## TCP/IPをインストールする

「TCP/IP」がインストールされていない場合は、Windows® のCD-ROMからインストールします。

- 1 Windows® のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットする。



- 2 「スタート」 ボタンをクリックし、「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックする。



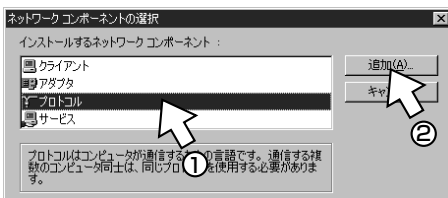
- 3 「ネットワーク」 アイコンをダブルクリックする。



## 4 「ネットワークの設定」の「追加」をクリックする。

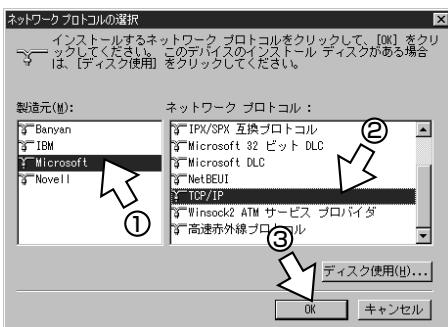


## 5 「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックする。



## 6 「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP」を選択し、「OK」をクリックする。

Windows® の CD-ROM を要求された場合は、画面の指示に従ってください。「DHCP クライアント」画面が表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。



(次ページへ続きます)

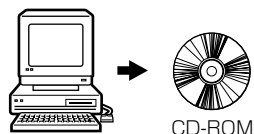
# 接続の設定をする (Windows® 98SE/98/95)

(前ページの続きです)

7 [OK] をクリックする。

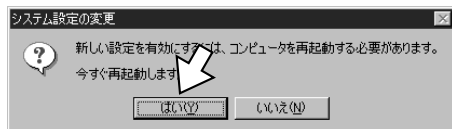


8 CD-ROMドライブからCD-ROMを  
取り出す。



9 [はい] をクリックし、パソコンを  
再起動する。

再起動することにより、「TCP/IP」が有効  
になります。



接続先の設定を行う (P81) へ進みます。

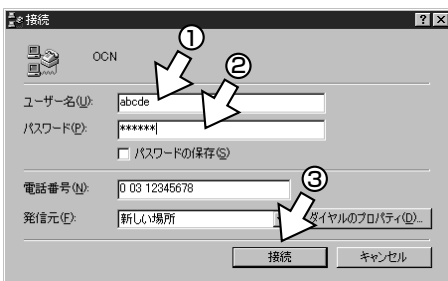
# インターネットに接続する (Windows® 98SE/98/95)

インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントにダイヤルします。  
プロバイダから通知されたユーザID、パスワードなどの情報が必要です。

## 1 作成した接続のアイコンをダブル クリックする。



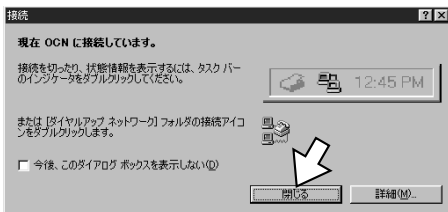
## 2 [ユーザー名]、[パスワード] を入 力し、[接続] をクリックする。



接続中の画面が表示されます。



接続が完了した際に、右のように  
表示された場合は、[閉じる] をク  
リックします。



1 お使いになる前に

2 ドライバの  
インストール

3 インターネットへ  
接続する

4 設定ユーティリティの  
利用

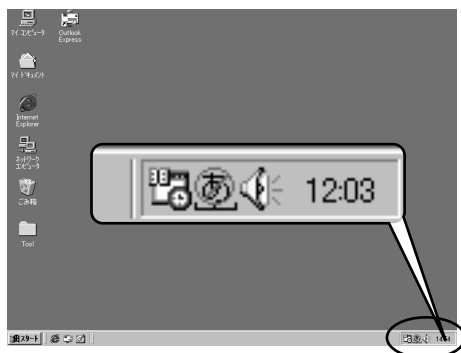
5 便利な機能

6 ご参考に

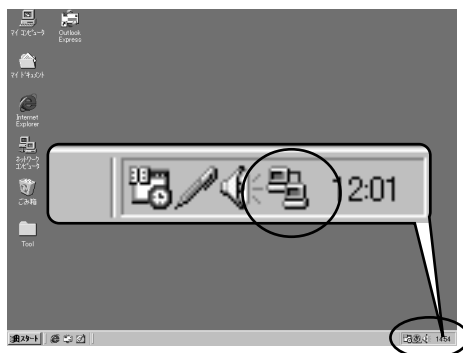
(前ページの続きです)

インターネット接続中は、画面右下のアイコンが次のように変わります。

接続していないとき



接続しているとき



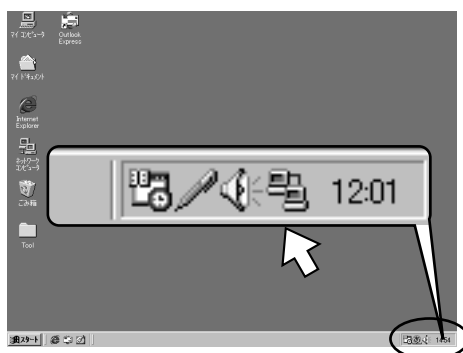
## 3 ブラウザなどのアプリケーションソフトを起動する。

操作は、アプリケーションソフトの取扱説明書などを参照してください。

ブラウザはホームページを見るソフトウェアです。Windows® にはInternet Explorerというソフトウェアが付属しています。

## 4 終了するときは、画面右下の「接続」アイコンを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



## 5 「切断」をクリックする。

回線が切断されます。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

### お知らせ

- 接続している間は、接続時間分の通信料金が発生します。
- インターネットにうまく接続できない場合は、「インターネットにうまく接続できないときのチェックポイント」(●P151)を参照してください。

# 接続の設定をする (Windows® Me)

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 設定の流れ

接続先の設定を行う (本ページ)

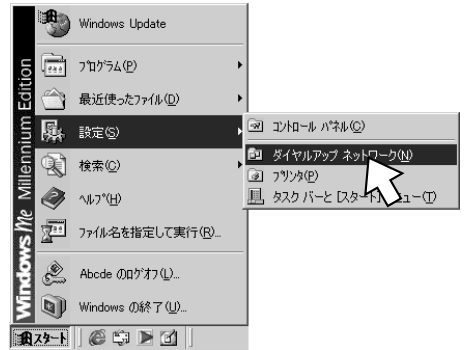


TCP/IPの設定を行う (←P99)

## 接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、アクセスポイントなどの情報が必要です。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする。



- 2 [新しい接続] アイコンをダブルクリックする。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されたときは、[次へ] をクリックします。

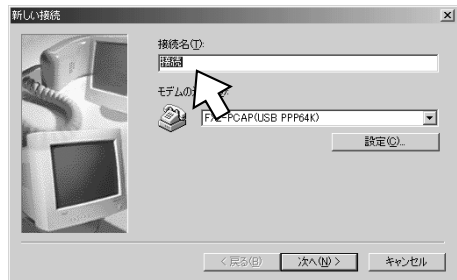


### お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。



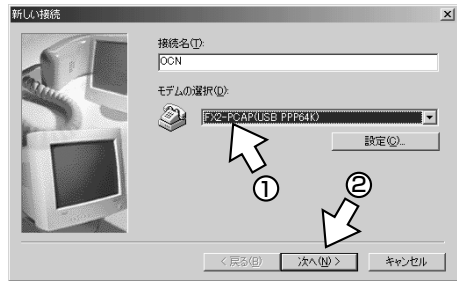
### 3 [接続名] にプロバイダ名、アクセスポイントなど、任意の名前を入力する。



### 4 [モデムの選択] を設定し、[次へ>] をクリックする。

[モデムの選択] は、アクセスポイントに合わせて選択してください。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (MP128K)]



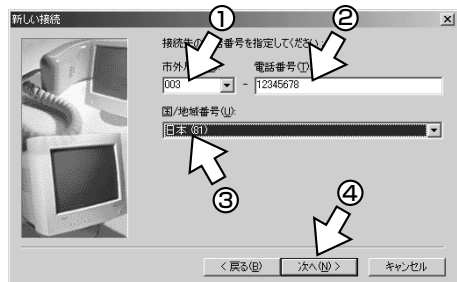
ただし、USBポートを使用して接続している場合は、以下のようになります。

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (USB PPP64K)]
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[FX2-PCAP (USB MP128K)]

### 5 接続先の電話番号を入力し、[次へ>] をクリックする。

アクセスポイントの電話番号を入力してください。

[国番号] は [日本 (81)] を選択してください。



#### お知らせ

- インターネットサービスプロバイダへのアクセスポイント電話番号は、相手先番号の前に「0」をつけて登録してください。

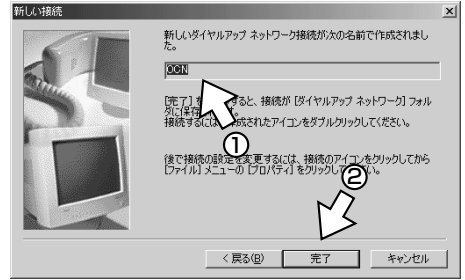
(次ページへ続きます)

# 接続の設定をする (Windows® Me)

(前ページの続きです)

**6** ダイヤルアップネットワークに作成されたアイコンの名前を確認し、**[完了]** をクリックする。

ダイヤルアップネットワークに、作成したアイコンが表示されます。



## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

### 1 「接続先の設定を行う」で作成したアイコンを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



### 2 ショートカットメニューの [プロパティ] をクリックする。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(次ページへ続きます)

# 接続の設定をする (Windows® Me)

(前ページの続きです)

## 3 [ネットワーク] をクリックする。



## 4 [詳細オプション]、[使用できるネットワークプロトコル] を設定し、[TCP/IP設定] をクリックする。

[詳細オプション]の各項目のチェックはすべて外してください。

[使用できるネットワークプロトコル]は、[TCP/IP]のみチェックし、その他のチェックを外してください。



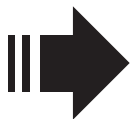
## 5 TCP/IPの設定をして、[OK] をクリックする。

- [サーバーが割り当てたIPアドレス] にチェックがあることを確認します。
- [ネームサーバーアドレスを指定する] をクリックし、プライマリDNSにプロバイダから通知されたドメインネームサーバのIPアドレスを入力してください。プロバイダによっては、DNSサーバのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス] をチェックします。



## 6 [OK] をクリックする。

これで設定は完了です。

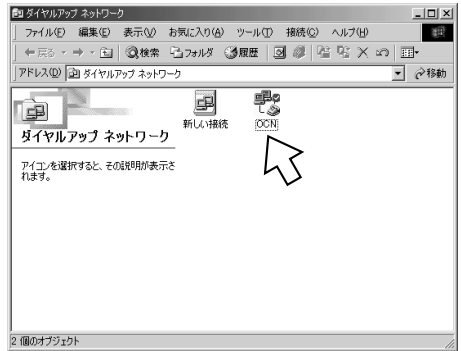


TCP/IPの設定が終了したら、「インターネットに接続する」(P102)へ進みます。

# インターネットに接続する (Windows® Me)

インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントにダイヤルします。  
プロバイダから通知されたユーザID、パスワードなどの情報が必要です。

**1** 作成した接続のアイコンをダブル  
クリックする。



**2** [ユーザー名]、[パスワード] を入  
力し、[接続] をクリックする。



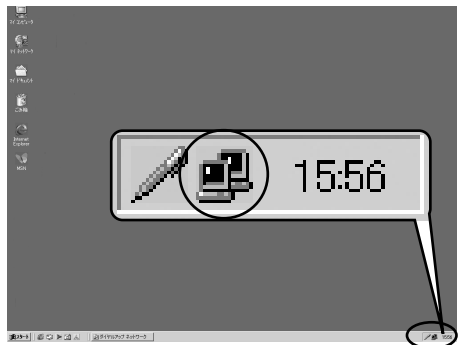
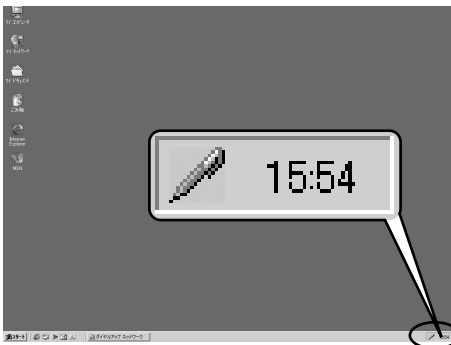
接続中の画面が表示されます。



インターネット接続中は、画面右下のアイコンが次のようになります。

接続していないとき

接続しているとき

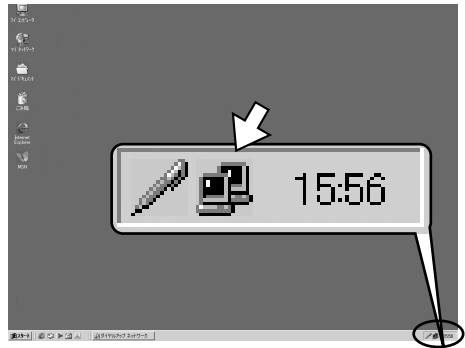


### 3 ブラウザなどのアプリケーションソフトを起動する。

操作は、アプリケーションソフトの取扱説明書などを参照してください。  
ブラウザはホームページを見るソフトウェアです。Windows®にはInternet Explorerというソフトウェアが付属しています。

### 4 終了するときは、画面右下の【接続】アイコンを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



### 5 【切断】をクリックする。

回線が切断されます。  
「…への接続を終了しますか?」と表示された場合は、【今すぐ切断する】をクリックします。



#### お知らせ

- 接続している間は、接続時間分の通信料金が発生します。
- インターネットにうまく接続できない場合は、「インターネットにうまく接続できないときのチェックポイント」(●P151)を参照してください。

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

## 設定の流れ

接続先の設定を行う (本ページ)

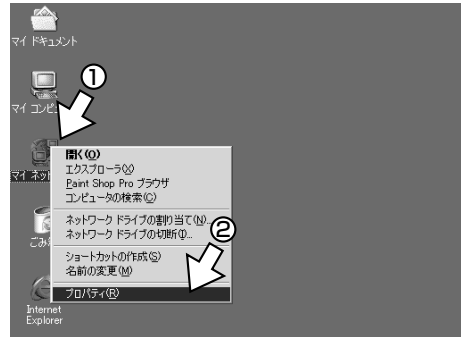


TCP/IPの設定を行う (P108)

## 接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザID、パスワード、アクセスポイントなどの情報が必要です。

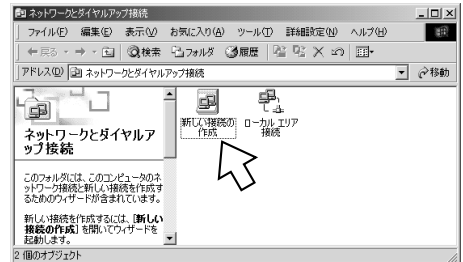
**1** [マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] をクリックする。



**2** [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックする。

ネットワークの接続ウィザードが表示されます。

[所在地情報] 画面が表示された場合はご使用に合わせて正しく設定し、[次へ>>] をクリックしてください。

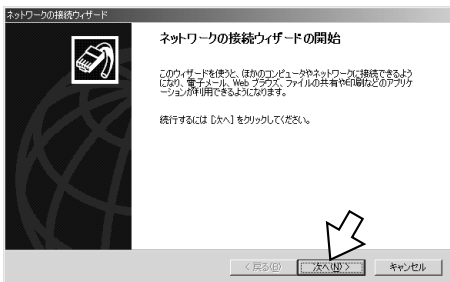


### お知らせ

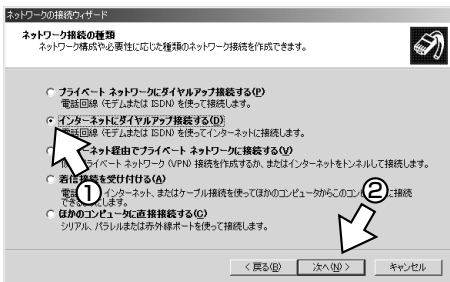
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- CD-ROMドライブは、お使いのパソコンによって異なります。



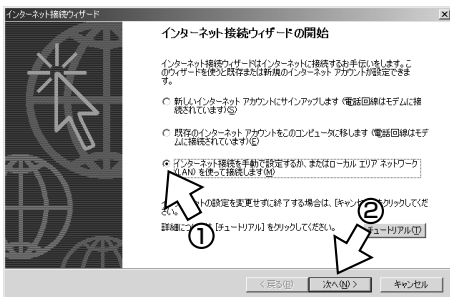
### 3 [次へ>] をクリックする。



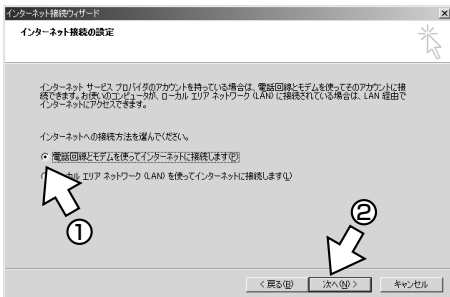
### 4 [インターネットにダイヤルアップ接続する] をチェックして [次へ>] をクリックする。



### 5 [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク (LAN) を使って接続します] をチェックして [次へ>] をクリックする。



### 6 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します] をチェックして [次へ>] をクリックする。



(次ページへ続きます)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

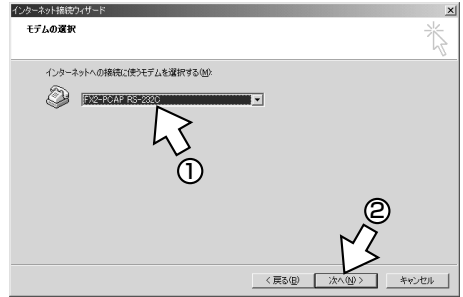
6 ご参考に

(前ページの続きです)

**7** 「モデムの選択」画面が表示された場合は以下のようにモデムを選択し、[次へ>] をクリックする。

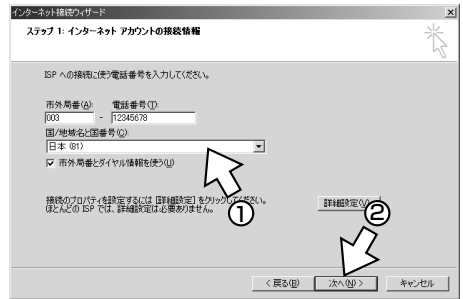
- RS-232Cポートをご利用の場合  
[FX2-PCAP RS-232C]
- USBポートをご利用の場合  
[FX2-PCAP USB]

表示されない場合は手順8に進みます。

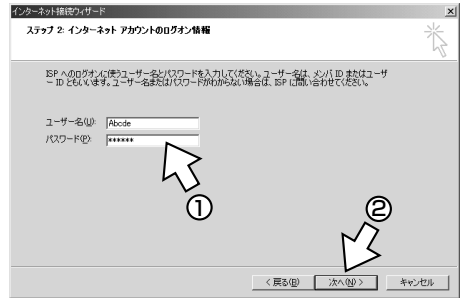


**8** 接続先の電話番号を設定して [次へ>] をクリックする。

アクセスポイントの電話番号を入力してください。  
[国番号] は [日本 (81)] を選択してください。



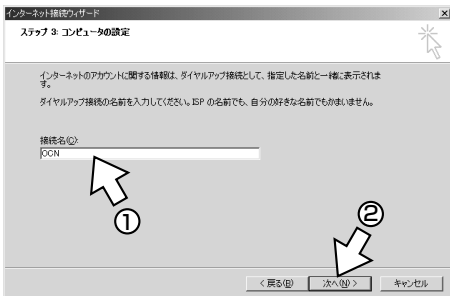
**9** [ユーザー名]、[パスワード] を入力して [次へ>] をクリックする。



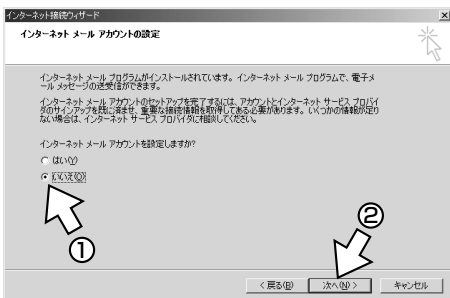
## お知らせ

- インターネットサービスプロバイダへのアクセスポイント電話番号は、相手先番号の前に「0」をつけて登録してください。

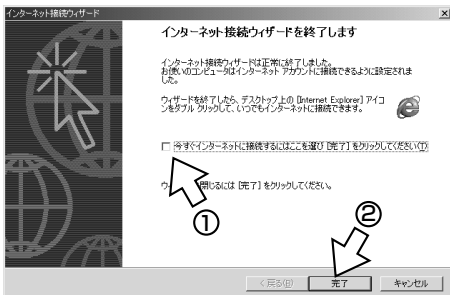
## 10 [接続名] を設定して [次へ>] をクリックする。



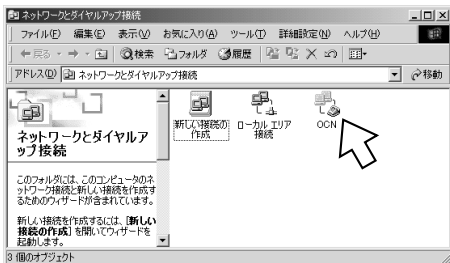
## 11 [いいえ] をチェックし、[次へ>] をクリックする。



## 12 [今すぐインターネットに接続するにはここを選び [完了] をクリックしてください] のチェックを外し、[完了] をクリックする。



ネットワークとダイヤルアップ接続に、作成したアイコンが表示されます。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

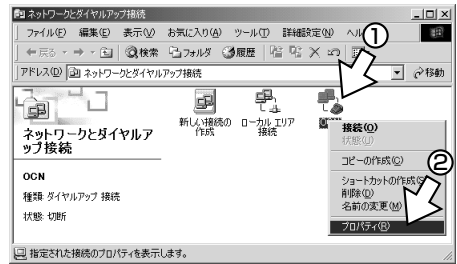
5 便利な機能

6 ご参考に

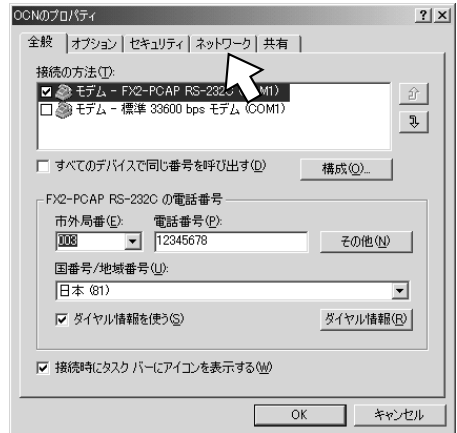
## TCP/IPの設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知されたDNSサーバなどの情報が必要です。

- 1 「接続先の設定を行う」で作成したアイコンを右クリックし、ショートカットメニューの【プロパティ】をクリックする。



- 2 【ネットワーク】をクリックする。



### 3 [インターネットプロトコル] のみをチェックし、[プロパティ] をクリックする。

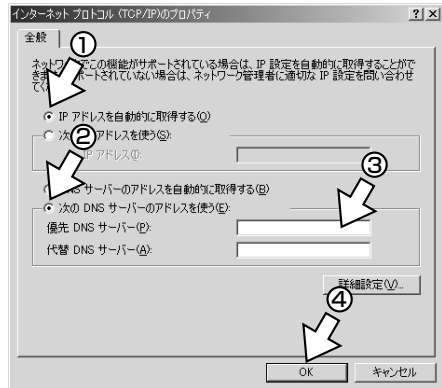


1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

### 4 [次のDNSサーバーのアドレスを使う] をクリックし、DNSサーバーの設定をして、[OK] をクリックする。

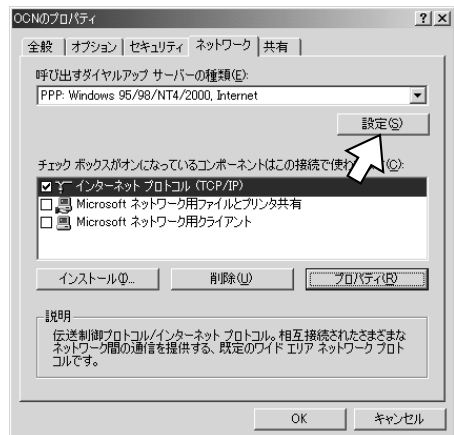
- [IPアドレスを自動的に取得する] にチェックがあることを確認します。
- [優先DNSサーバー] にプロバイダから通知されたドメインネームサーバのIPアドレスを入力してください。プロバイダによっては、DNSサーバのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] をチェックします。



3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

### 5 [設定] をクリックします。

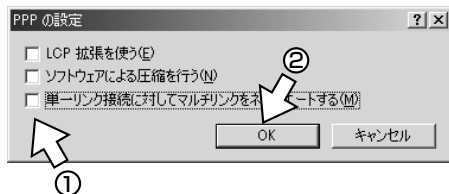


5 便利な機能

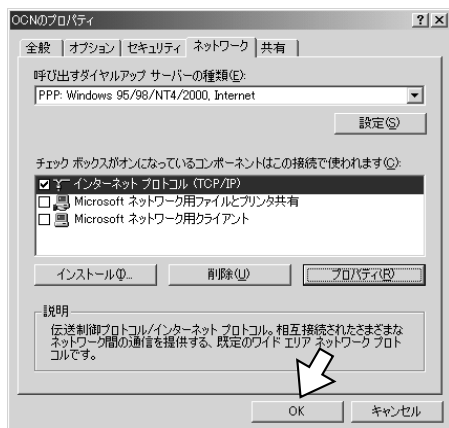
6 ご参考に

(前ページの続きです)

- 6 各項目のチェックをすべて外して  
[OK] をクリックする。



- 7 [OK] をクリックする。  
これで設定は完了です。

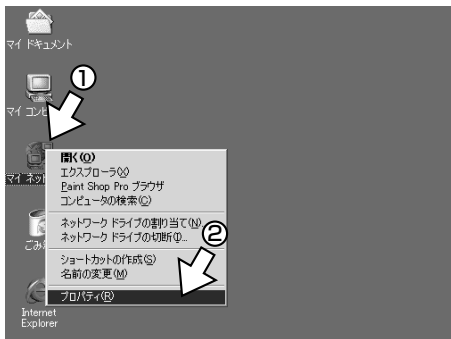


TCP/IPの設定が終了したら、「インターネットに接続する」  
(P111) へ進みます。

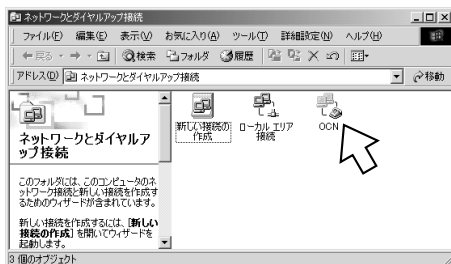
# インターネットに接続する (Windows® 2000)

インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントにダイヤルします。  
プロバイダから通知されたユーザID、パスワードなどの情報が必要です。

1 [マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] をクリックする。



2 [接続先の設定を行う] で作成したアイコンをダブルクリックする。



3 [プロパティ] をクリックする。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

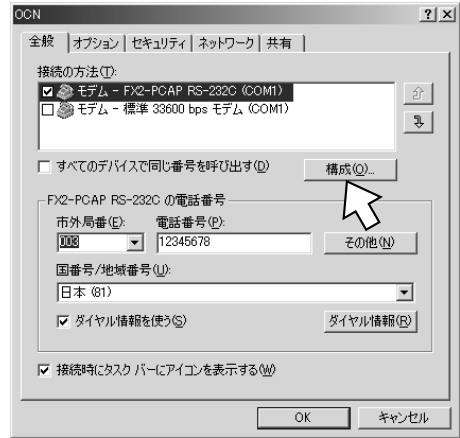
4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(前ページの続きです)

## 4 [構成] をクリックする。



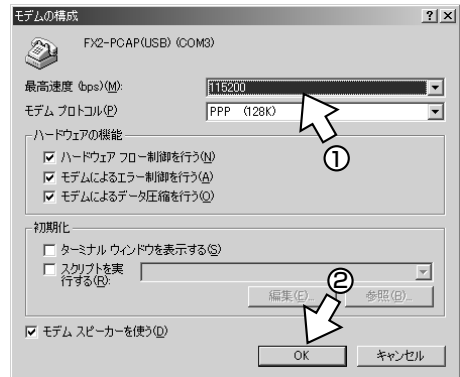
## 5 ご利用になる通信機能に合わせてモデムプロトコルを設定して [OK] をクリックする。

### RS-232Cポートの場合

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[モデムプロトコル] : PPP (64K)
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[モデムプロトコル] : PPP (128K)

### USBポートの場合

- 同期64 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[モデムプロトコル] : PPP (64K)
- MP128 kbit/sのアクセスポイントへ接続するとき  
[モデムプロトコル] : PPP (128K)



### お知らせ

- モデムプロトコルがPPP (128K) で、USBポートを使用している場合、USBケーブルの抜き差ししてPPP (64K) になることがありますので、そのときは再設定してください。

### STOP お願い

- RS-232Cポートでご使用になる場合は、「モデム構成」の最高速度と「コントロールパネル」内の「電話とモデムのオプション」をダブルクリックし、画面の「モデム」→「プロパティ」とクリックして表示するポートの最高速度を同じにしてください。



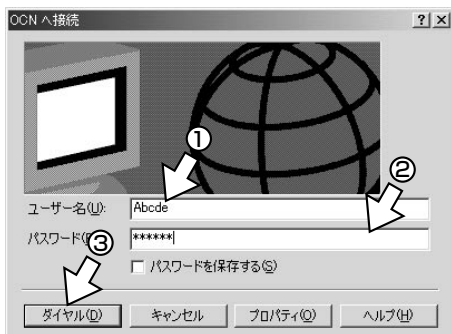
## 6 [OK] をクリックする。



## 7 手順3の画面に戻り、[ユーザー名]、[パスワード] が入力されていることを確認し、[ダイヤル] をクリックする。

回線が接続されます。

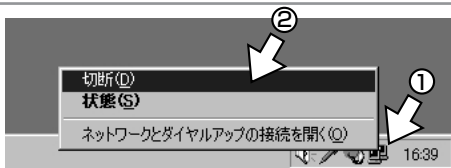
接続が完了した際に、[接続] 画面が表示された場合は、[閉じる] をクリックします。



## 8 ブラウザなどのアプリケーションソフトを起動する。

操作は、アプリケーションソフトの取扱説明書などを参照してください。

## 9 終了するときは、画面右下の [ダイヤルアップ接続] アイコンを右クリックし、[切断] をクリックする。



### お知らせ

- 接続している間は、接続時間分の通信料金が発生します。
- インターネットにうまく接続できない場合は、「インターネットにうまく接続できないときのチェックポイント」(P151) を参照してください。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

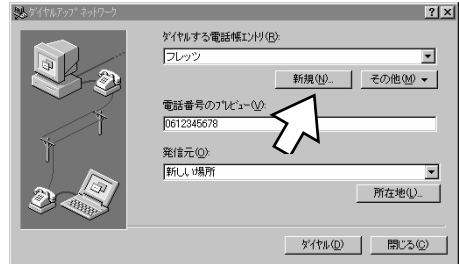
インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IPの設定を行います。

### 1 [マイコンピュータ] をダブルクリックし [ダイヤルアップネットワーク] アイコンをダブルクリックする。

接続先が登録されていない場合は「電話帳は空です。」の画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

手順2の画面が表示されます。

すでにほかの接続先が登録されている場合は、「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されますので [新規] をクリックします。



### 2 [エントリ名]、[電話番号] を入力する。

[エントリ名] はプロバイダ名、アクセスポイントなど、任意の名前を入力します。

[電話番号] はアクセスポイントの電話番号を入力します。



### 3 画面上段の [サーバー] をクリックする。



#### お知らせ

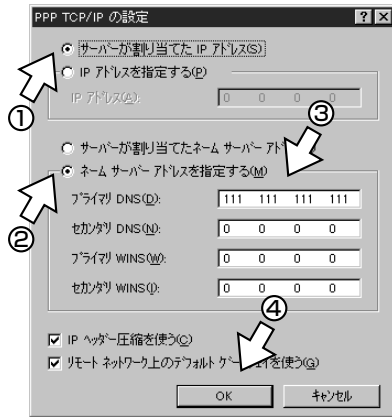
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- インターネットサービスプロバイダへのアクセスポイント電話番号は、相手先番号の前に「0」をつけて登録してください。

## 4 [TCP/IP]のみチェックし、[TCP/IPの設定]をクリックする。

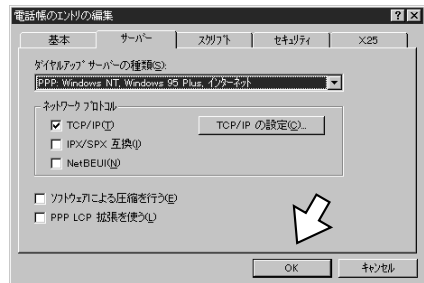


## 5 TCP/IPの設定をし、[OK]をクリックする。

- [サーバーが割り当てたIPアドレス]にチェックがあることを確認します。
- [ネームサーバーアドレスを指定する]をクリックし、プライマリDNSにプロバイダから通知されたドメインネームサーバのIPアドレスを入力してください。
- プロバイダによっては、DNSサーバのIPアドレスを入力する必要がない場合もあります。その場合は、[サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]をチェックします。



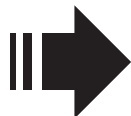
## 6 [電話帳のエントリの編集] 画面で [OK] をクリックする。



(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

- 7 [ダイヤルアップネットワーク] 画面で [閉じる] をクリックする。  
これで設定は完了です。



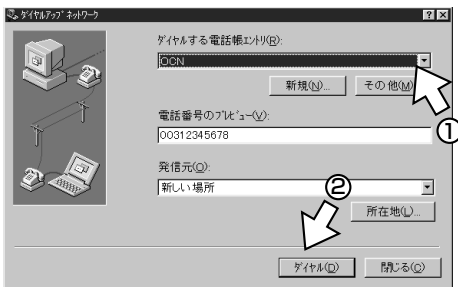
接続の設定が終了したら、「インターネットに接続する」(●P117)へ進みます。

# インターネットに接続する (Windows NT<sup>®</sup> 4.0)

インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントにダイヤルします。  
プロバイダから通知されたユーザID、パスワードなどの情報が必要です。

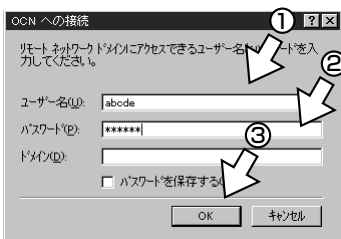
1 [マイコンピュータ] をダブルクリックし、[ダイヤルアップネットワーク] アイコンをダブルクリックする。

2 [ダイヤルする電話帳エントリ] を  
選択し、[ダイヤル] をクリックす  
る。



3 [ユーザー名]、[パスワード] を入  
力し、[OK] をクリックする。

接続が完了すると、画面右下に [ダイヤル  
アップモニタ] アイコンが表示されます。



4 ブラウザなどのアプリケーションソフトを起動する。

操作は、アプリケーションソフトの取扱説明書などを参照してください。

1  
お使いになる前に

2  
ドライバの  
インストール

3  
インターネットへ  
接続する

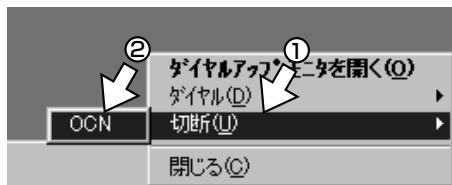
4  
設定ユーティリティの  
利用

5  
便利な機能

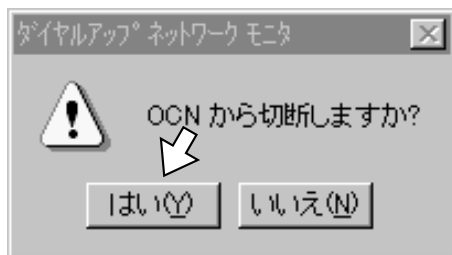
6  
ご参考に

(前ページの続きです)

- 5 終了するときは、[ダイヤルアップ モニタ] アイコンを右クリックし、[切断] — [エントリ名] をクリックします。



- 6 [はい] をクリックします。



#### お知らせ

- 接続している間は、接続時間分の通信料金が発生します。
- インターネットにうまく接続できない場合は、「インターネットにうまく接続できないときのチェックポイント」(●P151) を参照してください。

# 設定ユーティリティを インストールするには

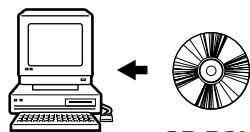
本商品の設定を行うために、付属品のαTA専用CD-ROMから設定ユーティリティをインストールします。インストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。

ここでは、次の作業を行います。

## 1 ユーティリティをインストールする

### 1 αTA専用CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

自動的にパソコンアダプタの案内ページが表示されます。



(次ページへ続きます)



### ワンポイント

#### ●自動的に案内ページが表示されない場合は

- ①「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする。
- ② CD-ROMをセットしたドライブの「FX2\_PCAP」アイコンをダブルクリックする。
- ③ ②を行っても案内ページが表示されない場合は、「FX2\_PCAP.exe」をダブルクリックする。以降は手順3へ進みます。

#### ●設定ユーティリティをアンインストールするには

- ① [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックし、コントロールパネルを開きます。
- ② [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- ③ 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」画面で「FX2\_αTAメンテナンスプログラム」をクリックし、[追加と削除] をクリックします。



### お知らせ

- 設定ユーティリティをインストールする前に、USBポートまたはRS-232Cポートを使える状態にしてから、インストールを行ってください。
- ご使用前に必ず案内ページの「本CD-ROMのお取扱い上の注意」を開いてお読みください。
- このページの内容は一例を示しています。
- Windows NT® 4.0はService Pack3以降をお使いください。
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。

# 設定ユーティリティを インストールするには

(前ページの続きです)

## 2 [ユーティリティのインストール] をクリックする。

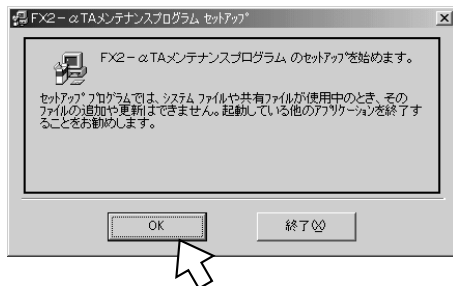
インストール確認画面が表示されます。



案内ページ

## 3 [OK] をクリックする。

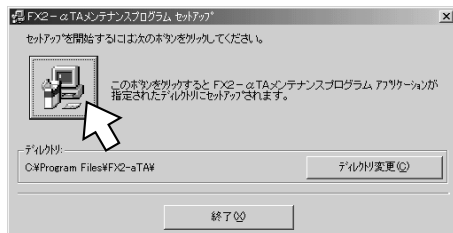
セットアッププログラムが起動します。



## 4 インストール先を確認し、 ボタン をクリックする。

インストール先を変更する場合は [ディレクトリ変更] をクリックします。インストールを中止する場合は [終了] をクリックします。

インストールするプログラムグループを選択する画面が表示されます。





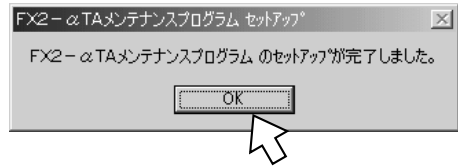
## 5 プログラムグループを入力し、[継続]をクリックする。

自動的にインストールが行われます。



## 6 [OK] をクリックする。

インストールが完了しました。

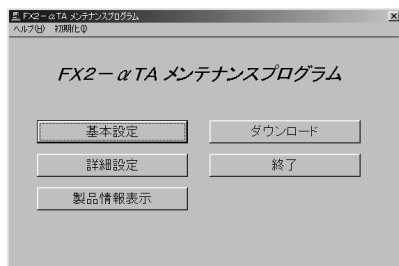


# 設定ユーティリティで設定を行うには

設定ユーティリティの設定の操作は、Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 95、Windows® 2000、Windows NT® 4.0ともほぼ同じです。以下に、Windows® Meの画面を例に基本設定を説明します。

- 1 本商品とパソコンを接続します。  
[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントし、[FX2-αTA] - [FX2-αTA] をクリックします。

設定ユーティリティが起動し、次のメニュー画面が表示されます。

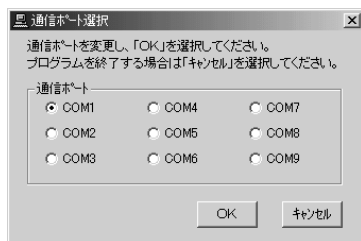


設定ユーティリティのメニュー画面が表示されず、右記のエラーメッセージが表示された場合は、以下の手順で操作します。



この画面は、本商品の電話機コード、RS-232Cケーブル、またはUSBケーブルが正しく接続されていない場合や、パソコンで設定されているCOMポートが1以外のときに表示されます。

電話機コードやRS-232Cケーブル、またはUSBケーブルが正しく接続されていることを確認したうえで、[OK]をクリックすると、「通信ポート選択」画面が表示されます。



本商品が接続されているCOMポートを選択して、[OK]をクリックすると、メニュー画面が表示されます。

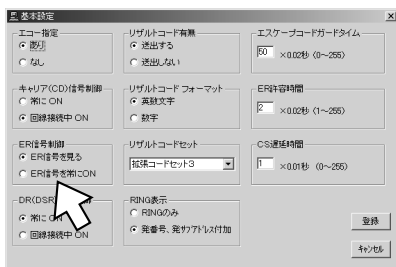


## ワンポイント

- 設定ユーティリティが正しく起動しないときは他のアプリケーションを終了してから設定ユーティリティを起動してください。
- お使いのCOMポート番号を確認するには、コントロールパネルのモデムのプロパティをご覧ください。
- USBポートで設定ユーティリティを使用する場合は、USBドライバをインストールしてください。(P19)

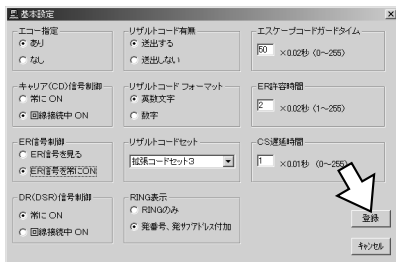
## 2 設定する項目のボタンを選択します。 (ここでは基本設定)

基本設定の画面が表示されます。



## 3 設定を変更して、[登録] をクリックします。

変更した内容が本商品に設定され、メニュー画面に戻ります。

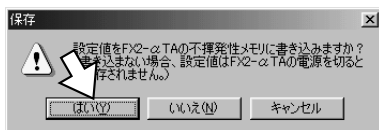


## 4 [終了] をクリックします。

次の画面が表示されます。

## 5 [はい] をクリックします。

設定内容が本商品に保存され、終了します。



### ワンポイント

#### ● 変更した設定値をキャンセルするには

手順3で[登録]のかわりに [キャンセル] をクリックしてください。設定した値は無効になり、メニュー画面に戻ります。



### お知らせ

- 手順5で [はい] または [いいえ] をクリックしたときに自己診断が開始されることがあります。これは詳細設定で最大使用チャネル数を2チャネルに変更したためです。この場合設定値が不揮発性メモリに保存され、自己診断が始まります。自己診断中は、PWRランプが遅く点滅し、自己診断が終わると、PWRランプが点灯になります。



### お願い

- 設定を変更した場合は、必ず設定ユーティリティ終了時に[はい]をクリックして、設定内容を保存してください。保存しないで、電話機コードを抜いたり、主装置の電源を切ると変更した内容が失われます。
- RS-232Cポートで設定ユーティリティを使用しているときは、USBポートにケーブルを接続しないでください。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

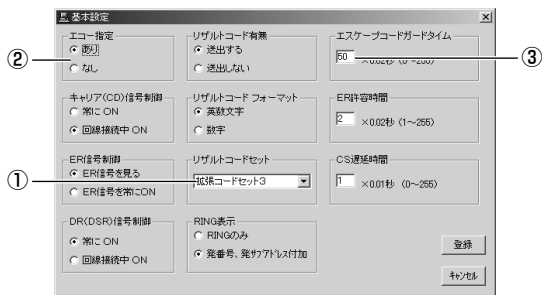
4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

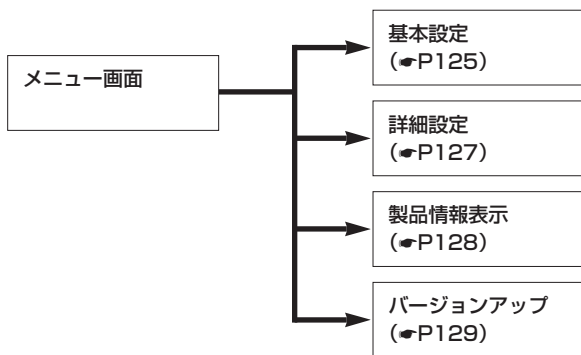
# 設定ユーティリティで設定を行うには

## 画面の見方



①	表示されている内容が現在の設定値です。変更するときは、項目の右にある▼をクリックします。リストが表示されて設定値が選べるようになります。
②	●が現在の設定値です。変更するときは、○をクリックして●にします。
③	数値を入力するときは、入力欄をクリックします。カーソルが表示されて数値が入力できるようになります。

設定ユーティリティの各画面は、次のような関係になっています。



## 基本設定画面

メニュー画面で【基本設定】をクリックすると表示される画面です。

### ① エコ指定

機能	エコバックの有無を設定します。	
パラメータ	あり (初期値)	エコバックをします。
	なし	エコバックをしません。

### ② キャリア (CD) 信号制御

機能	CD信号の制御方式を選択します。 CD信号は本商品がデータ端末にデータ受信を要求する信号です。CDが常時ONでないと動作しないデータ端末を使用するときは、「常にON」を選択してください。	
パラメータ	常にON	CD信号をER ON時には、常にONにします。
	回線接続中ON (初期値)	CD信号を回線接続中だけONにします。

### ③ ER信号制御

機能	ER信号変化時の動作を選択します。 ER信号はデータ端末が動作準備できているかどうかを本商品に知らせる信号です。ER信号のないデータ端末を使用するときは「ER信号を常にON」を選択してください。	
パラメータ	ER信号を見る (初期値)	ER信号の状態を見ます。
	ER信号を常にON	ER信号を常にONとみなします。

### ④ DR (DSR) 信号制御

機能	DR信号の制御方式を選択します。 DR信号は本商品が動作準備できているかどうかをデータ端末に知らせる信号です。	
パラメータ	常にON (初期値)	DR信号をER ON時には、常にONにします。
	回線接続中ON	DR信号を回線接続中だけONにします。

### ⑤ リザルトコード有無

機能	リザルトコードを送出するかどうかを選択します。	
パラメータ	送出する (初期値)	リザルトコードを送出します。
	送出不い	リザルトコードを送出しません。

## 設定ユーティリティで設定を行うには

### ⑥ リザルトコードフォーマット

機能	リザルトコードを英数文字で返すか数字で返すかを選択します。	
パラメータ	英数文字 (初期値)	リザルトコードを英数文字で表示します。
	数字	リザルトコードを数字で表示します。

### ⑦ リザルトコードセット

機能	リザルトコードセットを選択します。(●P143)	
パラメータ	基本コードセット	基本コードセットをリザルトコードにします。
	拡張コードセット1	拡張コードセット1をリザルトコードにします。
	拡張コードセット2	拡張コードセット2をリザルトコードにします。
	拡張コードセット3 (初期値)	拡張コードセット3をリザルトコードにします。
	拡張コードセット4	拡張コードセット4をリザルトコードにします。

### ⑧ RING表示

機能	RINGの表示形式を選択します。	
パラメータ	RINGのみ	RINGだけ表示します。
	発番号、発サブアドレス付加 (初期値)	RINGの後に相手の発番号、発サブアドレス情報を付加して表示します。

### ⑨ エスケープコードガードタイム

機能	エスケープコードによるエスケープモードへの遷移を行わない時間を設定します。	
パラメータ	n (1~255)	$n \times 0.02$ 秒間エスケープモードへ遷移しません。
	n=50 (初期値)	1秒間エスケープモードへ遷移しません。
	0	エスケープモードへ遷移しません。

### ⑩ ER許容時間

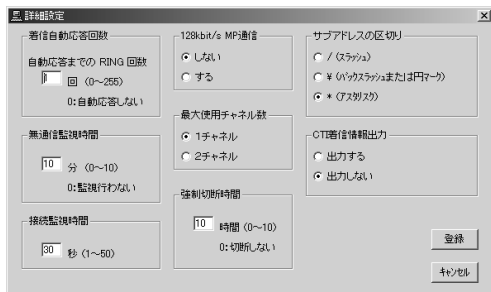
機能	ER信号のON/OFFを確認するために必要な時間を設定します。	
パラメータ	n (1~255)	ER許容時間として、 $n \times 0.02$ 秒設定します。
	n=2 (初期値)	ER許容時間として、0.04秒設定します。

### ⑪ CS遅延時間

機能	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにします。	
パラメータ	n (0~255)	$n \times 0.01$ 秒CS信号を遅延させます。
	n=1 (初期値)	0.01秒CS信号を遅延させます。

## 詳細設定画面

メニュー画面で【詳細設定】をクリックすると表示される画面です。



### ① 着信自動応答回数

機能	自動応答までのRING回数を設定を行います。	
パラメータ	n (1~255)	自動応答までn回待ちます。
	1 (初期値)	自動応答まで1回待ちます。
	0	自動応答しません。

### ② 無通信監視時間

機能	データ端末との間のデータ送受信状態を監視するかしないかを設定します。監視する場合は、監視時間内にデータの送受信がないと回線を切断します。	
パラメータ	n (1~10)	n分間通信が行われないと回線を切断します。
	10 (初期値)	10分間通信が行われないと回線を切断します。
	0	無通信監視をしません。

### ③ 接続監視時間

機能	発信のとき、応答がない場合に切断する時間の設定を行います。	
パラメータ	n (1~50)	n秒間応答を待ち、その間に応答がなければ切断します。
	30 (初期値)	30秒間応答を待ち、その間に応答がなければ切断します。

### ④ 128kbit/sMP通信

機能	128kbit/sマルチリンクPPP通信の可否を選択します。	
パラメータ	しない (初期値)	128kbit/sマルチリンクPPP通信をしません。
	する	128kbit/sマルチリンクPPP通信をします。

## 設定ユーティリティで設定を行うには

### ⑤ 最大使用チャンネル数

機能	使用するチャンネル数を選択します。	
パラメータ	1チャンネル (初期値)	1チャンネル使用します。
	2チャンネル	2チャンネル使用します。

### ⑥ 強制切断時間

機能	通信時間が設定した時間に達すると強制的に通信を切断する時間を設定します。	
パラメータ	n (1~10)	n時間に通信時間が達すると回線を切断します。
	10 (初期値)	通信時間が10時間に達すると回線を切断します。
	0	強制切断しません。

### ⑦ サブアドレスの区切り

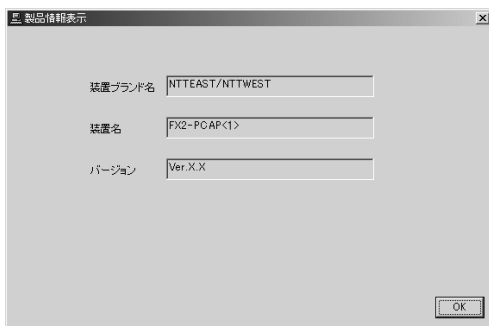
機能	サブアドレスの区切りに使用する記号を選択します。	
パラメータ	/	/ (スラッシュ) を使用します。
	¥	¥ (バックスラッシュまたは円マーク) を使用します。
	* (初期値)	* (アスタリスク) を使用します。

### ⑧ CTI着信情報出力

機能	CTI着信のとき、リザルトコード“RING ANALOG”を送出するかしないかを選択します。	
パラメータ	出力する	CTI着信情報を出力します。
	出力しない (初期値)	CTI着信情報を出力しません。

## 製品情報表示

メニュー画面で【製品情報表示】をクリックすると表示されます。



- ① 装置ブランド名  
本商品の装置ブランドです。
- ② 装置名  
本商品の装置名です。
- ③ バージョン  
本商品のバージョンです。



## バージョンアップ

本商品は、設定ユーティリティを使ってバージョンアップを行うことができます。バージョンアップソフトウェアは、当社の通信機器商品のご案内ホームページにアップロードしていく予定です。

バージョンアップの操作手順を以下に説明します。

ダウンロードの方法は、当社の通信機器商品のご案内ホームページを参照してください。

### 1 設定ユーティリティを起動します。(P122)

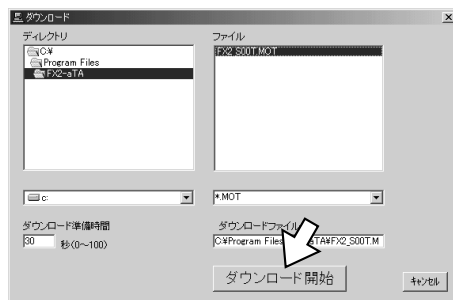
### 2 メニュー画面で [ダウンロード] をクリックします。

次の画面が表示されます。

[ディレクトリ] や [ファイル] を使ってダウンロードし、保存しておいたダウンロードファイルを選択します。

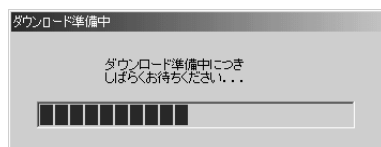
#### ダウンロード準備時間

ダウンロードのとき、COMポートの状態を再確認するまでの時間の設定を行います。



### 3 [ダウンロード開始] をクリックします。

ダウンロードを開始し、次の画面が表示されます。

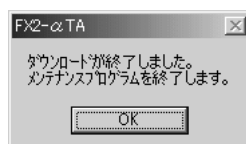


ファイルの読み込みが終わると実行状況を示す、次の画面が表示されます。

なお、お使いのパソコンによっては実行状況を示す画面の表示まで、しばらく時間がかかることがあります。



ダウンロードが終わると、次の画面が表示されます。



1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

## 4 [OK] をクリックします。

設定ユーティリティが終了します。

電話機コードを抜き差しすると通常の動作に戻ります。その他バージョンアップ時の注意事項等については、ホームページを参照してください。



### ワンポイント

- **バージョンアップにかかる時間は**  
本商品とパソコン間の通信速度やお使いになるパソコンの能力によります。
- **バージョンアップ中のランプ表示は**  
バージョンアップ中のACT、SD/RDランプは赤の遅い点滅です。  
バージョンアップが正常に終了すると消灯します。バージョンアップに失敗すると赤の速い点滅になります。



### お知らせ

- ACTランプ、SD/RDランプが赤の速い点滅で表示を行っている場合は、[ダウンロード失敗] の画面を表示しますので、電話機コードの抜き差しを行い、再度設定ユーティリティを起動し、バージョンアップを行ってください。
- ダウンロードにおいて、「ダウンロード準備中」画面から「ATコマンドエラー」画面が表示された場合、またはフリーズを伴う異常終了が発生した場合は、ダウンロード準備時間の設定値を長めにして、再度バージョンアップを行ってください。
- バージョンアップを正常に終了させないと、本商品が動作できなくなります。
- バージョンアップを実行しても、不揮発性メモリに保存されている設定値は変わりません。新しい設定値を不揮発性メモリに保存したい場合は、設定ユーティリティで不揮発性メモリへの保存を行ってください。
- バージョンアップ中は本商品での着信・発信はできません。



### お願い

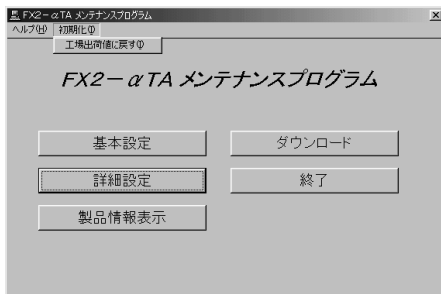
- バージョンアップを行う場合は、他のアプリケーションを起動しないでください。  
他のアプリケーションが起動すると、バージョンアップが正常に行なえない場合があります。
- 設定ユーティリティ動作中にUSBポートからケーブルを抜きますと、パソコンがフリーズしますので抜かないでください。

## 設定ユーティリティその他の機能

本商品の設定値を工場出荷値（お買い求め時の設定値）に戻すには

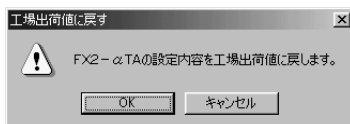
1 メニュー画面のメニューバーにある  
[初期化 (I)] をクリックします。

初期化メニューが表示されます。



2 [工場出荷値に戻す (I)] をクリックします。

次の画面が表示されます。



3 [OK] をクリックします。

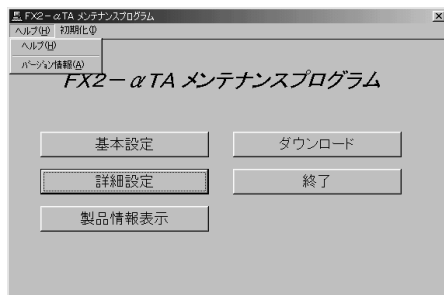
### STOP お願い

- 工場出荷値に戻した場合は、必ず設定ユーティリティ終了時に「はい」をクリックして、設定内容を保存してください。保存しないで、電話機コードを抜いたり、主装置の電源を切ると変更した内容が失われます。

# 設定ユーティリティで設定を行うには

設定ユーティリティのバージョン情報  
を表示するには

- 1 メニュー画面のメニューバーにある  
【ヘルプ (H)】 をクリックします。  
ヘルプメニューが表示されます。



- 2 【バージョン情報 (A)】 をクリック  
します。  
バージョン情報が表示されます。



- 3 【OK】 をクリックします。

設定内容の意味がわからないとき

- 1 メニュー画面のメニューバーにある 【ヘルプ (H)】 をクリックします。  
ヘルプメニューが表示されます。
- 2 【ヘルプ (H)】 をクリックします。  
設定内容の説明が表示されます。

# ルータボックスまたはルータユニットに 接続するには

本商品は、ルータボックスまたはルータユニット経由のインターネット接続に対応しており、ルータボックスまたはルータユニットを利用することで最大4台のパソコンから同時にインターネットに接続することができるようになります。また、OCNエコノミーや、ADSL、CATV等のブロードバンド接続にも対応することができます。

- ルータボックスまたはルータユニットを接続するには、以下の設定をダイヤルアップネットワークに設定してください。

## 全般

接続先の電話番号 : 90  
市外局番とダイヤルのプロパティ : 使用しない

## ネットワーク

詳細オプション : なし  
使用できるネットワークプロトコル : TCP/IP  
TCP/IP設定 : サーバが割り当てたIPアドレス  
サーバが割り当てたネームサーバアドレス  
IPヘッダ圧縮を使う  
リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う

ユーザ名 : なし  
パスワード : なし

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に



## お知らせ

- ルータボックスおよびルータユニットについての情報や使い方などはルータボックスまたはルータユニットの取扱説明書をご覧ください。
- 128KマルチリンクPPPで接続する場合には、同時接続台数が少なくなります。

# CTI機能を利用するには

## CTI発信

本商品のデータポートに接続したパソコンからATコマンド入力により、CTI機能が利用可能な標準電話機の発信を行うことができます。

### 1 パソコンよりATコマンドを入力します。

ATコマンドで入力した相手の方の電話番号で自動的に発信します。ATコマンドで指定した標準電話機の発信音が鳴ります。

### 2 相手の方が出たら、お話しください。

### 3 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

■ CTI発信のATコマンドは以下の通りです。

AT!D内線番号；相手の方の電話番号(着番号/着サブアドレス)	CR
---------------------------------	----

内線番号 : CTI機能が利用可能な標準電話機の内線番号  
 ; (セミコロン) : 区切り子  
 着番号 : 最大32桁  
 着サブアドレス : 最大19桁  
 / : 着番号と着サブアドレスの区切り子「サブアドレスの区切り」設定で設定した区切り子を使用します。(P128)

■ CTI発信後にATコマンドでCTI発信を取り消すことはできません。



#### お知らせ

- CTI発信は同時に2つのCTI機能が利用可能な標準電話機で行うことができます。
- CTI発信中にその標準電話機に電話がかかってきた場合は、電話をかけてきた相手の方には話中音が聞こえます。
- CTI発信に本システムの短縮ダイヤル機能は利用できません。
- CTI発信後、内線転送を行った場合、パソコンへ「NO CARRIER T」で通知する内線番号はCTI発信時の内線番号です。
- CTI発信後にAT!D以外のATコマンドを入力した場合は、パソコンにERRORを通知します。
- CTI発信中にER信号がOFFになった場合は、CTI発信動作を継続します。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、ターミナルソフト等で「AT」を必ず入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく操作しないことがあります。
- ここでは、CTI発信を利用するためのフォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

## ■リザルトコードフォーマットおよび通知条件

### •CONNECTフォーマット

CR	LF	CONNECT_T	内線番号	CR	LF
----	----	-----------	------	----	----

- CR : 0Dh  
 LF : 0Ah  
 \_ (スペース) : 20h  
 内線番号 : CTI機能が利用可能な標準電話機の内線番号  
 通知条件  
 ① 相手応答時

### •NO CARRIERフォーマット

CR	LF	NO_CARRIER_T	内線番号	CR	LF
----	----	--------------	------	----	----

- 通知条件  
 ① 終話時および相手話し中以外で接続不可時  
 ② 通信機器がすべてのBチャンネルを使用している状態で、CTI発信した場合  
 ③ 回線異常状態でのCTI発信時

### •BUSYフォーマット

CR	LF	BUSY_T	内線番号	CR	LF
----	----	--------	------	----	----

- 通知条件  
 ① 相手話し中時

### •ERRORフォーマット

CR	LF	ERROR_T	内線番号	CR	LF
----	----	---------	------	----	----

- 通知条件  
 ① 使用中のCTI機能が利用可能な標準電話機を指定してCTI発信した場合  
 ② 内線番号を指定した後、着番号を指定しないでCTI発信した場合  
 ③ 「最大チャンネル数設定」で設定されている使用チャンネル数以上のCTI発信をした場合

CR	LF	ERROR	CR	LF
----	----	-------	----	----

- 通知条件  
 ① 内線番号と着番号を指定しないでCTI発信をした場合  
 ② 内線番号を指定しないでCTI発信した場合  
 ③ CTI機能が利用可能な標準電話機の内線番号以外でCTI発信した場合、およびCTI発信を取り消した場合  
 ④ CTI発信した通話が終了する前にデータ通信で発信した場合  
 ⑤ 内線番号と着番号に間に「; (区切り子)」を含まないでCTI発信した場合

## CTI機能を利用するには

## CTI情報出力フォーマット

CTI機能が利用可能な標準電話機への着信時、相手の発信者番号（発番号、発サブアドレス）または非通知理由、および相手がかけてきた電話番号（着番号、着サブアドレス）をデータポートに出力することができます。（☛P128）

■ データポートへ出力するデータ形式は以下のとおりです。

CR	LF	RING_ANALOG_発番号/発サブアドレス_着番号/着サブアドレス	CR	LF
----	----	-------------------------------------	----	----

CR : 0Dh  
 LF : 0Ah  
 \_ (スペース) : 20h  
 発番号 : 最大32桁  
 発サブアドレス : 最大19桁  
 着番号 : 最大32桁  
 着サブアドレス : CTI機能が利用可能な標準電話機の電話番号の桁数

■ 非通知理由を受信したときは、発番号・発アドレスの代わりに以下のように非通知理由が出力されます。

CR	LF	RING_ANALOG_非通知理由_着番号/着サブアドレス	CR	LF
----	----	-------------------------------	----	----

非通知理由 P (50h) : ユーザ拒否  
 O (4Fh) : サービス提供不可  
 C (43h) : 公衆電話発信  
 S (53h) : サービス競合



## お知らせ

- 電話網からの着信に対して、相手電話番号をデータポートに出力するには当社とのナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
- データポートへの出力は、データポートが空いているときに限り、1回のみ出力します。
- ダイヤルイン契約をしていない回線およびグローバル着信契約をしているときの契約者回線番号への着信では、出力されません。
- i・ナンバーを使用する場合は、主装置の「DI着信先設定」でi・ナンバー電話番号を設定してください。ここで設定した電話番号を着番号として出力します。電話番号を設定しない場合は出力されません。
- データポートへ出力時、CI信号は変化しません。
- 設定ユーティリティで本サービスを行うように設定したあと、設定ユーティリティを終了する前にCTI機能が利用可能な標準電話機へ着信があると、「ATコマンドエラー」と表示される場合があります。
- 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合は、「非通知理由表示」を行います。
- 本商品をパソコンに接続してから、CTIソフトウェアを起動してください。
- CTIソフトウェアで使用する端末速度を変更した場合は、CTIソフトウェアを再起動してください。（端末速度の不一致により、正常に動作できないことがあります。）
- ここでは、CTIを利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

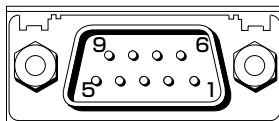


# RS-232Cポートインタフェース

本商品のRS-232Cポートにパソコンなどを接続する場合は、付属品のRS-232Cケーブルを使用してください。RS-232Cポートのインタフェースは次のようになっています。

## ■ コネクタ形状

9ピンコネクタ（オス型）



## ■ RS-232Cポートインタフェースの信号線

ピン番号	JIS	信号方向		名称	機能
		パソコン	本商品		
1	CD	←		キャリア検出	本商品がパソコンにデータ受信を要求していることを示します ON : パソコンにデータ受信を要求します OFF : パソコンにデータ受信を要求しません
2	RD	←		受信データ	本商品からパソコンへ送られるデータです。
3	SD	→		送信データ	パソコンから本商品へ送られるデータです。
4	ER	→		端末通信許可	パソコンの準備ができているかどうかを示します ON : データの授受を行う準備ができていることを示します OFF : データの授受を行う準備ができていないことを示します
5	SG			信号用アース	相互接続回路に基準電位をあたえます
6	DR	←		送信可能状態	本商品の動作準備ができているかどうかを示します ON : データの授受を行う準備ができています OFF : データの授受を行う準備ができていません
7	RS	→		送信要求	データ送信許可を要求します ON : データ送信許可を要求します OFF : データ送信許可を要求しません
8	CS	←		送信許可	データ送信可能かどうかを示します ON : データ送信が可能です OFF : データ送信をしてはいけません
9	CI	←		着信検出	パソコンに着信していることを示します ON : 着信があります OFF : 着信がありません

## ■ 通信仕様

同期方式	非同期
データ長	8 bit
パリティビット	なし
ストップビット	1 bit
通信速度	9.6/19.2/38.4/57.6/115.2/230.4 (kbit/s)

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

# 設定記入シート

保守のための資料として、設定内容を記入し大切に保管してください。  
下線は初期値です。

電話番号 ( )  
商品名 (FXII αTA )

## ■ 内線番号設定スイッチ



内線番号 ( )

## ■ 基本設定

- |                |                                      |  |
|----------------|--------------------------------------|--|
| キャリア(CD)信号制御   | <input type="radio"/> 常にON           | <input type="radio"/> <u>回線接続中ON</u>       |
| ER信号制御         | <input type="radio"/> <u>ER信号を見る</u> | <input type="radio"/> ER信号を常にON            |
| DR(DSR)信号制御    | <input type="radio"/> 常にON           | <input type="radio"/> 回線接続中ON              |
| リザルトコード有無      | <input type="radio"/> <u>送出する</u>    | <input type="radio"/> 送出しない                |
| リザルトコードフォーマット  | <input type="radio"/> <u>英数文字</u>    | <input type="radio"/> 数字                   |
| リザルトコードセット     | <input type="radio"/> 基本コードセット       | <input type="radio"/> 拡張コードセット1            |
|                | <input type="radio"/> 拡張コードセット2      | <input type="radio"/> <u>拡張コードセット3</u>     |
|                | <input type="radio"/> 拡張コードセット4      |  |
| エスケープコードガードタイム | ( )×0.02秒                            | <u>50</u> 0:エスケープモードに遷移しない                 |
| ER許容時間         | ( )×0.02秒                            | <u>2</u>                                   |
| CS遅延時間         | ( )×0.01秒                            | <u>1</u>                                   |
| RING表示         | <input type="radio"/> RINGのみ         | <input type="radio"/> <u>発番号、発サブアドレス付加</u> |
| エコー指定          | <input type="radio"/> <u>あり</u>      | <input type="radio"/> なし                   |

## ■ 詳細設定

- |                |                                    |   |           |
|----------------|------------------------------------|---|-----------|
| 着信自動応答回数       | ( )回                               | <u>1回</u>                                 | 0:自動応答しない |
| 無通信監視時間        | ( )分                               | <u>10分</u>                                | 0:監視行わない  |
| 接続監視時間         | ( )秒                               | <u>30秒</u>                                |           |
| 128kbit/s MP通信 | <input type="radio"/> <u>しない</u>   | <input type="radio"/> する                  |           |
| 最大使用チャネル数      | <input type="radio"/> <u>1チャネル</u> | <input type="radio"/> 2チャネル               |           |
| 強制切断時間         | ( )時間                              | <u>10時間</u>                               | 0:強制切断しない |
| サブアドレスの区切り     | <input type="radio"/> / (スラッシュ)    | <input type="radio"/> ¥ (バックスラッシュまたは円マーク) |           |
|                | <input type="radio"/> * (アスタリスク)   |   |           |
| CTI着信情報出力      | <input type="radio"/> 出力する         | <input type="radio"/> <u>出力しない</u>        |           |

# ATコマンド

本商品で利用できるATコマンドの一覧です。  
ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデム制御用コマンドです。

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲
着信応答	機能	ATA	なし
	入力例	「RING」が表示されているときに、本コマンドを入力すると応答します。	
コマンドの再実行	機能	A/	なし
	入力例	コマンドバッファ内に残っているコマンドを再実行します。	
ダイヤル発信	機能	ATD	なし
	入力例	発信して相手を呼び出します。アドレスとサブアドレスの区切りはSレジスタの103 (●P143) で設定した識別子です。パラメータには英数字が利用できます。	
エコー指定	機能	ATE	n=0: なし n=1: あり
	入力例	エコーバックするかしないかを設定します。	
切断	機能	ATH	なし
	入力例	通信を切断します。	
製品情報	機能	ATI	n=2: 装置名 n=3: バージョン n=4: 装置ブランド名 (NTTEAST/NTTWEST)
	入力例	装置名、バージョン、装置ブランド名を表示します。	
データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す	機能	ATO	なし
	入力例	エスケープコマンド (+++) を入力した後のオンラインコマンドモード状態から通信状態に戻します。	
リザルトコード有無	機能	ATQ	n=0: 送出する n=1: 送出しない
	入力例	リザルトコードを送出するの送出しないのを設定します。	
Sレジスタポイントの表示・変更	機能	(表示) ATSn? (変更) ATSn=m	Sレジスタ仕様 (●P143)
	入力例	Sレジスタポイントの示す内容の表示と変更を行います。	
自動速度検出有無	機能	(表示) ATU11? (変更) ATU11=n	n=0: 自動速度検出なし n=1: 自動速度検出あり
	入力例	自動速度検出をするかしないかを設定します。	

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考に

## ATコマンド

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲
自動速度検出無時 固定速度設定	(表示) ATU12? (変更) ATU12=n	1	n=1 : 9600bit/s n=3 : 19200bit/s n=4 : 38400bit/s n=5 : 57600bit/s n=6 : 115200bit/s n=7 : 230400bit/s
	機能	自動速度検出無時の本商品とパソコン間の通信速度を設定します。	
	入力例	ATU12=1	
リザルトコード フォーマット	ATVn	1	n=0 : 数字形式 n=1 : 英数字形式
	機能	リザルトコードを数字形式で返すか、英数字形式で返すかを設定します。(リザルトコード一覧 ●P143)	
	入力例	ATV1	
RING表示	ATWn	2	n=0 : RINGのみ n=2 : RINGのあとに相手の発番号、 発サブアドレスを表示する。
	機能	リザルトコード「RING」の表示形式を設定します。	
	入力例	ATWO	
リザルトコードセット	ATXn	3	n=0 : 基本コードセット n=1 : 拡張コードセット1 n=2 : 拡張コードセット2 n=3 : 拡張コードセット3 n=4 : 拡張コードセット4
	機能	リザルトコードセットを設定します。(リザルトコード一覧 ●P143)	
	入力例	ATX0	
設定値の初期化	ATZ	なし	なし
	機能	全ての設定を初期化します。回線が接続されていれば、切断します。	
	入力例	ATZ	
CD信号制御	AT&Cn	1	n=0 : ER ON時は常にCD ON n=1 : 通信中は常にCD ON
	機能	CD信号の制御方法を設定します。	
	入力例	AT&CO	
ER信号制御	AT&Dn	0	n=0 : ER信号を見る n=1 : ER信号を常にON
	機能	ER信号の制御方法を設定します。	
	入力例	AT&DO	
最大チャンネル数設定	AT&Qn	0	n=0 : 1チャンネル使用 n=1 : 2チャンネル使用
	機能	最大使用チャンネル数を設定します。	
	入力例	AT&Q0	

データ定義	ATコマンド名称	初期値	データ範囲
DR信号制御	AT&Sn	0	n=0 : ER ON時は常にDR ON n=1 : 通信中は常にDR ON
	機能 入力例	DR信号の制御方法を設定します。 AT&S0	
設定表示	AT¥Sn	なし	¥Sのパラメータ詳細 (●P142)
	機能 入力例	データポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。 AT¥S0	
データポートの 設定・表示	(表示) AT\$M (設定) AT\$Mn=m	—	\$Mのパラメータ詳細 (●P142)
	機能 入力例	データポートの設定と表示をします。 AT\$M	
メモリへの記憶	AT\$S	なし	なし
	機能 入力例	設定内容を不揮発性メモリに記憶します。 AT\$S	
CTI発信	(設定) AT!Dn:mop	なし	n =発信する内線番号 m=着番号 : 1~32桁 o =サブアドレスの区切り p =着サブアドレス : 1~19桁
	機能 入力例	CTI機能としてパソコンから発信操作を行います。 発信する内線番号と着番号の区切りは、; (セミコロン) です。 着番号と着アドレスの区切りはSレジスタの103で設定した識別子です。 AT!D1;123456789*9999	
エスケープ	+++	なし	なし
	機能 入力例	データ通信中に回線を切断せずにコマンドモードに戻し、コマンド入力をできるようにします。 +++	
CTI着信 情報出力	(表示) AT\$D12? (設定) AT\$D12=n	9	n =0, 1, 2 : 表示する n =9 : 表示しない
	機能 入力例	CTI着信時、パソコンにリザルトコード「RING ANLOG」を表示させるか、表示させないかを設定します。 AT\$D12=9	



## お知らせ

- ATコマンドの文字列は、英大文字と英大文字または英小文字と英小文字の組み合わせが使えます。(例 : AT, at)
  - ATU11コマンドとATU12コマンドは、AT\$Sコマンドを実行後、電話機コードを抜いて再度電話機コードを内線バス接続コネクタ(バス)に差し込むことにより有効となります。
  - ATU11コマンドとATU12コマンドにより、自動速度検出を固定速度で使用されるときは、ご使用のパソコンの端末速度以上に設定しないでください。設定すると使用できなくなる場合があります。ATU11コマンドとATU12コマンドは、ATZコマンド(設定値の初期化)を実行しても、初期化されません。
  - AT&Q1に変更すると、設定値が不揮発性メモリに書き込まれ、自己診断が始まります。自己診断中はPWRランプが遅く点滅し、自己診断が終わるとPWRランプが点灯になります。自己診断中は、ATコマンドの入力ができません。
- また、USBポートからターミナルソフトなどで本商品の速度を変更した場合には、パソコンがフリーズしたり、例外エラー等が発生することがあります。そのような場合には、パソコンを再起動させてください。

1 お使いになる前に

2 ドライバのインストール

3 インターネットへ接続する

4 設定ユーティリティの利用

5 便利な機能

6 ご参考

## ¥Sのパラメータ詳細

パラメータ値(n)	表示項目
0	エコー指定、CD信号制御、ER信号制御、マルチリンク通信、最大使用チャネル数、DR信号制御
1	Sレジスタ名、Sレジスタの内容
2	リザルトコードの有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態、CTI発信通知

## \$Mのパラメータ詳細

パラメータ値(n)	設定項目	パラメータ値(m)	設定例
1	マルチリンク通信	0:しない(初期値) 1:する	AT\$M1=1

## リザルトコード一覧

数字形式	英数字形式	内 容	リザルトコードセット				
			基本	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK	コマンド正常終了	○	○	○	○	○
1	CONNECT	相手端末との接続完了	○	—	—	—	—
2	RING	着信通知	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	回線切断	○	○	○	○	○
4	ERROR	不正コマンド	○	○	○	○	○
7	BUSY	相手通信中	—	—	—	○	○
19	CONNECT 64000	64000bit/sで接続完了	—	○	○	○	○
20	CONNECT 128000	128000bit/sで接続完了	—	○	○	○	○
—	CONNECT T	CTI発信後、相手応答時	○	○	○	○	○
—	NO CARRIER T	CTI回線切断	○	○	○	○	○
—	BUSY T	CTI発信での相手通話中	○	○	○	○	○
—	ERROR T	CTI発信での不正コマンド	○	○	○	○	○
—	RING ANALOG	CTI着信通知	○	○	○	○	○

## Sレジスタ仕様

番号 (n)	機 能	初期値	単 位	意 味 (m)
0	着信自動応答	1	回	0：自動応答なし 1～255：指定回数の呼び出し後に自動応答
1	RING送出回数表示	0	回	0～255：「RING」を送出した回数を表示する。読み出し専用。
7	接続監視時間	30	秒	1～50：発信のとき、設定時間内に応答がない場合切断する。
11	無通信監視タイマ	10	分	0：切断しない 1～10：監視設定時間内に無通信の場合切断する。
12	ガードタイム	50	0.02秒	0：エスケープモードへの遷移をしない 1～255：エスケープシーケンスのガードタイム。
22	ER許容時間	2	0.02秒	1～255：ER信号のON/OFFの確認に必要な時間を設定する。
26	CS遅延時間	1	0.01秒	0～255：RS信号がOFFからONになるとき、ここでの設定分だけCS信号を遅延させてからONにする。
27	強制切断タイマ	10	時間	0：切断しない 1～10：通信時間が設定時間に達すると強制的に切断される。
103	サブアドレス識別子	2	—	0：／〈スラッシュ〉 1：¥ (＼) 〈円マークまたはバックスラッシュ〉 2：* 〈アスタリスク〉

## 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらときは、修理に出す前に次の点をご確認ください。

## ●基本的な使い方

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
動作しない	接続方法が間違っている	正しく接続してください	●P13
ACTランプ、SD/RDランプが赤くが点滅している	バージョンアップ時正常に終了できなかった	再度バージョンアップ操作を行ってください	●P129
本体があたたかい	内部には発熱するところがあり、多少温度が上がる	故障ではありません	—

## ●パソコン接続

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
設定ユーティリティが開けない インターネットに接続できない	RS-232Cポートをご利用のとき本商品とパソコンの端末速度が合っていない	パソコンの通信速度設定を確認してください	—
	USBポートをご利用のときUSBドライバをインストールしていない	USBドライバをインストールしてください	●P27、43、53
	本商品とパソコンが接続されていない	本商品とパソコンの接続を確認してください	—
	インターネット接続時に、接続の設定が正しく設定されていない	「インターネットにうまく接続できないときのチェックポイント」を参照してください	●P151
USBポートが使用できない	他のアプリケーションが本商品を使用している	他のアプリケーションが本商品を使用しているときは、その使用を終了してから操作してください	—
	USBドライバをインストールしていない	USBドライバをインストールしてください	●P27、43、53
	OSのバージョンがUSBに対応していない	使用しているパソコンのOSのバージョンを確認してください	●P19
USBケーブルが正しく接続されていない	USBケーブルが正しく接続されていない	USBケーブルの接続を確認してください	●P13
	USBドライバをインストールしたが動作しない (Windows® Me/98SE/98/2000の「デバイスマネージャ」画面のUSBドライバに「！」が付いている)	USBドライバを正しく設定してください	●P27、43、53
RS-232Cポートが使用できない	USBポートが接続されている	本商品からUSBケーブルをはずしてください	●P13
	RS-232Cポートをご利用のとき本商品とパソコンの端末速度が合っていない	パソコンの通信速度設定を確認してください	—



### ●本商品の機能について

Q.自己診断機能はありますか。

A.あります。本商品に電源が供給されると自己診断が自動的に行われます。この間PWRランプが緑色で遅い点滅をします。自己診断が終了すると、PWRランプが点灯したままになります。

Q.自己診断時に異常が検出された場合、どのように対処したらいいですか。

A.下記の表にしたがって対処してください。

ACTランプが赤で点灯	RAM異常のため装置の交換が必要です。当社のサービス取扱所にお問い合わせください。
ACT、SD/RDランプが赤で速い点滅	本商品の異常が考えられます。当社のサービス取扱所にお問い合わせください。
PWRランプが緑で遅い点滅 (PWRランプが点灯にならない)	本商品の異常が考えられます。当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

### ●接続について

Q.RS-232Cポートへはどのようなパソコンが接続できますか。

A.AT互換機が接続できます。

Q.USBポートへはどのようなパソコンが接続できますか？

A.Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98またはWindows® 2000をインストールしたパソコンが接続できます。

### ●停電時について

Q.本商品は停電時に機能しますか。

A.本商品は主装置から電源の供給を受けています。主装置が停電で機能しない場合は、本商品も機能しません。

### ●設定ユーティリティについて

Q.設定ユーティリティはどんなパソコンで使用できますか。

A.Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 95、Windows® 2000およびWindows NT® 4.0の動作するパソコンで使用できます。

### ●その他について

Q.本商品のバージョンアップはできますか。

A.できます。129ページをご覧ください。

**●OS関連**

Q.添付されているCD-ROM内の設定ユーティリティ、モデム定義ファイルが対応しているOSの種類は？

A.Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 95、Windows® 2000およびWindows NT® 4.0に対応しています。  
(上記以外のOSには対応していません)

Q.添付されているCD-ROM内の設定ユーティリティ、モデム定義ファイルはWindows® 英語版OSに対応していますか？

A.英語版OSには対応していません。

Q.USBポートでデータ通信をしたいのですが？

A.Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000がインストールされていることが必要です。

**●設置／接続**

Q.購入時にRS-232CケーブルやUSBケーブルは添付されていますか？

A.パソコン接続のためのケーブル類としてRS-232Cケーブル、USBケーブルがそれぞれ1本添付されています。

**●ランプ表示**

Q.インターネットに接続していますが本商品のERランプが点灯しています。これは正常でしょうか？

A.ERランプのERはデータ端末レディの意味であり、パソコンが通信開始の準備ができていることを表しますので正常動作です。

## ●データポート

Q.本商品を2台対向でパソコン通信を行おうとしていますが、うまく接続できません。なにが原因でしょうか？

A.パソコン通信ソフトは非同期専用ではありませんか。本商品は非同期／同期PPP変換、128KマルチリンクPPPでの通信が可能です。非同期用のパソコン通信ソフトでは接続できません。

Q.128KマルチリンクPPPでプロバイダに接続できません。非同期／同期PPP変換(64 kbit/s)では接続できます。なぜでしょうか？

A.以下の点をご確認ください。

- ①加入されているプロバイダは128KマルチリンクPPPに対応していますか？また128KマルチリンクPPP対応のアクセスポイントの電話番号に接続されていますか。
- ②モデム定義ファイルは [FX2-PCAP (MP128K)] または [FX2-PCAP (USB MP128K)] を選択されていますか。
- ③最大使用チャンネル数は2チャンネル設定になっていますか。

Q.128KマルチリンクPPP接続時は料金が高くなりますか？

A.非同期／同期PPP変換の倍の料金が必要です。ただしINSテレホーダイご利用の場合は、INSテレホーダイによる料金となります。

Q.Windows® パソコンの「モデムのプロパティ」→「詳細情報」を参照すると「AT15～AT+FCLASS=?」が「ERROR」表示となりますが正常でしょうか？

A.正常です。本商品は「AT15～AT+FCLASS=?」はサポートしておりませんので「ERROR」をパソコンに返します。

Q.128KマルチリンクPPPは利用しないように設定できますか？

A.モデム定義ファイルとして [FX2-PCAP (PPP64K)] または [FX2-PCAP (USB PPP64K)] を選択すれば、128KマルチリンクPPP接続はできなくなります。

Q.ATコマンドで発信する場合、アドレスとサブアドレスの区切り子は何でしょうか？

A.設定ユーティリティの「詳細画面」で、/、¥、\*を選択することができます。

Q.フリーウェア利用時のダイヤルアップ初期化コマンドを教えてください？

A.非同期／同期PPP変換(同期: 64 kbit/s) ATQOV1&D0\$M1=0  
128KマルチリンクPPP(同期: 128 kbit/s) ATQOV1&D0\$M1=1  
※0は数字です。

**●バージョンアップ／設定ユーティリティ／モデム定義ファイル**

**Q.ファームウェアバージョンを確認するにはどうすればよいですか？**

A.本商品に添付されているCD-ROMの中の設定ユーティリティをパソコンにインストールして、設定ユーティリティメインメニュー（起動直後の画面）の「製品情報表示」の「バージョン」にて確認することができます。また、本商品のファームウェアバージョンアップにともない設定ユーティリティもバージョンアップされることがあります。その場合の設定ユーティリティのバージョン確認は設定ユーティリティの「ヘルプ」の「バージョン情報」にて確認することができます。

**Q.ファームウェアバージョンアップを行う際、設定内容がクリアされることはないでしょうか？**

A.バージョンアップを行う前の状態で保持されます。

**Q.ユーティリティをアンインストールしたいのですが？**

A.コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

なお、USBドライバ、モデム定義ファイルは削除されません。

## ■ USBポートに関するQ&A

### ●インストールに関して

Q.USBポートを使用できるパソコンのOSは何ですか。

A.Windows® Me、Windows®98SE、Windows®98、Windows®2000です。

### ●データ通信利用時や、設定ユーティリティ利用時

Q.通信ソフトウェアや本商品の設定ユーティリティ動作中にUSBケーブルの抜き差しや電話機コードの抜き差しを行ったら、パソコンがフリーズしたのですが。

A.お使いのパソコンによっては、通信ソフトウェアの動作中や、設定ユーティリティの動作中に以下のようなことを行うとパソコンがフリーズしたり、例外エラー等が発生することがあります。そのような場合にはパソコンを再起動してください。

- ・USBケーブルの抜き差し（パソコンのUSBポート、本商品のUSBポートどちらでも）
- ・本商品の電源をOFF→ONしたとき（電話機コードの抜き差し）

Q.パソコンのスタンバイ、サスペンド機能が動作したあと、データ通信（インターネット接続）や設定ユーティリティの起動ができなくなるのですが。

A.パソコンのスタンバイモード、サスペンド機能を使用しないでください。

また、パソコンの省電力機能によりUSBの使用が制限されることがありますので、コントロールパネルの [パワーマネジメント] または [電源の管理]などで、パソコンの省電力機能を停止させてください。

さらに、パソコンによっては起動時のBIOS設定にて省電力の設定を行うものもあります。ご使用になっているパソコンの取扱説明書を参照して、省電力機能を停止させてください。

Q.インターネット接続を切断したとき、パソコンがフリーズしたのですが。

A.お使いのパソコンによっては、データの送受信中に切断すると、まれにパソコンがフリーズしたり、例外エラー等が発生することがあります。

そのような場合には、パソコンを再起動してください。

**●その他**

**Q.パソコン動作中にUSBケーブルを抜き差しするとパソコンがフリーズしたり、例外エラーが発生する。**

A.お使いになっているパソコンの環境によっては、パソコン動作中にUSBケーブルの抜き差しや、本商品の電源OFF→ON（電話機コードの抜き差し）を行うと、パソコンがフリーズしたり、例外エラーが発生することがありますのでご注意ください。  
その場合はパソコンを再起動してください。

**Q.他のUSBデバイスと同時に使用できますか。**

A.1台のパソコンに本商品と他のUSBデバイスを同時に接続した場合、両デバイスが1つのUSBポートを共用することになります。個々のデバイスの特性、制御方法の違いにより、お互いが影響しあい、本商品の通信速度が遅くなったり使用できなくなる場合があります。  
このような場合には、他のUSBデバイスと同時に接続しないようにしてください。

**Q.Windows® Me、Windows® 98SE、Windows® 98、Windows® 2000のパソコンで、USBポートが使用できないのですが。**

A.パソコンによってはUSBポートがご利用になれない場合があります。詳しくは、パソコンメーカーにお問い合わせください。

**Q.USBポートを使用する場合のCOMポートはどこですか。**

A.一般的にはCOMポート3以降です。  
COMポートはパソコンのOSが自動的に決定します。パソコンに接続する周辺機器によっては使用するCOMポートが重複し、USBポートが使用できない場合があります。  
このような場合には周辺機器の接続を外し、周辺機器用に使用するドライバ類を削除してください。

**Q.本商品のERランプが点灯したままになってしまったのですが。**

A.回線を切断するのに失敗するなどして、本商品のERランプが点灯したままになっている場合は、パソコンを再起動してください。  
また、Windows® 2000でUSBポートを接続している場合、USBドライバの仕様上通信後、ERランプが点灯したままになります。

**Q.Windows® 2000を使用し、ダイヤルアップで発信（通信）して切断すると、設定ユーティリティの詳細設定「128kbit/s MP通信の設定」が「MP通信しない」になってしまうのですが。**

A.Windows® 2000の仕様上、設定は「MP通信しない」になりますが、通信動作への影響はありません。

# インターネットにうまく接続できない ときのチェックポイント

## ●インターネットにうまく接続できないときは

インターネットに接続できないときの、主なチェックポイントです。「故障かな?と思ったら」(取扱説明書)と合わせてご確認ください。

### ●アクセスポイントの電話番号

電話回線用(モデム用)や非同期V.110のアクセスポイントでは通信できません。利用する通信モードのアクセスポイントに設定されているか確認してください。

### ●ドメインネームサーバのIPアドレス

「DNS項目にありません」「このサーバーは見つかりません」などの通知が表示される場合は、DNS(ドメインネームサーバ)のIPアドレスやドメイン名の設定が間違っていないか確認してください。

### ●ユーザ名、パスワード

本商品のACTランプが点灯したあとに切断されるような場合は、ユーザ名(ユーザID、PPPログイン名などと呼ばれることもあります)、パスワードが正しく設定されているか確認してください。大文字、小文字の違いを正しく設定しているか確認してください。

### ●インターネットにつながらない

- USBポートをご利用の場合  
USBドライバをインストールしていない場合はインストールしてください。(▶P27、43、53)
- RS-232Cポートをご利用の場合  
本商品とパソコンの通信速度が一致していないことが考えられますので、パソコンの通信速度の設定を確認してください。

## ●Q&A

**Q. 接続可能なインターネットサービスプロバイダの条件には何があげられますか。**

A. 同期(64 kbit/s)、またはMP(128 kbit/s)のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダであれば接続可能です。非同期V.110のアクセスポイントには接続できません。

**Q. フロー制御は何をサポートしていますか。**

A. RS/CSによるハードフローをサポートしています。

**Q. データ通信の接続手順は何ですか。**

A. ATコマンドです。V.25bisなどには対応していません。

**Q. データ通信のMP(PPP Multilink Protocol)には対応していますか。**

A. 対応しています。MP方式のアクセスポイントを持つインターネットサービスプロバイダに接続するときは、B1、B2チャンネル2本を使用して128 kbit/sのデータ通信ができます。

**Q. ターミナルソフトでATと入力したがOKが返ってこないのですが。**

- A. 次の点を確認してください。
- ATの次にリターンキーを押しましたか。
  - aTやAtと入力していませんか。

# インターネットにうまく接続できない ときのチェックポイント

- ・漢字変換により全角文字になっていませんか。
- ・RS-232Cポートをご利用の場合
  - ・RS-232Cケーブルは正しく接続されていますか。
  - ・RS-232Cケーブルは付属品（ストレートタイプ）で接続していますか。
- ・USBポートをご利用の場合
  - ・USBケーブルは正しく接続されていますか。
  - ・USBドライバをインストールしましたか。

## Q.ATコマンドによる設定は1コマンドずつしか記述できませんか。

A.ATコマンドは連続して記述できます。

## Q.インターネット接続のための設定は。

A.接続先のインターネットサービスプロバイダの指定に従った設定が必要です。一般的には、DNSサーバの設定、通信モード（同期64 kbit/sまたはMP128 kbit/s）、アクセスポイントの電話番号、ユーザ名およびパスワードの設定が必要です。

## Q.DNSとは何ですか。

A.Domain Name Serviceの略で、数値（例えば111.11.2.3など）ではわかりにくい端末のアドレス体系を、人間にわかりやすい文字列（ドメインネーム：例えばwww.ntt.co.jpなど）で表現できるようにするものです。

## Q.Windows® 98またはWindows® 95を利用していますが、インターネット接続が遅いのですが。

A.Windows® 98またはWindows® 95をご利用の場合は、次の点を確認してください。

- ・Windows® 98またはWindows® 95の「サーバーの種類」の設定画面で、[ネットワークへのログオン] がチェックしてある場合は、チェックを外し、[TCP/IP] のみチェックしてください。（▶P85）



## 数字／アルファベット／記号

128KマルチリンクPPP	16
128KマルチリンクPPPの モデム定義ファイルをインストールする	51
ACTランプ	10, 12
ATコマンド	139
COMドライバをインストールする	27
CTI機能を利用する	134
CTI発信	134
CTI情報出力フォーマット	136
ERランプ	10, 12
OSを確認する	19
PPPモジュール	77
PWRランプ	10, 12
Q&A	145
RS-232Cケーブル	9
RS-232Cポートに接続する	
Windows® Me	20
Windows® 98SE/98	20
Windows® 95	20
Windows® 2000	59
WindowsNT® 4.0	65
RS-232Cポートを使う	
Windows® Me/98SE/98/95	20
Windows® 2000	59
WindowsNT® 4.0	65
RS-232Cポートインターフェース	137
RS-232Cポートコネクタ	10
SD/RDランプ	10, 12
Sレジスタ仕様	143
TCP/IPを確認する	80
TCP/IPソフトウェア	77
TCP/IPの設定を行う	
Windows® 98SE/98/95	84
Windows® Me	99
Windows® 2000	108
Windows NT® 4.0	115
TCP/IPをインストールする	90
USBケーブル	9
USBドライバが使用できないとき	72

USBドライバのインストール	
Windows® 98SE/98	33
Windows® Me	43
Windows® 2000	53
USBドライバを再インストールする	76
USBポートを使う	
Windows® 98SE/98	27
Windows® Me	43
Windows® 2000	53
USBポートコネクタ	10
¥Sのパラメータ詳細	142
\$Mのパラメータ詳細	142

## 五十音

## 【ア行】

インターネットにうまく接続できないときの チェックポイント	151
インターネットに接続する	
Windows® 98SE/98/95	93
Windows® Me	102
Windows® 2000	111
WindowsNT® 4.0	117
インターネットへ接続するまでの手順	18

## 【カ行】

各部の名前	10
画面の見方	124
基本設定画面	125
強制切断	17
故障かな?と思ったら	144

## 【サ行】

- 自己診断……………14
- 仕様……………155
- 詳細設定画面……………127
- 製品情報表示……………128
- 接続先の設定を行う
  - Windows®98SE/98/95……………81
  - Windows®Me……………96
  - Windows®2000……………104
  - Windows NT®4.0……………114
- 接続する……………13
- 接続の手順……………13
- 設定記入シート……………138
- 設定の流れ……………78, 96, 104
- 設定ユーティリティ
  - インストールする……………119
  - アンインストールする……………119
- 設定ユーティリティで設定を行う……………122
- セットを確認する……………9

## 【タ行】

- ダイヤルネットワークを
  - インストールする……………87
- ダイヤルアップネットワークを確認する……………78
- 通信機能……………15
- 電子メールソフト……………77

## 【ナ行】

- 内線バス接続コネクタ (バス)……………10

## 【ハ行】

- バージョンアップ……………129
- パソコンを接続する……………13
- パソコンとの接続……………19
- パソコンのOSと使用できる
  - データポート……………19
- 非同期/同期PPP変換……………15
- 付属品……………9
- ブラウザ……………77
- 保守サービスのご案内……………156
- 本体……………9

## 【マ行】

- 無通信監視……………17
- モデム定義ファイルをインストールする
  - Windows®95……………21
  - Windows®98SE/98……………21, 38
  - Windows®Me……………47
  - Windows®2000……………60
  - WindowsNT®4.0……………66

## 【ラ行】

- ランプ
  - ACTランプ……………10, 12
  - ERランプ……………10, 12
  - PWRランプ……………10, 12
  - SD/RDランプ……………10, 12
- リザルトコード一覧……………143
- ルータボックス・ルータユニットに
  - 接続する……………133

## ■仕 様

回線	方式	αバス		
	コネクタ形態	6ピンモジュラジャック		
RS-232C ポート	通信速度 (kbit/s)	同 期	64/128	
	電気的条件	ITU-T勧告 V.28準拠		
	論理的条件	ITU-T勧告 V.24準拠		
	物理的条件	JIS X5101準拠 D-SUB9ピンコネクタ		
	端末速度 (kbit/s)	非同期	9.6/19.2(38.4/57.6/115.2/230.4) ( )内はV.28規格外	
	接続手順	拡張ATコマンド		
	フロー制御	RS-CS		
USB ポート	電気的条件 論理的条件 物理的条件	Universal Serial Bus Specification Revision 1.1 準拠		
	端末速度 (Mbit/s)	非同期	12	
給電方法	主装置からのバス給電			
外形寸法	約164mm(幅)×約118mm(奥行)×約38mm(高さ)			
質量	約0.3kg			
使用条件	温度5~35℃ 湿度45~85% RH (結露のないこと)			

1  
お使いになる前に2  
ドライバの  
インストール3  
接続する  
インターネットへ4  
設定ユーティリティの  
利用5  
便利な機能6  
ご参考に

# 保守サービスのご案内

## ■保守サービスのご案内

### ●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたします。「保証書」は主装置等に添付されています。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

### ●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしております。

### 保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうちがいのための費用および修理に要する技術的費用部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうちがいのための費用が不要になります。

### ●故障の場合

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

### ●お話し中調べ

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

### ●その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：☎0120-109217

トークニイナ  
電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

### ●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しております。



この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

---

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

**当社ホームページ**：<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>  
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

---

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

**NTT通信機器お取扱相談センタ**： **0120-109217** トリークミイナ

電話番号をお間違えにならないように、ご注意ください。

---

©2001 NTEAST・NTTWEST



本2234-1 (2001.11)  
FX2-PCAPTリセツ <1>